

# 史跡百舌鳥古墳群保存活用計画（案）

令和5年 月

堺 市

## 例言

- 1 本書は大阪府堺市に所在する史跡百舌鳥古墳群の保存活用計画書である。
- 2 本計画は「堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会規則」に基づき設置された堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会による協議、検討によりまとめられたものをもとに作成した。
- 3 本計画に伴う調査及び計画の策定は、堺市文化観光局文化部が担当した。  
また、本計画策定に関する業務の一部を株式会社総合計画機構に委託した。
- 4 本計画では史跡指定された 19 基の古墳を「史跡百舌鳥古墳群」、史跡だけでなく陵墓や未指定古墳なども含む場合は「百舌鳥古墳群」を用いる。
- 5 本計画の策定にあたり、史跡土地所有者をはじめ、以下の諸機関にご指導とご協力をいただいた。記して厚く御礼を申し上げる。  
文化庁文化財第二課、宮内庁書陵部陵墓課、大阪府教育庁文化財保護課、百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議事務局、羽曳野市教育委員会事務局世界遺産・文化財総合管理室文化財課・世界遺産課、藤井寺市教育委員会事務局教育部文化財保護課
- 6 本書で使用する挿図は、地形や工作物などの現況の概要を示すものであり、土地境界、建築位置を厳密に示すものではない。

# 史跡百舌鳥古墳群保存活用計画（案）

## 目 次

例言

はじめに . . . . . 1

第1章 沿革と目的 . . . . . 3

- 第1節 計画策定の沿革
- 第2節 計画策定の目的
- 第3節 計画の対象範囲
- 第4節 委員会の設置と策定経過
  - (1) 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会の設置
  - (2) 計画策定の経過
- 第5節 他の計画との関係
  - (1) 上位計画
  - (2) 関連計画
- 第6節 計画の実施

第2章 史跡の概要 . . . . . 9

- 第1節 指定に至る経緯
- 第2節 指定の状況
  - (1) 指定告示
  - (2) 指定説明文とその範囲
  - (3) 指定に至る調査成果
  - (4) 指定地の状況
- 第3節 関連法規制
- 第4節 世界遺産百舌鳥・古市古墳群の概要

第3章 史跡の本質的価値 . . . . . 116

- 第1節 史跡の本質的価値の明示
- 第2節 構成要素の特定
  - (1) 史跡の構成要素
  - (2) 指定地の周辺地域を構成する諸要素

第4章 史跡の現状と課題 . . . . . 136

- 第1節 保存（保存管理）
  - (1) 百舌鳥古墳群の範囲と史跡指定範囲
  - (2) 墳丘及び周濠部の保全
- 第2節 活用
  - (1) 調査研究と活用
  - (2) 学校教育との連携
  - (3) 生涯学習における活用
  - (4) 地域・観光振興における活用
- 第3節 整備
  - (1) 保存のための整備
  - (2) 活用のための施設整備
- 第4節 運営・体制の整備
  - (1) 史跡の管理
  - (2) 保存活用事業の進め方と体制
  - (3) 地元住民との意思疎通・情報共有
  - (4) 各古墳の現状・課題

第5章 大綱・基本方針・・・・・・・・・・178	第2節 方法
(1) 保存管理の基本方針	(1) 保存のための整備
(2) 活用の基本方針	(2) 活用のための整備
(3) 整備の基本方針	(3) 整備手順
(4) 運営・体制の基本方針	
第6章 保存管理・・・・・・・・・・179	第9章 運営・体制の整備・・・・・・・・219
第1節 方向性	第1節 方向性
第2節 方法	第2節 方法
(1) 具体的な保存管理の手法	第10章 施策の実施計画の策定・実施
(2) 現状変更及び保存に影響を 及ぼす行為の取扱方針及び 取扱基準	・・・・・・・・221
(3) 指定地外の周辺環境を構成 する諸要素の保存管理の具 体的手法	第1節 短期・中期計画
第7章 活用・・・・・・・・・・210	第2節 長期計画
第1節 方向性	第11章 経過観察・・・・・・・・223
第2節 方法	第1節 方向性
(1) 調査研究における活用	第2節 方法
(2) 学校教育における活用	(1) 保存管理・活用・整備・運営体 制による経過観察の手順
(3) 生涯教育における活用	(2) 計画全体の進捗状況の確認 のための経過観察（自己点 検）
(4) 地域・観光振興における活用	(3) PDCAの導入
(5) ガイダンス機能における活用	(4) 古墳カルテ
第8章 整備・・・・・・・・・・213	巻末資料・・・・・・・・・・234
第1節 方向性	
(1) 整備基本計画における整備 の方向性	
(2) 保存のための整備の方向性	
(3) 活用のための施設整備の方 向性	
(4) 世界遺産の構成資産の整備	



## はじめに

大阪府堺市に所在する百舌鳥古墳群は、我が国の古墳時代を代表する貴重な文化財であり、古墳時代を解明する上でも重要な遺跡である。巨大前方後円墳である仁徳天皇陵（大山古墳）を核に、大型及び中型の前方後円墳、帆立貝形古墳、墳長 20m前後の円墳や方墳など、様々な形態・規模の古墳で構成されていることが特徴である。4世紀後半に始まった古墳群の造営は6世紀前半頃まで続き、その間に100基を超える古墳が築かれた。大型の前方後円墳をはじめとする大半の古墳は、5世紀を中心に築造され、海外との交流を示す大量の鉄製品や希少な金銅製品、ガラス製品などが出土している。百舌鳥古墳群は、古墳の規模だけでなく副葬品の内容においても他を凌駕しており、墳墓によって権力を象徴した日本列島の人々の歴史を物語る顕著な証である。他に類を見ないこれらの古墳文化の物証が1600年以上の時を経て現在に伝えられてきたことに大きな価値がある。

仁徳天皇陵古墳（大山古墳）をはじめ、多くの古墳は陵墓として、守り伝えられてきた。陵墓以外の古墳の一部は、大正年間に史蹟名勝天然紀念物保存法で史蹟の仮指定を受けた。戦後復興期に古墳の消失が続き、昭和30年（1955）のいたすけ古墳の保存運動以降、保存の動きが生まれた。昭和49年（1974）までに文化財保護法のもと計7基の古墳が史跡指定を受けて守られてきた。また、百舌鳥古墳群の中央に位置し多くの古墳が所在する大仙公園では、古墳保護の方針のもと、整備が行われてきた。平成26年（2014）、既指定の7基の古墳に10基の古墳を追加指定・統合し、総称して「百舌鳥古墳群」と名称変更し、一体的な保護が図られた。

平成27年（2015）3月、国指定史跡百舌鳥古墳群保存管理計画を策定し、古墳群の保存管理の方針を明確にした。さらに令和元年（2019）7月、第43回世界遺産委員会において「百舌鳥・古市古墳群—古代日本の墳墓群—」が世界遺産として登録され、大阪府と堺市・羽曳野市・藤井寺市の地元3市は改めて資産を確実に次世代に引き継ぎ、世界に向けて日本の古墳文化を発信していくことを約束した。本計画は、史跡百舌鳥古墳群の将来的な保存管理の基本的な方針を改めて明示し、その活用に向け、世界遺産委員会における勧告に適合するため、従来の保存管理計画を保存活用計画に改めるものである。





## 第1章 沿革と目的

### 第1節 計画策定の沿革

史跡百舌鳥古墳群の特徴は、4km四方に広がる古墳を古墳群として捉え、一つの史跡としたところにある。昭和31年(1956)のいたすけ古墳の史跡指定以後、古墳単体で史跡指定され、保護が図られてきた。古墳の周辺を取り巻く環境が変化していく中で、未指定古墳を含む古墳群全体の保護を図る目的で古墳群としての史跡指定をめざした取組を進め、平成26年(2014)3月に百舌鳥古墳群として統合し、指定された。また、古墳群の史跡指定に向けた取組と併行して保存管理計画策定事業を進め、平成27年(2015)3月に「国指定史跡百舌鳥古墳群保存管理計画」(以下「旧計画」)を策定し、昭和31年(1956)以降60年近くの間を生じた史跡管理上の様々な課題を克服し、地域と共にある史跡を本来あるべき姿に導くべく、事業を進めてきた。旧計画に基づき、計画的な発掘調査、追加指定、土地取得を始め、整備基本計画(第1期)を策定し、寺山南山古墳・御廟表塚古墳の整備や古墳ごとの説明板の設置などに取り組んできた。また、御廟山古墳・ニサンザイ古墳の内濠が追加指定された。陵墓周辺で史跡の本質的価値を構成する要素とも捉えられる濠の指定は、平成30年(2018)の文化財保護法の改正と相まって、今後の史跡並びに地域における文化財の保存活用の取組にも影響を与えた。

さらに、令和元年(2019)7月に「百舌鳥・古市古墳群—古代日本の墳墓群—」が世界遺産に登録された。史跡百舌鳥古墳群を構成する古墳のうち、いたすけ古墳・長塚古墳・収塚古墳・塚廻古墳・丸保山古墳・善右エ門山古墳・銭塚古墳・旗塚古墳・寺山南山古墳・七観音古墳・御廟山古墳内濠・ニサンザイ古墳内濠が世界遺産の構成資産となった。(ニサンザイ古墳内濠・御廟山古墳内濠は宮内庁が管理する墳丘と一体で構成資産となっている。)本古墳群の世界遺産登録により既存の旧計画の取組を確実に進め、世界遺産としてふさわしい資産の保存管理や周辺環境の保全に努めつつ、価値や魅力の発信を行ってきた。世界遺産登録にあたり、世界遺産委員会における追加的勧告で、「史跡指定されている構成資産に対して準備されている整備基本計画を完成させること。その際、計画と保存の目的および顕著な普遍的価値(OUV)の保護との間の整合性を確実に担保すること」とされ、保存活用計画としての見直しが必要となった。

このような状況のもと、将来にわたって史跡百舌鳥古墳群を適切に保存活用できるよう、旧計画を改定し、本計画を策定する。

## 第2節 計画策定の目的

本計画は、史跡百舌鳥古墳群を文化財保護法に基づき、将来にわたり適切に保存管理・活用し、次世代へと確実に継承していくための基本方針の策定などを目的とする。

本計画は、旧計画を見直し、百舌鳥古墳群を取り巻く自然・歴史や現状を踏まえて、各史跡の本質的価値を損なわず、史跡百舌鳥古墳群を適切に保存活用し、次世代へと確実に伝えていくことを目的として策定するものである。そして、史跡百舌鳥古墳群の歴史及び現状を把握し、史跡の本質的価値と史跡を構成する諸要素を明確化し、史跡を保存管理していくための基本方針や方法、現状変更などの取扱、活用・整備の基本的な考え方を所有者及び関係者の合意を踏まえ改めて示すもので、行政の指針として位置づけられるものである。

また、保存管理と整備・活用を一体として確実に進めていくための運営方法や体制整備の方針についても定める。さらに各史跡を中心としたより良い環境の保全を視野に入れ、整備・活用の基本的な方針については周辺地域も含めた景観形成の基本方針も併せて検討することとする。また、本計画で定めた史跡の保存活用の方針や方法は、世界遺産登録にあたっての追加的勧告に対応するものである。

## 第3節 計画の対象範囲

本計画の対象範囲は、国指定史跡である、いたすけ古墳・長塚古墳・収塚古墳・文珠塚古墳・丸保山古墳・乳岡古墳・御廟表塚古墳・銭塚古墳・旗塚古墳の9基の前方後円墳と、塚廻古墳・ドンチャ山古墳・正楽寺山古墳・鏡塚古墳・グワショウ坊古墳・七観音古墳の6基の円墳と、善右エ門山古墳・寺山南山古墳の2基の方墳並びに墳丘が陵墓の御廟山古墳内濠・ニサンザイ古墳内濠の合計19基の指定地及び周辺地域とする。

加えて、現在史跡に指定されていないが、墳丘が現存しており、将来的に史跡として保護すべき古墳である定の山古墳・かぶと塚古墳・万代山古墳・鎮守山塚古墳・東上野芝町1号墳の5基についても群としての一体性を考慮し、史跡の指定化を図るべく諸課題を解決し追加指定を検討する。今後、追加指定した場合は、本計画に示す保存活用の基本方針や現状変更などの取扱基準に準じて取り扱うこととする。

古墳群を構成する各古墳を取り巻く周辺の環境保全や景観形成についても基本的な方向性も示すこととする。さらに、指定地を取り巻く周辺環境の保全は、史跡の適切な保存管理と深く関連しており、隣接地や地形などの環境を視野に入れた検討を進めていく必要がある。なお、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）をはじめとする陵墓は、宮内庁の管理であるため、本計画からは除外する。ただし、墳丘のみが陵墓の墳丘周辺の周濠・外堤などは、未指定古墳と同様に史跡の指定化を図るなどの保全を検討する。

## 第4節 委員会の設置と策定経過

### (1) 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会の設置

本計画の策定にあたっては、「堺市付属機関の設置等に関する条例」に基づき設置した「堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会」で検討を重ねた。また、文化庁と大阪府教育庁からの指導助言を得た。

#### 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会の設置の経緯

平成25年9月13日付	「堺市付属機関の設置等に関する条例」(条例第4号)一部改正 「堺市百舌鳥古墳群保存整備委員会」の設置
平成25年9月18日付	「堺市百舌鳥古墳群保存整備委員会規則」(教育委員会規則第31号)制定、10月1日施行
平成30年4月1日付	「堺市百舌鳥古墳群保存整備委員会」を廃止し、「堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会」を設置する

#### 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会 委員名簿

	役職	指名	所属(専門)
○委員 任期 (令和2年12月1日 ～令和4年11月30日)	委員長	和田晴吾	兵庫県立考古博物館館長(考古学)
	副委員長	一瀬和夫	京都橘大学名誉教授(考古学)
	委員	北口照美	元 奈良佐保短期大学教授(生活環境学)
	委員	中村彰宏	大阪公立大学大学院准教授(緑地環境、造園学)
	委員	宮路淳子	奈良女子大学研究院教授(考古学)
○委員 任期 (令和4年12月1日 ～令和6年11月30日)	委員長		
	副委員長		
	委員		
	委員		
	委員		
○助言者	文化庁文化財第二課		
	大阪府教育庁文化財保護課		
○協力者	堺市建設局公園緑地部公園緑地整備課 堺市文化観光局博物館学芸課		
	羽曳野市教育委員会事務局世界遺産・文化財総合管理室文化財課・世界遺産課		
	藤井寺市教育委員会事務局教育部文化財保護課		
○事務局	堺市文化観光局文化部		

## (2) 計画策定の経過

令和3年8月24日	第1回 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会
令和3年12月16日	第2回 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会
令和4年3月22日	第3回 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会
令和4年6月24日	第4回 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会
令和4年8月29日	第5回 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会
令和4年10月25日	第6回 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会
令和 年 月 日～ 月 日	パブリックコメント実施
令和 年 月 日	第7回 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会 パブリックコメント報告
令和 年 月 日	計画策定



## 第5節 他の計画との関係

### (1) 上位計画

#### 堺市基本計画 2025（令和3年3月策定）

##### 「堺市基本計画 2025」での史跡百舌鳥古墳群の位置づけ

IV 都市像 2 重点戦略 1 堺の特色ある歴史文化～Legacy～
堺の類稀な歴史文化資源に磨きをかけ、後世にその価値を引き継ぎ、歴史や文化芸術、国際交流を通じて、都市のブランド力の向上を図り、新たな誘客や交流を生み出す。
施策（1）世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の継承と魅力の創出
1600年にわたり保全されてきた古墳群を後世へ継承し、世界遺産の「百舌鳥・古市古墳群」に代表される堺の歴史文化資源の価値や魅力を国内外に発信することにより、絶え間なく人が訪れ交流するエリアを実現する。

##### 取組の方向性

① 百舌鳥古墳群の保全・継承とゲートウェイ機能の強化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会と共存しながら1600年にわたり守り、受け継がれてきた百舌鳥古墳群を次世代に継承するため、市民や民間事業者などとの協働のもと、古墳を確実に保全する。</li> <li>・古墳が存在する他の自治体との連携を進め、日本全国に16万基以上存在するといわれる古墳の代表として、古墳時代の文化を物語る百舌鳥・古市古墳群の価値を、市民や来訪者に伝達する。</li> <li>・大仙公園エリアに多くの来訪者を迎え入れるため、百舌鳥駅前広場を整備する。古墳群を訪れる市民や来訪者のゲートウェイとなる百舌鳥古墳群ビジターセンターにおいて、百舌鳥・古市古墳群が有する歴史的価値や魅力を伝える。堺市博物館では、その理解をさらに深めてもらうための機能を充実し、国内外の来訪者に高い満足感をもたらす。</li> </ul>
② 大仙公園を活かした魅力あるおもてなし環境の整備
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス気球の設置による百舌鳥古墳群の雄大さや堺のまちなみを上空から眺望できる環境整備や、飲食施設・物販施設を活用した市民や来訪者がくつろげる空間の創出により、多くのリピーターを獲得する。</li> <li>・様々な大きさや形状の古墳が集中する百舌鳥古墳群を快適に周遊できるよう、案内サインの多言語対応、Wi-Fi環境の整備など、案内機能を充実する。また、スマホアプリなどを活用した魅力の発信や民間主体のイベント開催を支援する。</li> </ul>
③ 本市が誇る歴史文化の価値や魅力を学び、体感できる（仮称）堺ミュージアムの整備
百舌鳥古墳群をはじめ、堺が誇る多様な歴史文化を学び、体感できる環境を整え、大仙公園エリアの魅力をさらに高めるため、博物館やアルフォンス・ミュシャ館などの様々な機能を集約した「（仮称）堺ミュージアム」の整備に向けて取り組む。

## (2) 関連計画

関連計画一覧

関連計画	概要
堺市都市計画 マスタープラン (令和3年7月策定)	都市計画法に基づき、長期的な視点に立った都市の将来像やその実現に向けての都市の方向性を示し、都市計画の基本的な方針を定めたもの。めざすべき都市像に歴史文化の活用を位置づけ、それらを保全し、活用を図ることを方針としている。
堺市 SDGs 未来都市計画 (2021~2023) (令和3年2月策定)	堺は、古くから世界と交流し、多様な文化や価値観などを受け入れ、「もののはじまりなんでも堺」と謳われるほど、様々な新しいものを生み出してきた都市。この伝統を受け継ぎ、市内企業の高い技術力などの強みを生かしながら、イノベーションを創出し、未来への貢献をめざす。また、先進的な環境政策の推進により経済と調和を図ることとあわせて、多様性を認め合う、誰一人取り残さない社会を築くことで持続可能な未来を創造することをめざしている。
堺市景観計画 (平成27年9月変更)	成熟した市街地と歴史・文化遺産の保護の両立をめざし、古墳周辺においては、大仙公園の整備や濠の水質保全、視点場の形成などの環境整備を進め、これと調和した周辺市街地の景観形成に向け、百舌鳥古墳群周辺景観地区を都市計画決定するなど、景観誘導を進めている。
堺観光戦略 (令和3年5月策定)	大仙公園エリアを重点エリアの一つとし、広大な屋根のないミュージアムとして、来訪者をもてなすとしている。また百舌鳥古墳群を次世代へ引き継ぎ古墳群の効果的な情報発信に取組むとしている。
緑の基本計画 (平成15年策定・ 平成30年3月改定・ 令和5年3月改定予定)	堺らしさを象徴する緑のシンボルエリアの一つに百舌鳥野エリアを位置づけ、仁徳天皇陵古墳をはじめとする古墳の保存活用や大仙公園の整備などにより、百舌鳥野エリアの緑を育み、世界文化遺産に相応しい緑豊かなまちをめざすとしている。

具体的個別的な計画及び事業一覧

具体的個別的な計画及び事業	概要
大仙公園基本計画 (昭和47年策定・ 令和3年5月改定)	世界に誇れる古墳を含む公園として、古墳群の保全と普遍的価値の後世への継承や公園内に点在する古墳や緑豊かな景観を活かし、市民や国内外からの来訪者を迎え入れもてなすことを基本理念とし、堺市のシンボルパークとして、古墳を保全し活用した公園の実現をめざすとしている。
堺市歴史的風致維持向上計画 (平成25年11月認定・ 第2期計画令和5年3月認定予定)	歴史的風致の維持及び向上を重点的に推進する区域に設定し、百舌鳥古墳群の整備、情報発信などを主な事業として位置付けている。

## 第6節 計画の実施

本計画は、令和5年(2023)4月から実施するものとする。本計画の効用はおおむね10年とし、史跡を取り巻く環境の変化などにより必要に応じて見直しを図ることとする。



## 第2章 史跡の概要

百舌鳥古墳群は我が国最大の古墳である仁徳天皇陵古墳（大山古墳）、第3位の履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）などの墳丘長200mを超える巨大古墳を中心に中小の古墳まで、異なる墳形・規模からなる約100基の古墳で構成され、その範囲は堺市内の北西部において東西・南北約4kmに及ぶ。巨大前方後円墳の周囲には、同古墳に付随する古墳や独立する中小の古墳が築かれ、様々な規模と形状の古墳が数多く存在するほか、古墳の集中している地域から少し距離を置いて、6世紀代の築造と想定される地域の首長墓も所在している。

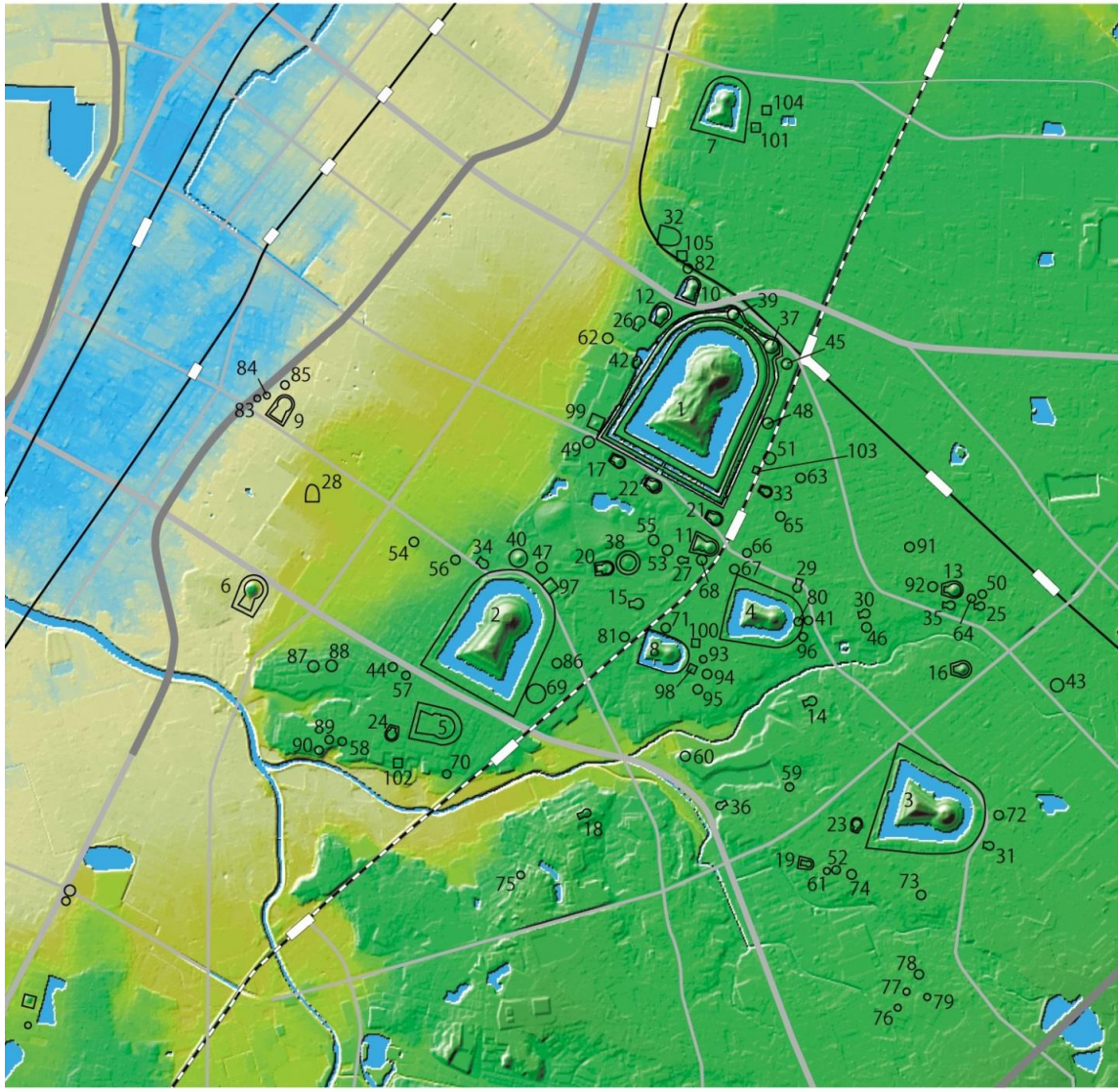
また、『日本書紀』において仁徳天皇の陵はこの地で築造されたという、他に例のない具体的な記述があり、平安時代中期に編纂された『延喜式』に仁徳天皇の陵を百舌鳥耳原中陵、履中天皇の陵を百舌鳥耳原南陵、反正天皇の陵を百舌鳥耳原北陵と記され、今日に至っていることも大きな特徴といえる。さらに、これまで巨大古墳の築造が続いた奈良盆地から離れ、大阪湾を望む台地上に造られていることも立地の特徴である。

これまでの発掘調査で各古墳から埴輪や土器が出土し、その特徴から本古墳群の造営は4世紀後半に始まり、6世紀前半頃まで続き、大半の古墳は5世紀を中心に築造されたと考えられる。埋葬施設からは大量の武器・武具、農具や少量の金銅製品やガラス製品が出土している。これらは手工業の発展による本格的な鉄の使用や海外との盛んな交流を物語るものであり、百舌鳥古墳群の古墳には我が国が本格的に国際社会に参入した時代の指導者が埋葬されていることがうかがえる。

群中で最大の仁徳天皇陵古墳（大山古墳）は、前方後円形の墳丘とそれを取り巻く周濠からなる均整のとれた造形物である。土の造形物でありながら、1600年以上経った現在も形状を保つことは、古墳時代の高度な土木技術を示す。

百舌鳥古墳群が築造された時代は、古代中央集権国家が成立する直前の時代である。人々の膨大なエネルギーを投下した古墳は、規模と形によって当時の政治・社会の構造を表現し、古墳時代の文化を物語っている。古墳は我が国の成り立ちを考える上で、欠くことのできない貴重な文化遺産である。特に各地で古墳が築造される5世紀において、百舌鳥古墳群は当時最大規模の前方後円墳をはじめ中小の様々な形の古墳で構成されており、古墳群の代表といえる。

平成26年（2014）史跡指定時の価値の説明において、「百舌鳥古墳群には巨大な前方後円墳だけでなく、中・小型の前方後円墳・円墳・方墳も数多く築かれており、墳丘形態や規模などにおいて格差が明瞭である。これは、当該地域に一大政治集団が存在していたことを示すと共に、有力首長と中小首長層からなる当時の政治的・社会的構造を如実に示していると考えられることから、わが国の古墳群の中でも極めて希有な事例である。また、わが国における古代国家形成期を考える上で、当時の中央政権の状況を知ることのできる極めて重要な古墳群といえる。」とあり、国民共有の財産として末永く守り伝えていかなければならない。



百舌鳥古墳群分布図

百舌鳥古墳群 古墳一覽表

No.	古墳名称	墳丘長m	陵墓・史跡等	指定年月日	備考	No.	古墳名称	墳丘長m	陵墓・史跡等	指定年月日	備考
前方後円墳・帆立貝形古墳	1 仁徳天皇陵古墳(大山古墳)	486	陵墓		構成資産	円墳	49 狐山古墳	30	陵墓		
	2 履中天皇陵古墳(ミサンザイ古墳)	365	陵墓		構成資産		50 木下山古墳	30	墳丘削平		
	3 ニサンザイ古墳	300.3	陵墓・国史跡	平成 31.2.26	構成資産		51 鏡塚古墳	26	国史跡	平成 26.3.18	
	4 御廟山古墳	203	陵墓・国史跡	平成 30.10.15	構成資産		52 ドンチャ山古墳	26	国史跡	平成 26.3.18	陵南中央公園
	5 大塚山古墳	168	墳丘削平				53 原山古墳	25	墳丘削平		大仙公園
	6 乳岡古墳	155	国史跡	昭和 49.1.23			54 西酒呑古墳	25	陵墓		
	7 反正天皇陵古墳(田出井山古墳)	148	陵墓		構成資産		55 鷲塚古墳	21	墳丘削平		大仙公園
	8 いたすけ古墳	146	国史跡	昭和 31.5.15	構成資産		56 東酒呑古墳	21	陵墓		
	9 長山古墳	110	墳丘削平				57 経堂古墳	20	陵墓		
	10 永山古墳	100	陵墓・市史跡	平成 28.4.11	構成資産		58 上野芝町2号墳	20	墳丘削平		
	11 長塚古墳	106.4	国史跡	昭和 33.5.14 旧法 仮指定 大正 9.6.21	構成資産		59 湯の山古墳	20	墳丘削平		
	12 丸保山古墳	87	陵墓・国史跡	昭和 47.7.25	構成資産		60 赤山古墳	20	墳丘削平		
	13 御廟表塚古墳	84.8	国史跡	平成 26.3.18			61 正楽寺山古墳	16	国史跡	平成 26.3.18	陵南中央公園
	14 城ノ山古墳	77	墳丘削平				62 一本松古墳	13	墳丘削平		
	15 銭塚古墳	72	国史跡	平成 26.3.18	構成資産		63 坊主山古墳	10	陵墓		
	16 定の山古墳	69	未指定		城の山公園		64 賀仁山古墳	-	墳丘削平		
	17 竜佐山古墳	61	陵墓・市史跡	平成 28.4.11	大仙公園 構成資産		65 銭塚古墳	-	墳丘削平		
	18 文珠塚古墳	59.1	国史跡	昭和 46.4.23			66 八幡塚古墳	-	墳丘削平		
	19 平井塚古墳	58	墳丘削平				67 一本松塚古墳	-	墳丘削平		
	20 旗塚古墳	57.9	国史跡	平成 26.3.18	大仙公園 構成資産		68 狐塚古墳	-	墳丘削平		
	21 収塚古墳	59	国史跡	昭和 33.5.14 旧法 仮指定 大正 9.4.8	大仙公園 構成資産		69 狐塚古墳	-	墳丘削平		
	22 孫太夫山古墳	65	陵墓・市史跡	平成 29.2.6	大仙公園 構成資産		70 亀塚古墳	-	墳丘削平		
	23 こうじ山古墳	50.5	墳丘削平				71 播磨塚古墳	-	墳丘削平		
	24 かぶと塚古墳	50	未指定				72 聖の塚古墳	-	墳丘削平		
	25 渡矢古墳	45	墳丘削平				73 ツクチ山古墳	-	墳丘削平		
	26 菰山塚古墳	33	陵墓		構成資産		74 文山古墳	-	墳丘削平		
	27 茂右衛門山古墳	30	墳丘削平		大仙公園		75 黄金山塚古墳	-	墳丘削平		
	28 檜塚古墳	24.9	陵墓				76 七郎姫古墳	-	墳丘削平		
	29 万代山古墳	-	未指定				77 ハナシ山古墳	-	墳丘削平		
	30 万代寺山古墳	-	墳丘削平				78 土山古墳	-	墳丘削平		
	31 経塚古墳	-	墳丘削平				79 ギンベ山古墳	-	墳丘削平		
	32 榎古墳	-	墳丘削平				80 百舌鳥赤畑町1号墳	-	墳丘削平		
	33 鷗塚古墳(無名塚3号墳)	-	墳丘削平				81 東上野芝町1号墳	-	未指定		
	34 無名塚7号墳	-	墳丘削平				82 無名塚2号墳	-	墳丘削平		
	35 無名塚18号墳	-	墳丘削平				83 無名塚4号墳	-	墳丘削平		
	36 ナゲ塚古墳(無名塚23号墳)	-	墳丘削平				84 無名塚5号墳	-	墳丘削平		
37 大安寺山古墳	62	陵墓		構成資産	85 無名塚6号墳	-	墳丘削平				
38 グワシヨウ坊古墳	61	国史跡	平成 26.3.18	大仙公園	86 石塚(無名塚10号墳)	-	墳丘削平				
39 茶山古墳	56	陵墓		構成資産	87 無名塚12号墳	-	墳丘削平				
40 七観山古墳(七観古墳)	56	墳丘削平		大仙公園	88 狐塚古墳(無名塚13号墳)	-	墳丘削平				
41 カトンボ山古墳	50	墳丘削平			89 無名塚14号墳	-	墳丘削平				
42 樋の谷古墳	47	陵墓			90 無名塚15号墳	-	墳丘削平				
43 尼塚古墳	46	墳丘削平			91 無名塚16号墳	-	墳丘削平				
44 旅塚古墳	35	墳丘削平			92 無名塚17号墳	-	墳丘削平				
45 源右衛門山古墳	34	陵墓		構成資産	93 無名塚19号墳	-	墳丘削平				
46 鎮守山塚古墳	34	未指定			94 無名塚20号墳	-	墳丘削平				
47 七観音古墳	32.5	国史跡	平成 26.3.18	大仙公園 構成資産	95 無名塚21号墳	-	墳丘削平				
48 塚廻古墳	35	国史跡	昭和 33.5.14 旧法 仮指定 大正 9.4.22	構成資産	96 無名塚22号墳	-	墳丘削平				
円墳	49 狐山古墳	30	陵墓			方墳	97 寺山南山古墳	44.7	国史跡	平成 26.3.18	大仙公園(計画)構成資産
	50 木下山古墳	30	墳丘削平				98 善右工門山古墳	28	国史跡	平成 26.3.18	構成資産
	51 鏡塚古墳	26	国史跡	平成 26.3.18			99 銅亀山古墳	26	陵墓		構成資産
	52 ドンチャ山古墳	26	国史跡	平成 26.3.18	陵南中央公園		100 吾呂茂塚古墳	25	墳丘削平		
	53 原山古墳	25	墳丘削平		大仙公園		101 鈴山古墳	22	陵墓		
	54 西酒呑古墳	25	陵墓				102 上野芝町1号墳	20	墳丘削平		
	55 鷲塚古墳	21	墳丘削平		大仙公園		103 百舌鳥夕雲町1号墳(旧称夕雲1丁南古墳)	17	墳丘削平		
	56 東酒呑古墳	21	陵墓				104 天王古墳	11	陵墓		
	57 経堂古墳	20	陵墓				105 無名塚1号墳	-	墳丘削平		
	58 上野芝町2号墳	20	墳丘削平								

保存活用計画対象史跡表

番号	古墳名	墳形	墳長m	所在地	所有者	指定年月日
1	いたすけ古墳	前方後円墳	146	堺市北区 百舌鳥本町3丁	堺市	昭和31.5.15
2	<small>ながつか</small> 長塚古墳	前方後円墳	106.4	堺市堺区 百舌鳥夕雲町2丁	堺市	昭和33.5.14
3	<small>おさめづか</small> 収塚古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	59	堺市堺区 百舌鳥夕雲町2丁	堺市	昭和33.5.14
4	<small>つかまわり</small> 塚廻古墳	円墳	35	堺市堺区 百舌鳥夕雲町1丁	堺市	昭和33.5.14
5	<small>もんじゅづか</small> 文珠塚古墳	前方後円墳	59.1	堺市西区 上野芝向ヶ丘町1丁	堺市	昭和46.4.23
6	<small>まるほやま</small> 丸保山古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	87	堺市堺区 北丸保園	国 堺市	昭和47.7.25
7	<small>ちのおか</small> 乳岡古墳	前方後円墳	155	堺市堺区 石津町2丁	堺市	昭和49.1.23 平成28.3.1
8	<small>ごびょうおもてづか</small> 御廟表塚古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	84.8	堺市北区 中百舌鳥町4丁	堺市	平成26.3.18
9	<small>やま</small> ドンチャ山古墳	円墳	26	堺市北区 百舌鳥陵南町3丁	堺市	平成26.3.18
10	<small>しょうらくじやま</small> 正楽寺山古墳	円墳	16	堺市北区 百舌鳥陵南町3丁	堺市	平成26.3.18
11	<small>かがみづか</small> 鏡塚古墳	円墳	26	堺市北区 百舌鳥赤畑町2丁	個人 堺市	平成26.3.18
12	<small>ぜんえもんやま</small> 善右エ門山古墳	方墳	28	堺市北区 百舌鳥本町3丁	個人	平成26.3.18
13	<small>ぜにづか</small> 銭塚古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	72	堺市堺区 東上野芝町1丁	大阪府	平成26.3.18
14	<small>ぼう</small> グワシヨウ坊古墳	円墳	長径 61 短径 56	堺市堺区 百舌鳥夕雲町3丁	堺市	平成26.3.18
15	<small>はたづか</small> 旗塚古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	57.9	堺市堺区 百舌鳥夕雲町3丁	堺市	平成26.3.18
16	<small>てらやまみなみやま</small> 寺山南山古墳	方墳	長辺 44.7 短辺 39.2	堺市西区 上野芝町1丁	堺市	平成26.3.18
17	<small>しちかんのん</small> 七観音古墳	円墳	32.5	堺市堺区 旭ヶ丘北町5丁	堺市	平成26.3.18
18	<small>ごびょうやま</small> 御廟山古墳内濠	前方後円墳	203	堺市北区 百舌鳥本町1丁	堺市	平成30.10.15
19	<small>ないごう</small> ニサンザイ古墳内濠	前方後円墳	300.3	堺市北区 百舌鳥西之町3丁	堺市	平成31.2.26





1 いたすけ古墳	2 長塚古墳	3 収塚古墳	4 塚廻古墳
5 文珠塚古墳	6 丸保山古墳	7 乳岡古墳	8 御廟表塚古墳
9 ドンチャ山古墳	10 正楽寺山古墳	11 鏡塚古墳	12 善右工門山古墳
13 銭塚古墳	14 グワショウ坊古墳	15 旗塚古墳	16 寺山南山古墳
17 七観音古墳	18 御廟山古墳内濠	19 ニサンザイ古墳内濠	

史跡百舌鳥古墳群保存活用計画の対象古墳

## 第1節 指定に至る経緯

百舌鳥古墳群は、市街地にあり都市化により、多くの古墳が失われ、現在は44基の古墳が残るのみである。第2次世界大戦以前、本古墳群の範囲では都市近郊の田園風景が広がり、古墳とその周辺を取り巻く環境は比較的良好であった。しかし、戦後の復興期において数多くの古墳が姿を消し、市街化が徐々に進んできた。そうした中で、昭和30年(1955)、民間主導のいたすけ古墳の保存運動を契機として古墳に対する保護の意識は広がりを見せた。いたすけ古墳は、土砂の採取と住宅建設という開発危機に際し、市民による保存運動が起こり、大阪府による仮指定を経て昭和31年(1956)5月15日に史跡指定され保全が図られた。昭和31年のいたすけ古墳の史跡指定以後、本市は他の古墳も史跡指定を進め、古墳の保存に取り組んだ。

塚廻古墳・収塚古墳・長塚古墳は、大正9年(1920)に文化財保護法の前身である史蹟名勝天然紀念物保存法で仮指定されたが、仮指定から本指定に指定替えされることはなかった。史蹟名勝天然紀念物保存法での仮指定は、仁徳天皇陵古墳(大山古墳)の周辺の古墳のうち、宮内庁が陵墓として編入できなかった古墳を保護する意味があったと考えられる。文化財保護法施行後、農地の宅地化などで古墳の破壊が進む中で昭和33年(1958)5月14日にそれぞれ史跡指定され保全が図られた。

昭和40年代になると文珠塚古墳・丸保山古墳・乳岡古墳に開発の計画がなされる中で、文珠塚古墳が昭和46年(1971)4月23日、丸保山古墳が昭和47年(1972)7月25日、乳岡古墳が昭和49年(1974)1月23日に史跡指定され、公有化が図られた。

昭和50年代以降は新たな史跡指定は行われてこなかったが、昭和60年代に前方部の一部が残存していた大塚山古墳や堺区陵西通に所在する一本松古墳では、開発の計画がなされ記録保存の後に墳丘は消滅した。平成10年代に入り百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録をめざす動きの中で、百舌鳥古墳群に対する保護の意識が再び広がりを見せることとなった。

平成26年(2014)3月、これまで個々に史跡指定を受けた7基と共に、大型前方後円墳と中小古墳を一体的に保全するために鏡塚古墳をはじめグワショウ坊古墳・御廟表塚古墳・七観音古墳・正楽寺山古墳・銭塚古墳・善右エ門山古墳・寺山南山古墳・ドンチャ山古墳・旗塚古墳の10基を追加指定・統合し、これらを一括して「百舌鳥古墳群」の指定名称を与えることで貴重な歴史遺産である百舌鳥古墳群の一体的な保全が図られるようになった。

百舌鳥古墳群の指定に向けた取組と並行して史跡の適正な保存管理を進めるため、保存管理計画策定を進め、平成27年(2015)3月に「国指定史跡百舌鳥古墳群保存管理計画」を策定し、保存管理の方向性を示した。この計画に基づき、保存上特に重要な部分及び史跡の維持管理や活用に必要な部分を優先して追加指定・公有化を行ってきた。また、墳丘のみが陵墓で周濠が残存する場合、濠の保存活用の課題解決に向け、市文化財保護条例に基づき孫太夫山古墳・永山古墳・竜佐山古墳の周濠を史跡指定した。さらに御廟山古墳・ニサンザイ古墳の周濠を内濠として文化財保護法に基づき追加指定された。これにより、法令に基づき陵墓で残存する濠の保全が図られることになった。



百舌鳥古墳群の指定に関する年表

指定年月日	名称	告示番号
大正9年(1920)4月22日	③収塚古墳 仮史蹟指定	大阪府告示史第1号
	④塚廻古墳 仮史蹟指定	
大正9年(1920)6月21日	②長塚古墳 仮史蹟指定	大阪府告示史第2号
昭和30年(1955)11月14日	①いたすけ古墳 仮史跡指定	
昭和31年(1956)5月15日	①いたすけ古墳 史跡指定	文化財保護委員会告示第20号
昭和33年(1958)5月14日	②長塚古墳 史跡指定	文化財保護委員会告示第44号
	③収塚古墳 史跡指定	
	④塚廻古墳 史跡指定	
昭和46年(1971)4月23日	⑤文珠塚古墳 史跡指定	文部省告示第122号
昭和47年(1972)7月25日	⑥丸保山古墳 史跡指定	文部省告示第113号
昭和49年(1974)1月23日	⑦乳岡古墳 史跡指定	文部省告示第6号
平成26年(2014)3月18日	百舌鳥古墳群	文部科学省告示第34号
	①いたすけ古墳、②長塚古墳、③収塚古墳、 ④塚廻古墳、⑤文珠塚古墳、⑥丸保山古墳、 ⑦乳岡古墳、⑧御廟表塚古墳、⑨ドンチャ山古墳、 ⑩正楽寺山古墳、⑪鏡塚古墳、⑫善右エ門山古墳、 ⑬銭塚古墳、⑭グワシヨウ坊古墳、⑮旗塚古墳、 ⑯寺山南山古墳、⑰七観音古墳 統合・追加指定・名称変更	
平成28年(2016)3月1日	百舌鳥古墳群 ⑦乳岡古墳 追加指定	文部科学省告示第35号
平成30年(2020)10月15日	百舌鳥古墳群 ⑱御廟山古墳内濠 追加指定・名称変更	文部科学省告示第193号
平成31年(2021)2月26日	百舌鳥古墳群 ⑲ニサンザイ古墳内濠 追加指定・名称変更	文部科学省告示第25号

## 第2節 指定の状況

### (1) 指定告示

指定にかかる史跡百舌鳥古墳群及び各史跡古墳の告示内容は以下の通りである。

名 称	百舌鳥古墳群			
	いたすけ古墳	長塚古墳	収塚古墳	塚廻古墳
	文珠塚古墳	丸保山古墳	乳岡古墳	御廟表塚古墳
	ドンチャ山古墳	正楽寺山古墳	鏡塚古墳	善右エ門山古墳
	銭塚古墳	グワショウ坊古墳	旗塚古墳	寺山南山古墳
	七観音古墳	御廟山古墳内濠	ニサンザイ古墳内濠	
指定種別	追加・名称変更      ニサンザイ古墳内濠			
指定年月日	平成31年2月26日			
告示番号	文部科学省告示第25号（官報号外第36号）			
関係告示	昭和31年文化財保護委員会告示第20号、 昭和33年文化財保護委員会告示第44号、 昭和46年文部省告示第122号、 昭和47年文部省告示第113号、 昭和49年文部省告示第6号、 平成26年文部科学省告示第34号、 平成28年文部科学省告示第35号及び平成30年文部科学省告示第193号			



## ①いたすけ古墳 指定告示内容

種別	史跡 指定
名称	いたすけ古墳
所在地	大阪府堺市百舌鳥高田町（現在 北区百舌鳥本町3丁）
地域	393番の1, 394番（現在 340, 339 - 1, 339 - 2, 338）
指定年月日	昭和31年5月15日
告示番号	文化財保護委員会告示第20号（官報第8811号）
種別	史跡 統合・名称変更
名称	百舌鳥古墳群 <u>いたすけ古墳</u> 長塚古墳 収塚古墳 塚廻古墳 文珠塚古墳 丸保山古墳 乳岡古墳 御廟表塚古墳 ドンチャ山古墳 正楽寺山古墳 鏡塚古墳 善右工門山古墳 銭塚古墳 グワシヨウ坊古墳 旗塚古墳 寺山南山古墳 七観音古墳
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号（官報号外第55号）

## ②長塚古墳 指定告示内容

種別	史跡 指定
名称	長塚古墳
所在地	大阪府堺市百舌鳥高田町（現在 堺区百舌鳥夕雲町2丁）
地域	676番（現在 260-1～260-5）
指定年月日	昭和33年5月14日
告示番号	文化財保護委員会告示第44号（官報9414号）
種別	史跡 統合・名称変更
名称	百舌鳥古墳群 長塚古墳
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号（官報号外第55号）

### ③収塚古墳 指定告示内容

種 別	史跡 指定
名 称	収塚古墳
所在地	大阪府堺市百舌鳥高田町 (現在 堺区百舌鳥夕雲町2丁)
地 域	683 (現在 149)
指定年月日	昭和33年5月14日
告 示 番 号	文化財保護委員会告示第44号 (官報9414号)
種 別	史跡 統合・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 収塚古墳
指定年月日	平成26年3月18日
告 示 番 号	文部科学省告示第34号 (官報号外第55号)

### ④塚廻古墳 指定告示内容

種 別	史跡 指定
名 称	塚廻古墳
所在地	大阪府堺市百舌鳥赤畑町 (現在 堺区百舌鳥夕雲町1丁)
地 域	145 (現在 27)
指定年月日	昭和33年5月14日
告 示 番 号	文化財保護委員会告示第44号 (官報9414号)
種 別	史跡 統合・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 塚廻古墳
指定年月日	平成26年3月18日
告 示 番 号	文部科学省告示第34号 (官報号外第55号)

## ⑤文珠塚古墳 指定告示内容

種別	史跡 指定
名称	文珠塚古墳
所在地	大阪府堺市上野芝町向ヶ丘町1丁 (現在 西区上野芝向ヶ丘町1丁)
地域	773-1, 773-2 (現在 772-3)
指定年月日	昭和46年4月23日
告示番号	文部省告示第122号 (官報第13301号)
種別	史跡 統合・名称変更
名称	百舌鳥古墳群 文珠塚古墳
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号 (官報号外第55号)

## ⑥丸保山古墳 指定告示内容

種別	史跡 指定
名称	丸保山古墳
所在地	大阪府堺市北丸保園 (現在 堺区北丸保園)
地域	30, 31-1, 31-2, 32
指定年月日	昭和47年7月25日
告示番号	文部省告示第113号 (官報第13676号)
種別	史跡 統合・名称変更
名称	百舌鳥古墳群 丸保山古墳
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号 (官報号外第55号)

⑦乳岡古墳 指定告示内容

種 別	史跡 指定
名 称	乳岡古墳
所在地	大阪府堺市石津町（現在 堺区石津町2丁）
地 域	620-1, 620-2, 634（現在 620-1, 620-2, -34, -35, 36, -37, -38, -39, 634）
指定年月日	昭和49年1月23日
告 示 番 号	文部省告示第6号（官報第14119号）
種 別	史跡 統合・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 乳岡古墳
指定年月日	平成26年3月18日
告 示 番 号	文部科学省告示第34号（官報号外第55号）
種 別	史跡 追加指定
名 称	百舌鳥古墳群 乳岡古墳
所在地	大阪府堺市堺区石津町2丁
地 域	609-26, 609-27, 609-28
指定年月日	平成28年3月1日
告 示 番 号	文部科学省告示第35号（官報号外第46号）

⑧御廟表塚古墳 指定告示内容

種 別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 御廟表塚古墳
所在地	大阪府堺市北区中百舌鳥町4丁
地 域	536番6のうち実測304.49㎡、543番1のうち実測351.45㎡、546番 （現在 536番-7のうち304.49㎡、543番-3、546番）
指定年月日	平成26年3月18日
告 示 番 号	文部科学省告示第34号（官報号外第55号）

## ⑨ドンチャ山古墳 指定告示内容

種別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名称	百舌鳥古墳群 ドンチャ山古墳
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥陵南町3丁
地域	国土調査法(昭和26年法律第180号)による第VI座標系を基準とするA N0509地点(X=-161345.464m Y=-46425.787m)、A N0510地点(X=-161353.190m Y=-46418.038m)、A N0511地点(X=-161364.132m Y=-46418.022m)、A N0512地点(X=-161371.880m Y=-46425.748m)、A N0513地点(X=-161371.896m Y=-46436.690m)、A N0514地点(X=-161364.170m Y=-46444.438m)、A N0515地点(X=-161353.229m Y=-46444.454m)、A N0516地点(X=-161345.480m Y=-46436.728m)を順に結ぶ直線によって囲まれる範囲。
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号(官報号外第55号)

## ⑩正楽寺山古墳 指定告示内容

種別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名称	百舌鳥古墳群 正楽寺山古墳
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥陵南町3丁
地域	国土調査法による第VI座標系を基準とするA N0501地点(X=-161348.865m Y=-46458.714m)、A N0502地点(X=-161355.752m Y=-46451.810m)、A N0503地点(X=-161365.504m Y=-46451.799m)、A N0504地点(X=-161372.408m Y=-46458.686m)、A N0505地点(X=-161372.419m Y=-46468.438m)、A N0506地点(X=-161365.532m Y=-46475.342m)、A N0507地点(X=-161355.780m Y=-46475.353m)、A N0508地点(X=-161348.876m Y=-46468.466m)を順に結ぶ直線によって囲まれる範囲。
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号(官報号外第55号)

⑪鏡塚古墳 指定告示内容

種 別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 鏡塚古墳
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町2丁
地 域	国土調査法による第VI座標系を基準とするA H 0202地点(X=-159469.617m Y=-46739.480m)、K O 0215地点(X=-159469.002m Y=-46737.418m)、K O 0216 地点 ( X =-159468.749 m Y =-46737.258 m )、 A H 0203 地点 ( X =-159472.322 m Y =-46732.072 m )、 A H 0204 地点 ( X =-159474.472 m Y =-46729.874m)、A H 0205地点(X=-159477.332m Y=-46728.720m)、A H 0206 地点(X=-159481.301m Y=-46728.306m)、A H 0207地点(X=-159485.182m Y=-46730.195m)、A H 0208地点(X=-159487.717m Y=-46732.318m)、K O 0213 地 点 ( X =-159487.989 m Y =-46732.723 m )、 A H 0209 地 点 ( X =-159489.444 m Y =-46734.895 m )、 A H 0210 地 点 ( X =-159490.448 m Y =-46738.382m )、A H 0211地点(X=-159488.713m Y=-46742.773m)、K O 0211 地点 ( X =-159487.861m Y =-46744.693m )、 A H 0201 地点 ( X =-159486.234m Y =-46746.177m )、 K O 0212 地点 ( X =-159483.161m Y =-46744.938m ) を 順 に 結 ぶ 直 線 に よ っ て 囲 ま れ る 範 囲。
指定年月日	平成26年3月18日
告 示 番 号	文部科学省告示第34号 (官報号外第55号)

⑫善右卫門山古墳 指定告示内容

種 別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 善右卫門山古墳
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥本町3丁
地 域	国土調査法による第VI座標系を基準とする432地点(X=-160458.625m Y=-47118.492m)、H E 04395地点(X=-160445.679m Y=-47119.910m)、K O 0415 地点 ( X =-160416.178m Y =-47093.812m )、 A H 0404 地点 ( X =-160432.323m Y =-47090.130m )、 A H 0403 地点 ( X =-160431.839m Y =-47088.029m )、 A H 0402 地 点 ( X =-160437.811 m Y =-47082.911 m )、 K O 0413 地 点 ( X =-160441.533 m Y =-47080.437 m )、 K O 0403 地 点 ( X =-160446.334 m Y =-47077.247m )、 K O 0414 地点 ( X =-160454.016m Y =-47088.548m )、 K O 0412 地点 ( X =-160455.747m Y =-47091.093m ) を 順 に 結 ぶ 直 線 に よ っ て 囲 ま れ る 範 囲。
指定年月日	平成26年3月18日
告 示 番 号	文部科学省告示第34号 (官報号外第55号)

## ⑬ 銭塚古墳 指定告示内容

種 別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 銭塚古墳
所在地	大阪府堺市堺区東上野芝町1丁
地 域	<p>国土調査法による第VI座標系を基準とするA H 0302地点(X=-160172.995m Y=-47365.990m)、E N 0364地点(X=-160153.199m Y=-47368.963m)、E N 0363 地点 ( X =-160150.891 m Y =-47369.181 m )、 A H 0301 地点 ( X =-160131.012 m Y =-47370.986 m )、 E N 0334 地点 ( X =-160130.993 m Y =-47346.058m)、K O 0302地点(X=-160123.901m Y=-47340.119m)、K O 0303 地点(X=-160119.234m Y=-47332.134m)、K O 0304地点(X=-160117.760m Y=-47323.002m)、K O 0305地点(X=-160119.649m Y=-47313.948m)、K O 0306 地点 ( X =-160124.456 m Y =-47306.045 m )、 K O 0307 地点 ( X =-160131.639 m Y =-47300.217 m )、 K O 0308 地点 ( X =-160140.344 m Y =-47297.089m )、 K O 0309地点(X=-160149.592m Y=-47297.285m)、K O 0310 地点 ( X =-160158.224m Y =-47300.611m )、 K O 0311地点 ( X =-160165.213m Y =-47306.670m )、 K O 0312地点 ( X =-160169.706m Y =-47314.755m )、 K O 0313 地点 ( X =-160171.222 m Y =-47323.880 m )、 K O 0314 地点 ( X =-160169.650 m Y =-47332.996 m )、 E N 0348 地点 ( X =-160164.977 m Y =-47340.988m)を順に結ぶ直線によって囲まれる範囲。</p>
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号(官報号外第55号)

⑭グワシヨウ坊古墳 指定告示内容

種 別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 グワシヨウ坊古墳
所在地	大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町3丁
地 域	<p>国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とするA2-1地点(X=-159913.731m Y=-47386.084m)、A3-1地点(X=-159931.110m Y=-47410.576m)、96H地点(X=-159951.087 m Y=-47419.354 m)、A4-1地点(X=-159952.699 m Y=-47420.093m)、124H地点(X=-159975.869m Y=-47413.122m)、A5-1地点(X=-159978.432 m Y=-47412.350 m)、A6-1地点(X=-159996.984 m Y=-47385.373m)、109H地点(X=-159996.909m Y=-47380.650m)、108H地点(X=-159996.835 m Y=-47375.989 m)、107H地点(X=-159996.746 m Y=-47370.379m)、A7-1地点(X=-159996.537m Y=-47357.225m)、106H地点(X=-159987.913 m Y=-47345.285 m)、131H地点(X=-159986.761 m Y=-47343.691m)、A8-1地点(X=-159979.751m Y=-47333.985m)、105H地点(X=-159976.091 m Y=-47332.653 m)、104H地点(X=-159975.094 m Y=-47332.290m)、103H地点(X=-159970.617m Y=-47330.661m)、102H地点(X=-159961.730 m Y=-47327.428 m)、A9-1地点(X=-159956.286 m Y=-47325.446m)、A10-1地点(X=-159929.327m Y=-47334.205m)、98H地点(X=-159924.078 m Y=-47341.507 m)、A11-1地点(X=-159911.935 m Y=-47358.397m)、97H地点(X=-159913.502m Y=-47382.555m)を順に結ぶ直線によって囲まれる範囲。</p>
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号(官報号外第55号)



## ⑮旗塚古墳 指定告示内容

種別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名称	百舌鳥古墳群 旗塚古墳
所在地	大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町3丁
地域	国土調査法による第VI座標系を基準とする03H地点(X=-159964.766m Y=-47525.332m)、02H地点(X=-159999.209m Y=-47522.175m)、01H地点(X=-160009.267m Y=-47521.253m)、47H地点(X=-160013.087m Y=-47468.209m)、12H地点(X=-160013.375m Y=-47464.216m)、11H地点(X=-160007.105m Y=-47454.363m)、10H地点(X=-160000.279m Y=-47450.613m)、09H地点(X=-159994.871m Y=-47447.647m)、08H地点(X=-159991.062m Y=-47445.558m)、07H地点(X=-159970.515m Y=-47449.047m)、06H地点(X=-159964.394m Y=-47456.213m)、05H地点(X=-159958.170m Y=-47463.499m)、04H地点(X=-159956.101m Y=-47477.047m)を順に結ぶ直線によって囲まれる範囲。
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号(官報号外第55号)

## ⑯寺山南山古墳 指定告示内容

種別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名称	百舌鳥古墳群 寺山南山古墳
所在地	大阪府堺市西区上野芝町1丁
地域	国土調査法による第VI座標系を基準とするK O 0101地点(X=-160062.748m Y=-47759.462m)、K O 0102地点(X=-160058.352m Y=-47754.195m)、K O 0103地点(X=-160055.894m Y=-47751.250m)、K O 0104地点(X=-160052.805m Y=-47747.549m)、K O 0105地点(X=-160052.033m Y=-47746.624m)、A N 0102地点(X=-160021.415m Y=-47709.938m)、K O 0106地点(X=-160025.809m Y=-47706.265m)、K O 0107地点(X=-160028.359m Y=-47704.134m)、A N 0103地点(X=-160065.354m Y=-47673.214m)、K O 0108地点(X=-160092.987m Y=-47706.061m)、K O 0109地点(X=-160096.253m Y=-47709.943m)、K O 0110地点(X=-160116.385m Y=-47733.874m)、K 8106X地点(X=-160103.018m Y=-47740.538m)、K 8107X地点(X=-160088.394m Y=-47747.829m)、K 8108X地点(X=-160074.925m Y=-47754.545m)、K 8001P地点(X=-160067.768m Y=-47758.113m)、K 8002K地点(X=-160062.962m Y=-47759.413m)を順に結ぶ直線によって囲まれる範囲。
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号(官報号外第55号)

⑰七観音古墳 指定告示内容

種 別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 七観音古墳
所在地	大阪府堺市堺区旭ヶ丘北町5丁
地 域	国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とするS2-1地点(X=-159961.829m Y=-47748.764m)、S3-1地点(X=-159961.829m Y=-47762.562m)、S4-1地点(X=-159970.953 m Y=-47771.684 m)、S5-1地点(X=-159985.002 m Y=-47771.684m)、S6-1地点(X=-159994.016m Y=-47762.670m)、S7-1地点(X=-159994.016 m Y=-47748.015 m)、S8-1地点(X=-159985.148 m Y=-47739.147m)、KS9-1地点(X=-159971.445m Y=-47739.147m)を順に結ぶ直線によって囲まれる範囲。
指定年月日	平成26年3月18日
告示番号	文部科学省告示第34号(官報号外第55号)

⑱御廟山古墳内濠 指定告示内容

種 別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 御廟山古墳内濠
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥本町1丁
地 域	20-1, 21-7
指定年月日	平成30年10月15日
告示番号	文部科学省告示第193号(官報号外第226号)

⑲ニサンザイ古墳内濠 指定告示内容

種 別	史跡 統合・追加指定・名称変更
名 称	百舌鳥古墳群 ニサンザイ古墳内濠
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥西之町3丁
地 域	420-1のうち実測61172.29㎡, 424-2のうち実測177.00㎡
指定年月日	平成31年2月26日
告示番号	文部科学省告示第25号(官報号外第36号)

## (2) 指定説明文とその範囲

史跡百舌鳥古墳群、各古墳の指定時の説明文並びに指定範囲図を以下に明示する。

名 称	百舌鳥古墳群 いたすけ古墳 長塚古墳 収塚古墳 塚廻古墳 文珠塚古墳 丸保山古墳 乳岡古墳 御廟表塚古墳 ドンチャ山古墳 正楽寺山古墳 鏡塚古墳 善右エ門山古墳 銭塚古墳 グワシヨウ坊古墳 旗塚古墳 寺山南山古墳 七観音古墳 御廟山古墳内濠 ニサンザイ古墳内濠
員 数	19基
指定面積	170,345.36㎡ 平成26年3月18日 統合・追加指定・名称変更 文部科学省告示第34号 平成28年3月1日 追加指定 乳岡古墳 358.74㎡ 平成30年10月15日 追加指定 御廟山古墳内濠 34866.30㎡ 平成31年2月26日 追加指定 ニサンザイ古墳内濠 61349.29㎡
所有者	堺市、国、大阪府、個人

## 〈指定説明〉

平成26年3月18日	百舌鳥古墳群(統合・追加指定・名称変更)	文部科学省告示第34号
<p>百舌鳥古墳群は大阪湾を望む台地端部を中心に立地しており、東西・南北約4kmの範囲に4世紀末から6世紀前半にかけて形成された古墳群である。古墳群の特徴は、巨大前方後円墳の仁徳天皇陵古墳を核に、大型及び中型の前方後円墳、帆立貝式古墳、墳長20m前後の円墳や方墳など、さまざまな形態・規模の古墳で構成されている点である。</p> <p>その中の一つ、いたすけ古墳は墳長140mに達する前方後円墳であり、昭和31年5月に史跡指定された。墳長106mの前方後円墳である長塚古墳と、仁徳天皇陵古墳外周に位置する墳長65mの帆立貝式古墳である収塚古墳および直径34mの円墳である塚廻古墳については、昭和33年5月に史跡指定された。墳長約58mの前方後円墳である文珠塚古墳は、昭和46年4月に史跡指定され、仁徳天皇陵古墳外周に位置する墳長約80mの帆立貝式古墳である丸保山古墳は昭和47年7月に史跡指定された。乳岡古墳は、墳長約155mに復元される前方後円墳で、築造年代が4世紀に遡ると考えられ、百舌鳥古墳群の成立期を考える上で重要な古墳であることから、昭和49年1月に史跡指定された。</p> <p>今回追加指定するのは10基の古墳である。これらの古墳については堺市教育委員会によって発掘調査が行われてきたが、平成18年度からは百舌鳥古墳群の適切な保護・活用を図るための範囲確認調査が継続的に行われた。その結果、これらの古墳について墳丘規模や築造年代などが明らかとなった。</p> <p>御廟表塚古墳は百舌鳥古墳群の東寄りに位置する帆立貝式古墳で、前方部は削平を受けているが、後円部と濠の一部は保存されている。昭和62年以降の発掘調査により、墳長約85m、後円部直径は約68m、周濠を含めた総長は約97mと推定される。墳丘は2段築成で、葺石と埴輪が確認されている。この円筒埴輪の年代観より5世紀後半の築造と推定される。</p> <p>ドンチャ山古墳は古墳群の南東に位置する円墳で、昭和57年度に確認調査が実施され、墳丘裾等が確認されていることから、直径約26mと推定される。出土遺物から6世紀前半頃の築造と考</p>		

えられる。

正楽寺山古墳はドンチャ山古墳の西側に隣接している円墳で、平成 21 年に実施された発掘調査の成果から、直径 16m 前後で、周濠幅約 3.4m 以上である。墳丘は 2 段築成である。出土した須恵器から 6 世紀前半でも中ごろに近いころの築造と考えられる。

鏡塚古墳は、仁徳天皇陵古墳の東側に位置する 5 世紀代の円墳である。平成 5 年から平成 7 年にかけて行われた発掘調査によって墳丘盛土の裾部および周濠を検出したことから直径 26m の円墳であることが判明した。また、周濠の可能性のある落ち込みも確認されている。

善右エ門山古墳は、いたすけ古墳の後円部南東側に位置する方墳である。平成 12 年と平成 15 年に行われた発掘調査では、墳丘平坦面の円筒埴輪列を確認し、それらの位置関係から一辺 28m の方墳であることが推定された。同時に、周濠をもたないことも確認された。出土した円筒埴輪と須恵器から、築造時期は 5 世紀前半である。築造時期や位置関係から、いたすけ古墳に付属する古墳と考えられる。

銭塚古墳は、いたすけ古墳の北東に位置する帆立貝式古墳で、昭和 56・57 年と平成 19 年の発掘調査の結果、墳長約 72m、後円部直径約 54m、前方部長約 44m の規模であることが判明した。明確な周濠は確認されていない。出土した埴輪より 5 世紀代の築造と推測できる。

グワショウ坊古墳は、古墳群の中で最大級にして独立して存在する円墳である。平成 19 年と平成 20 年に発掘調査が行われた結果、規模は東西 61m、南北 56m で、楕円形を呈することが明らかとなった。出土した円筒埴輪や形象埴輪、須恵器などから 5 世紀後半の築造と考えられる。

旗塚古墳は、グワショウ坊古墳の西側に隣接する帆立貝式古墳で、平成 19 年と 20 年に行われた発掘調査の成果から、墳長約 58m、後円部直径約 42m、前方部長約 25m の規模と推定される。また、後円部の南側には約 13m の幅で 3m 張り出す造り出しを有している。出土した円筒埴輪などから 5 世紀代の築造と考えられる。

寺山南山古墳は、履中天皇陵古墳の北東側に位置する方墳である。平成 11 年以降、4 回の発掘調査とともに、レーダ探査が行われている。その結果、長辺約 45m、短辺約 36m の長方形を呈することが判明した。墳丘は 2 段築成で周濠を有し、南西側では履中天皇陵古墳の周濠と共有していた可能性がある。出土した円筒埴輪と須恵器から 5 世紀初頭の築造と考えられる。

七観音古墳は、履中天皇陵古墳の北側に位置する円墳である。昭和 58 年に測量および発掘調査を実施し、その成果により、直径 32.5m の円墳であることが判明した。ただし、周濠の明瞭な痕跡が確認されていないことから、古墳築造当初から周濠が設けられなかった可能性がある。

以上のように、百舌鳥古墳群には巨大な前方後円墳だけでなく、中・小型の前方後円墳・円墳・方墳も数多く築かれており、墳丘形態や規模などにおいて格差が明瞭である。これは、当該地域に一大政治集団が存在していたことを示すと共に、有力首長と中小首長層からなる当時の政治的・社会的構造を如実に示していると考えられることから、わが国の古墳群の中でも極めて希有な事例である。また、わが国における古代国家形成期を考える上で、当時の中央政権の状況を知ることのできる極めて重要な古墳群といえる。

したがって、今回これら既指定のいたすけ古墳、長塚古墳、収塚古墳、塚廻古墳、文珠塚古墳、丸保山古墳、乳岡古墳に、御廟表塚古墳、ドンチャ山古墳、正楽寺山古墳、鏡塚古墳、善右エ門山古墳、銭塚古墳、グワショウ坊古墳、旗塚古墳、寺山南山古墳、七観音古墳を追加指定・統合し、これらを総称して、「百舌鳥古墳群」と名称変更し、一体的に保護を図ろうとするものである。

文化庁文化財部監修『月刊文化財』第 605 号（平成 26 年 2 月）より抜粋

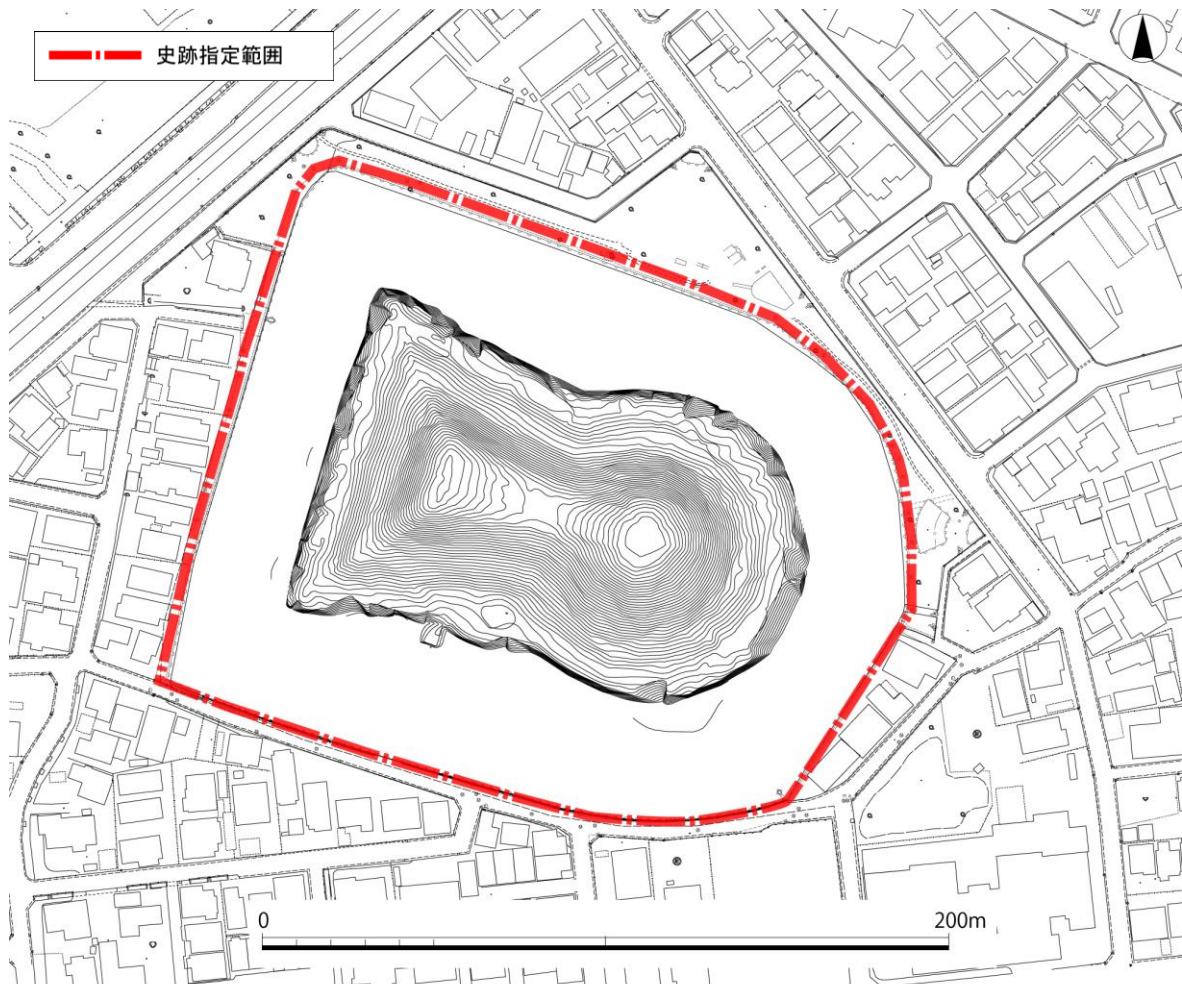
平成 28 年 3 月 1 日	百舌鳥古墳群（乳岡古墳 追加指定）	文部科学省告示第 35 号
<p>百舌鳥古墳群は、堺市内の東西・南北約 4km の範囲に、4 世紀後半から 6 世紀前半にかけて形成された古墳群である。本古墳群は本来、100 基を超える古墳からなっていたが、現在は 44 基が往時の姿を留めている。古墳群の特徴は、列島最大の巨大前方後円墳である仁徳天皇陵古墳を頂点として、前方後円墳、帆立貝形古墳、墳丘直径あるいは一辺が 20m 前後の円墳・方墳など、様々な規模と形態の古墳で構成されている点である。</p> <p>これらの古墳については昭和 31 年、いたすけ古墳が史跡に指定され、昭和 49 年までに 7 基の古墳が史跡指定されていたが、平成 26 年にはこれらの古墳に新たに 10 基の古墳を追加指定し、統合して全体を「百舌鳥古墳群」として保護を図ることとした。</p> <p>今回、追加指定しようとするのは乳岡古墳である。本古墳は、百舌鳥古墳群の南西部に位置する墳長 155m の前方後円墳である。昭和初期に前方部を失い、後円部は一部改変されながらも直径 94m の規模で残存している。ここには長持形石棺が遺存し、周辺からは鍬形石 3 個体、車輪石 18 個体、異形石製品 1 個体を確認している。本古墳は 4 世紀後半頃に築造され、百舌鳥古墳群で最も古い古墳で、古墳群成立の様相を知る上で重要であることから、昭和 47 年、後円部と前方部の一部が史跡に指定された。今回、条件の整った部分を追加指定し、保護の万全を図るものである。</p> <p style="text-align: center;">文化庁文化財部監修『月刊文化財』第 629 号（平成 28 年 2 月）より抜粋</p>		

平成 30 年 10 月 15 日	百舌鳥古墳群 御廟山古墳内濠 追加指定・名称変更	文部科学省告示第 193 号
<p>百舌鳥古墳群は、堺市内の東西・南北約 4km の範囲に、古墳時代中期から後期（4 世紀後半から 6 世紀前半）にかけて形成された。本古墳群は本来 100 基を超える古墳からなっていたが、現在は 44 基が往時の姿をとどめている。古墳群の特徴は、列島最大の巨大前方後円墳である墳長 486m の仁徳天皇陵古墳を頂点として、前方後円墳・帆立貝形古墳および直径あるいは一辺が 20m 前後の円墳・方墳など、さまざまな規模と墳形の古墳で構成されている点である。</p> <p>これらの古墳は昭和 31 年、いたすけ古墳が史跡に指定され、昭和 49 年までに 7 基の古墳が史跡指定され、平成 26 年にはこれらの古墳に新たに 10 基の古墳を追加指定し、統合して 17 基の古墳を「百舌鳥古墳群」として保護を図ることとした。</p> <p>今回、追加指定しようとする百舌鳥古墳群の中央部に位置する御廟山古墳の内濠である。この古墳の墳丘については百舌鳥陵墓参考地として宮内庁が管理を行っており、宮内庁では将来の護岸工事に備えること、堺市教育委員会では墳丘裾部や内濠の保護措置を検討する基礎資料を得ることを目的に、平成 20 年度に同時調査を実施した。その結果、墳長約 203m、後円部直径約 113m、後円部高 18.3m、前方部最大幅約 136m の前方後円墳であり、墳丘は三段築成で、くびれ部には南側だけに、造出を設けていたことが明らかとなった。墳丘の周囲には二重の周濠を有し、外濠は幅約 16m で、濠を含めた総長は約 350m に達する。</p> <p>出土遺物には、円筒埴輪・蓋形埴輪及び動物形埴輪・家形埴輪がある。その特徴から百舌鳥古墳群では、履中天皇陵古墳（墳長 365m）、御廟山古墳、仁徳天皇陵古墳（墳長 486m）、ニサンザイ古墳（墳長 290m）の順で連続して巨大古墳が築造されたことが判明した。</p> <p>このように、御廟山古墳は百舌鳥古墳群の中で墳長約 203m という大型前方後円墳の実態を明らかにしたという点で重要である。</p> <p>今回、宮内庁によって管理されている御廟山古墳（百舌鳥陵墓参考地）墳丘の周囲にめぐらされている内濠を追加指定し、保護の万全を図るものである。</p> <p style="text-align: center;">文化庁文化財部監修『月刊文化財』第 660 号（平成 30 年 9 月）より抜粋</p>		

平成 31 年 2 月 26 日	百舌鳥古墳群 ニサンザイ古墳内濠 追加指定・名称変更	文部科学省告示第 25 号
<p>百舌鳥古墳群は、堺市内の東西約 4km、南北約 4km の範囲に、古墳時代中期から後期（4 世紀後半から 6 世紀前半）にかけて形成された古墳群である。</p> <p>本古墳群は本来 100 基を超える古墳からなっていたが、現在は 44 基が往時の姿を留めている。古墳群の特徴は、列島最大の巨大前方後円墳である墳長 486m の仁徳天皇陵古墳を頂点として、前方後円墳、帆立貝形古墳並びに直径あるいは一辺が 20m 前後の円墳・方墳など、さまざまな規模と墳形の古墳から構成されている点である。</p> <p>これらの古墳は昭和 31 年、いたすけ古墳が史跡指定され、昭和 49 年までに 7 基の古墳が史跡指定された。平成 26 年にはこれら 7 基の古墳を統合し、新たに 10 基の古墳を加えて名称変更し、17 基の古墳を「百舌鳥古墳群」として保護を図ることとした。平成 30 年には御廟山古墳内濠が追加指定され、現在は 18 基の古墳が史跡指定されている。</p> <p>今回、追加指定しようとするのは百舌鳥古墳群の南東端部に位置するニサンザイ古墳の内濠である。この古墳の墳丘は東百舌鳥陵墓参考地として宮内庁が管理を行っている。宮内庁では墳丘の護岸及び法面保護を図るため、堺市教育委員会では墳丘裾部や内濠に関する基礎資料を得ることを目的に、平成 24 年度から 27 年度に発掘調査を実施した。そのうち平成 24 年度の調査は宮内庁と堺市教育委員会による同時調査である。その結果、墳長 300.3m、後円部直径 168.6 m、後円部高 24.6m、前方部最大幅 246.4m、前方部高 25.9m の前方後円墳であり、墳丘は三段築成で、両側のくびれ部に造出を設けていたことが明らかとなった。墳丘の周囲には二重の周濠を有し、総長は約 480m に達する。なお、これまで遺構としては確認されていないものの、外濠の外側に面的な高まりが確認されており、外堤が存在する可能性が指摘されている。墳丘第一段斜面には葺石がほとんど葺かれていないか、葺かれていても極めてまばらであったとみられる。</p> <p>内濠の後円部主軸線上では幅 12m、長さ 55m に及ぶ範囲で 7 列 35 基の柱穴が検出されている。柱穴は大きいもので一辺 0.9m、深さ 1m 前後で、掘方は方形に近い。これらの柱穴は内濠を横断していることから木橋遺構に伴うものと考えられる。ほとんどの柱穴で柱が抜き取られていることから、古墳築造の最終段階か築造直後に架けられ短期間で撤去されたものと考えられる。</p> <p>出土遺物には円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪、翳形埴輪、須恵器、木製蓋立ち飾り、笠形木製品、翳形木製品がある。その特徴から五世紀後半の築造と考えられる。</p> <p>これらの調査成果を受けて、堺市では平成 28 年にニサンザイ古墳周濠を堺市指定史跡として指定し、保護を図っている。</p> <p>このように、ニサンザイ古墳の調査は百舌鳥古墳群の中で墳長 300m という大型前方後円墳の実態を明らかにしたという点で重要である。今回、宮内庁によって東百舌鳥陵墓参考地として管理されているニサンザイ古墳墳丘の周囲に巡らされている内濠を追加指定し、保護の万全を図るものである。</p> <p style="text-align: center;">文化庁文化財部監修『月刊文化財』第 665 号（平成 31 年 2 月）より抜粋</p>		

## ①いたすけ古墳 指定説明文とその範囲

種別：史跡（古墳）	名称：百舌鳥古墳群 いたすけ古墳
所在地：堺市北区百舌鳥本町3丁340, 339-1, 339-2, 338	指定面積：29,977.08㎡
管理団体：堺市（昭和31年8月9日指定）	
指定説明：昭和31年・昭和37年『大阪府の文化財』・平成26年指定説明	
<p>《昭和31年指定説明》</p> <p>字板鶴と称せられる地に有する。前方部を西に面して営まれた前方後円墳で主軸の長さ約140mを有する宏壯な墳丘をなしている。封土は三段に築成され、くびれ部の南側には造り出しが残存し、周囲に堀がめぐらされている。仁徳天皇陵、履中天皇陵を中心とする百舌鳥古墳群の中においても主要な地位を占めるものであり、保存の状態もきわめて良好であり、わが国の古墳文化を考える上に価値深いものがある。</p> <p>《昭和37年『大阪府の文化財』》巻末資料参照</p> <p>《平成26年指定説明：百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号》</p>	

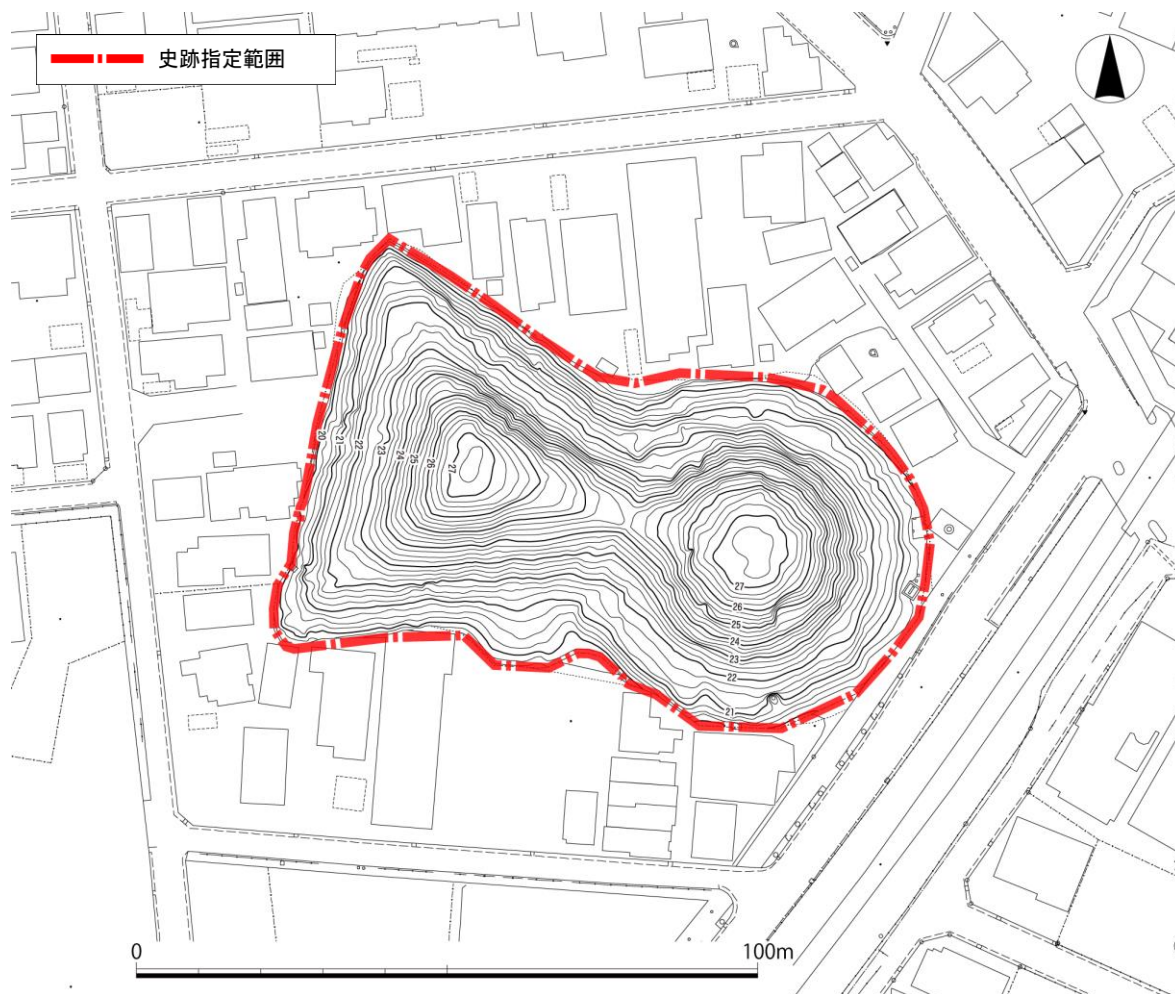


①いたすけ古墳 史跡指定範囲



## ②長塚古墳 指定説明文とその範囲

種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 長塚古墳
所在地：堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 260-1～260-5	指定面積：5,099.62 m <sup>2</sup>
指定説明：昭和 33 年・平成 26 年指定説明	
<p>≪昭和 33 年指定説明≫</p> <p>仁徳天皇陵の東南に近接して存在する。前方部をほぼ西に面する前方後円墳で、主軸の長さ約 100 mを有し、まわりに堀の跡をとどめる。ほぼ旧規を存しており、百舌鳥古墳群の一として重要である。</p> <p>≪平成 26 年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第 605 号≫</p>	

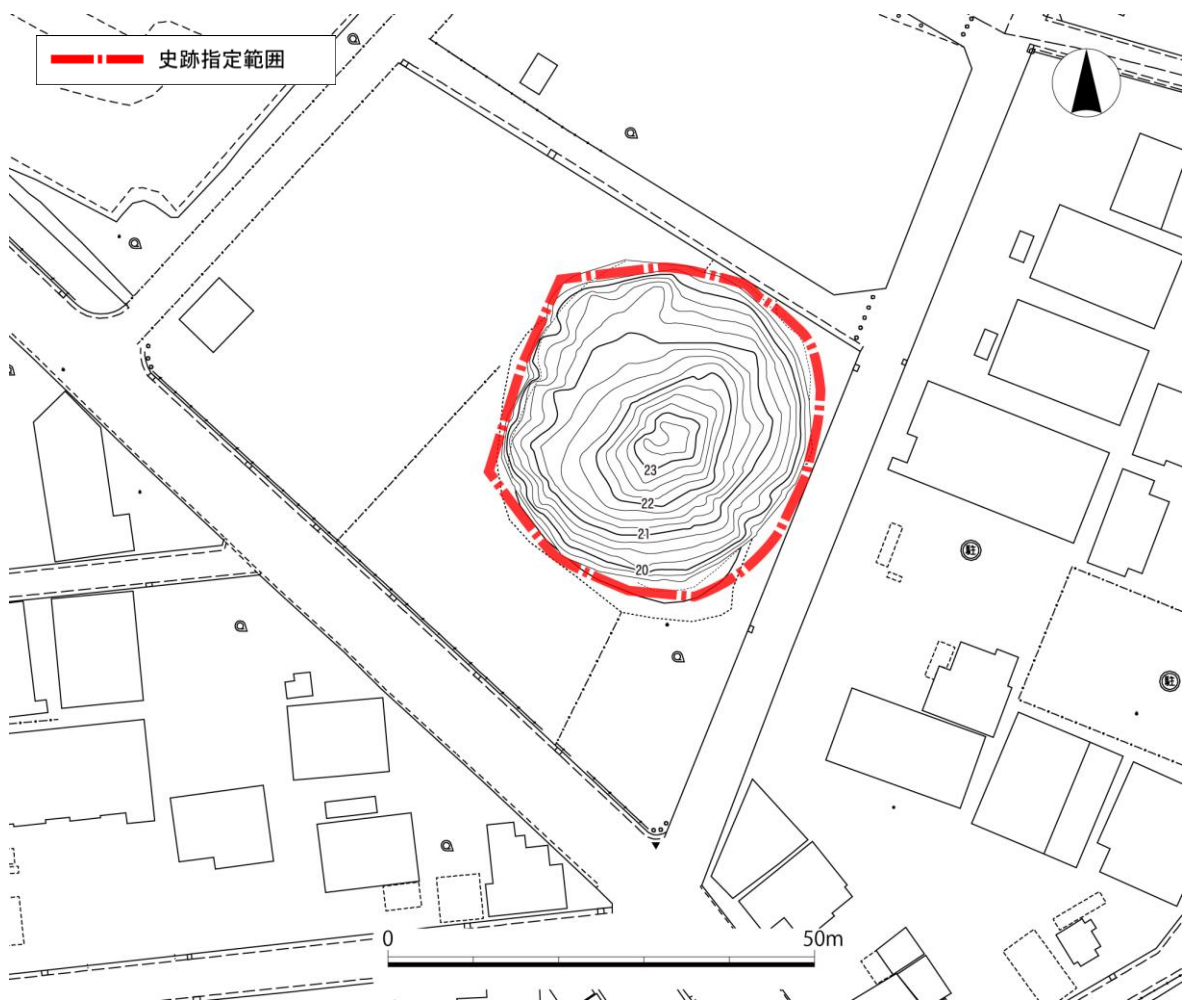


②長塚古墳 史跡指定範囲



③収塚古墳 指定説明文とその範囲

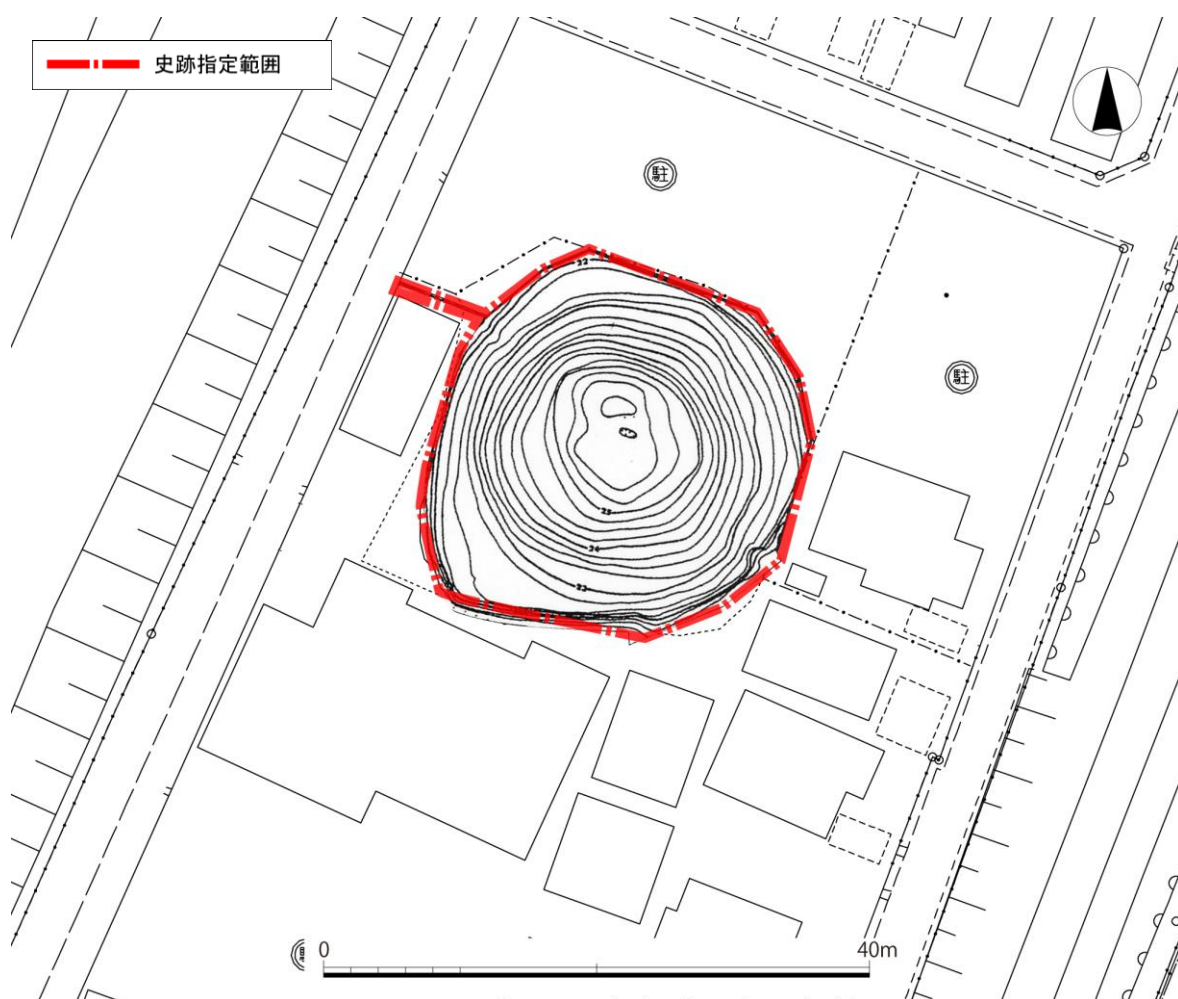
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 収塚古墳
所在地：堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁149	指定面積：743㎡
指定説明：昭和33年・平成26年指定説明	
≪昭和33年指定説明≫ 仁徳天皇陵の東南に近接して存する。基底径約40m、高さ約4.5mの円墳をなし、北がわに堀の痕跡をとどめている。墳丘は低平でやや旧規を損なうも百舌鳥古墳群の一として重要である。 ≪平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号≫	



③収塚古墳 史跡指定範囲

#### ④塚廻古墳 指定説明文とその範囲

種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 塚廻古墳
所在地：堺市堺区百舌鳥夕雲町1丁27	指定面積：704㎡
指定説明：昭和33年・平成26年指定説明	
<p>《昭和33年指定説明》</p> <p>仁徳天皇陵の東方に近接して存する。基底径約30m、高さ約9.5mの円墳をなし、周囲に円筒埴輪列がめぐらされている。明治45年6月坪井正五郎博士、柴田常恵氏等によって発掘され封土深く剝抜いた丸木船状の木材施設があることがたしかめられ、鏡、刀、剣、勾玉、管玉、棗玉、丸玉、小玉等が発見された。</p> <p>百舌鳥古墳群の一として重要な存在をなすものである。</p> <p>《平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号》</p>	



④塚廻古墳 史跡指定範囲

## ⑤文珠塚古墳 指定説明文とその範囲

種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 文珠塚古墳
所在地：堺市西区上野芝向ヶ丘町1丁772-3	指定面積：1,651 m <sup>2</sup>
指定説明：昭和46年・平成26年指定説明	
<p>《昭和46年指定説明》</p> <p>国鉄阪和線の上野芝駅の南方にあり、履中天皇陵の位置する台地の南方、石津川の支流を隔てた丘陵上に位置する前方後円墳である。墳丘の全長は約70m、前方部は幅約35m、高さ約5m、後円部は直径約35m、高さ約6mであるが、墳丘上に葺石、埴輪は認められず、内部主体、周濠などについては明らかにされていない。</p> <p>この古墳は、丘陵の最高所に位置しているなどの占地条件からして、この百舌鳥野南古墳群の中の主墳として位置づけられる性格をもつものと考えられる。</p> <p>現在、すでに古墳群としての形態は失われてはいるが、和泉地方における数少ない群集墳の主墳と目される古墳であり、学術上価値の高いものである。</p> <p>《平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号》</p>	

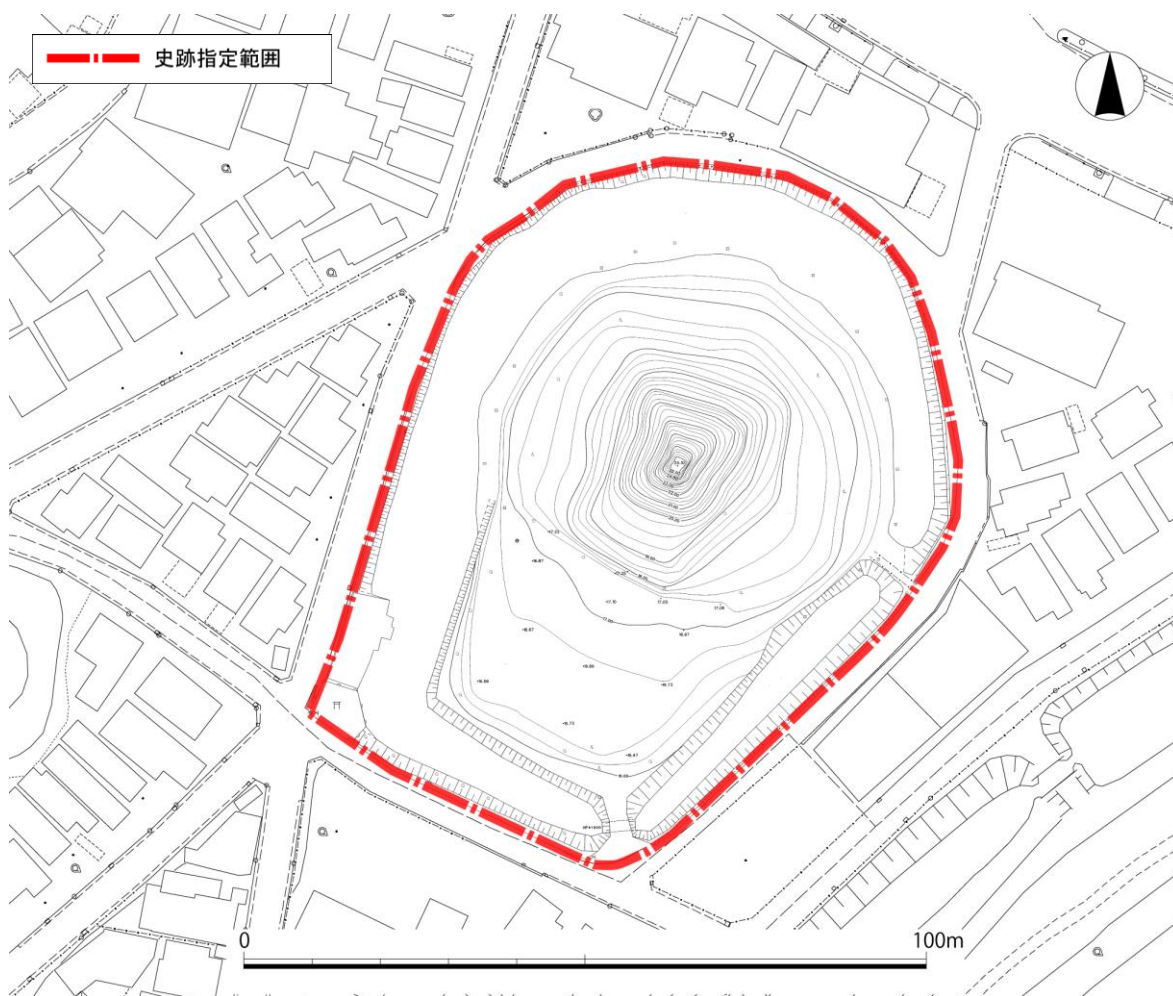


⑤文珠塚古墳 史跡指定範囲



## ⑥丸保山古墳 指定説明文とその範囲

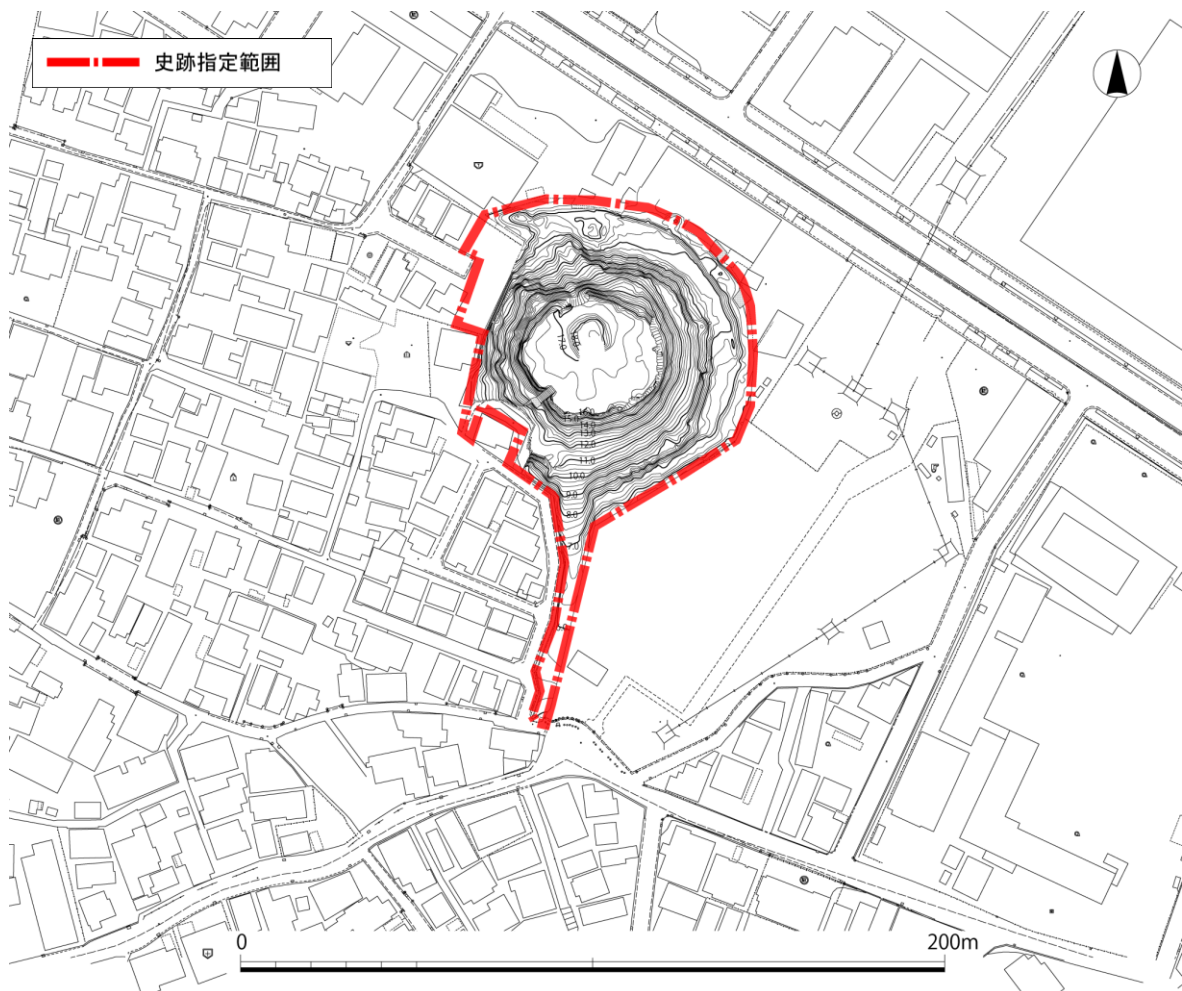
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 丸保山古墳
所在地：堺市堺区北丸保園 30, 31 - 1, 32	指定面積：6667.95 m <sup>2</sup>
指定説明：昭和 47 年・平成 26 年指定説明	
<p>≪昭和 47 年指定説明≫</p> <p>仁徳天皇陵の西北、御陵の外堤の西約 30mにある全長 80m、後円部径 60m、前方部幅 50mの前方後円墳で、幅約 10mの外濠をめぐらしている。前方部は早くから削平されていたが、その旧規はよく遺されている。</p> <p>≪平成 26 年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第 605 号≫</p>	



⑥丸保山古墳 史跡指定範囲

## ⑦乳岡古墳 指定説明文とその範囲

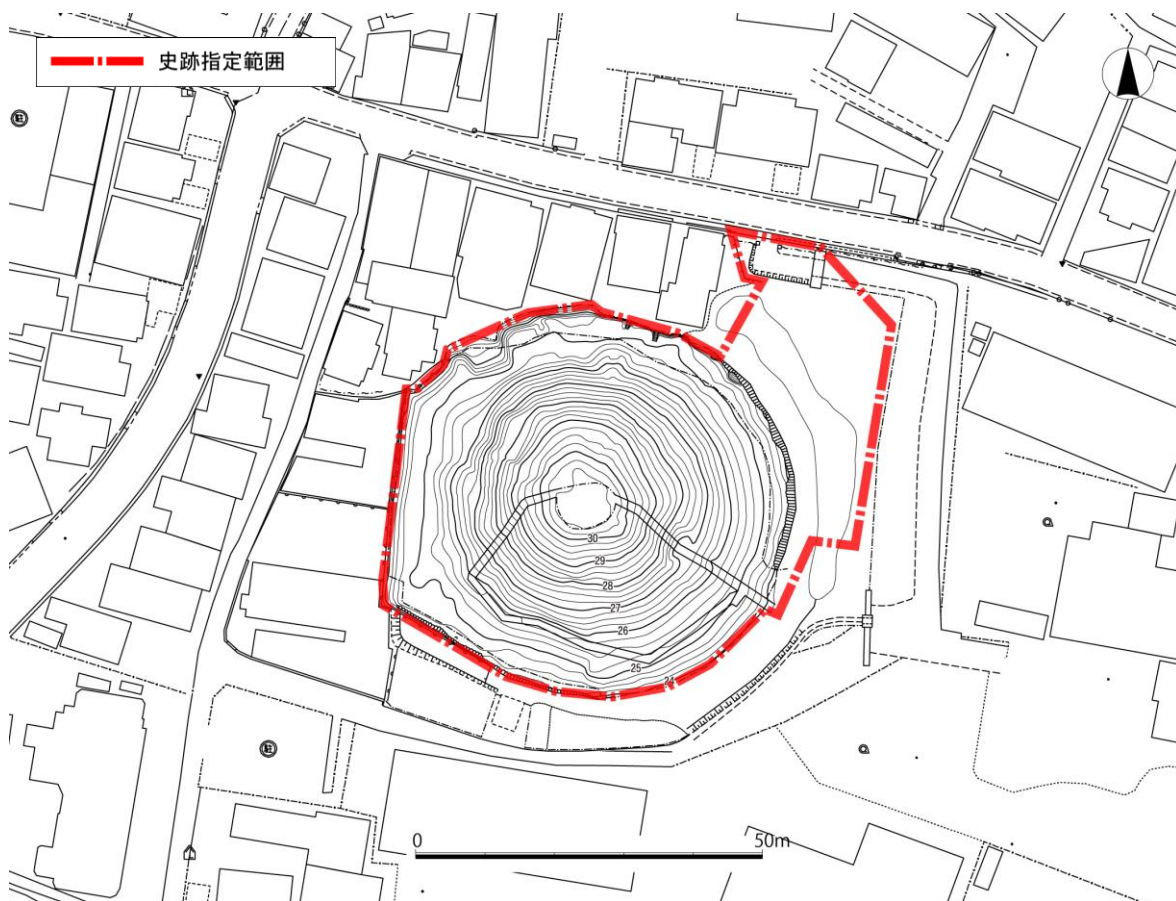
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 乳岡古墳
所在地：堺市堺区石津町2丁620-1, 620-2, 620-34～620-39, 609-10, 634, 609-26～28	指定面積：5,888.74㎡
指定説明：昭和49年・平成26年・平成28年指定説明	
<p>〈昭和49年指定説明〉</p> <p>わが国最大の古墳群である百舌鳥古墳群の最も西南に位置する大形の前方後円墳である。墳丘は前方部を西南に向けており、全長約150m、後円部径約94m、同高さ約14mの規模を有する。昭和47年発掘調査により、墳頂ほぼ中央に粘土で被われた長持形石棺とその外側に車輪石・鍬形石等が発見された。</p> <p>現在、前方部のほとんどを失っているが、百舌鳥古墳群中西南部最も大阪湾寄りに築造された大形の前方後円墳として重要である。</p> <p>〈平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号〉</p> <p>〈平成28年指定説明 百舌鳥古墳群（乳岡古墳 追加指定）『月刊文化財』第629号〉</p>	



⑦乳岡古墳 史跡指定範囲

⑧御廟表塚古墳 指定説明文とその範囲

種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 御廟表塚古墳
所在地：堺市 北区中百舌鳥町4丁 536-7の一部, 543-3, 546	指定面積：3,269.26㎡
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	

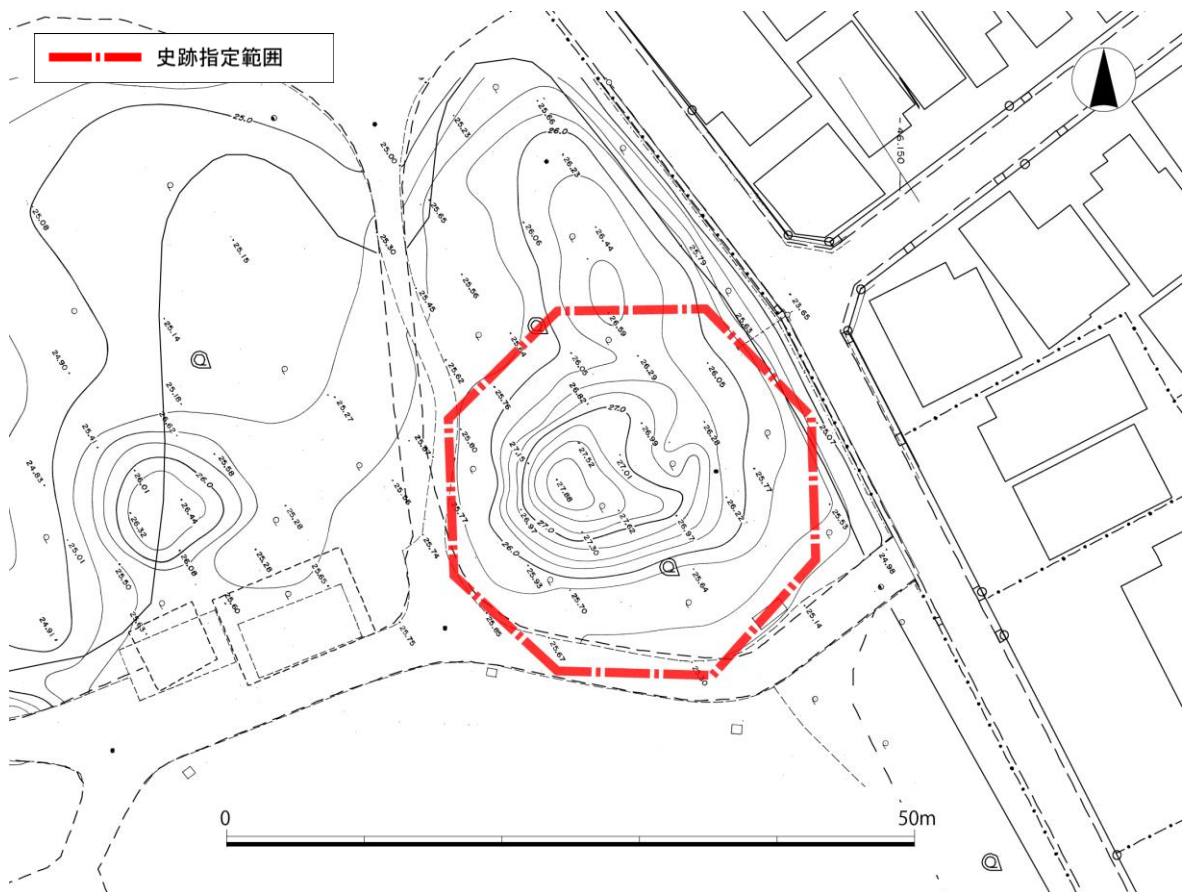


⑧御廟表塚古墳 史跡指定範囲



⑨ドンチャ山古墳 指定説明文とその範囲

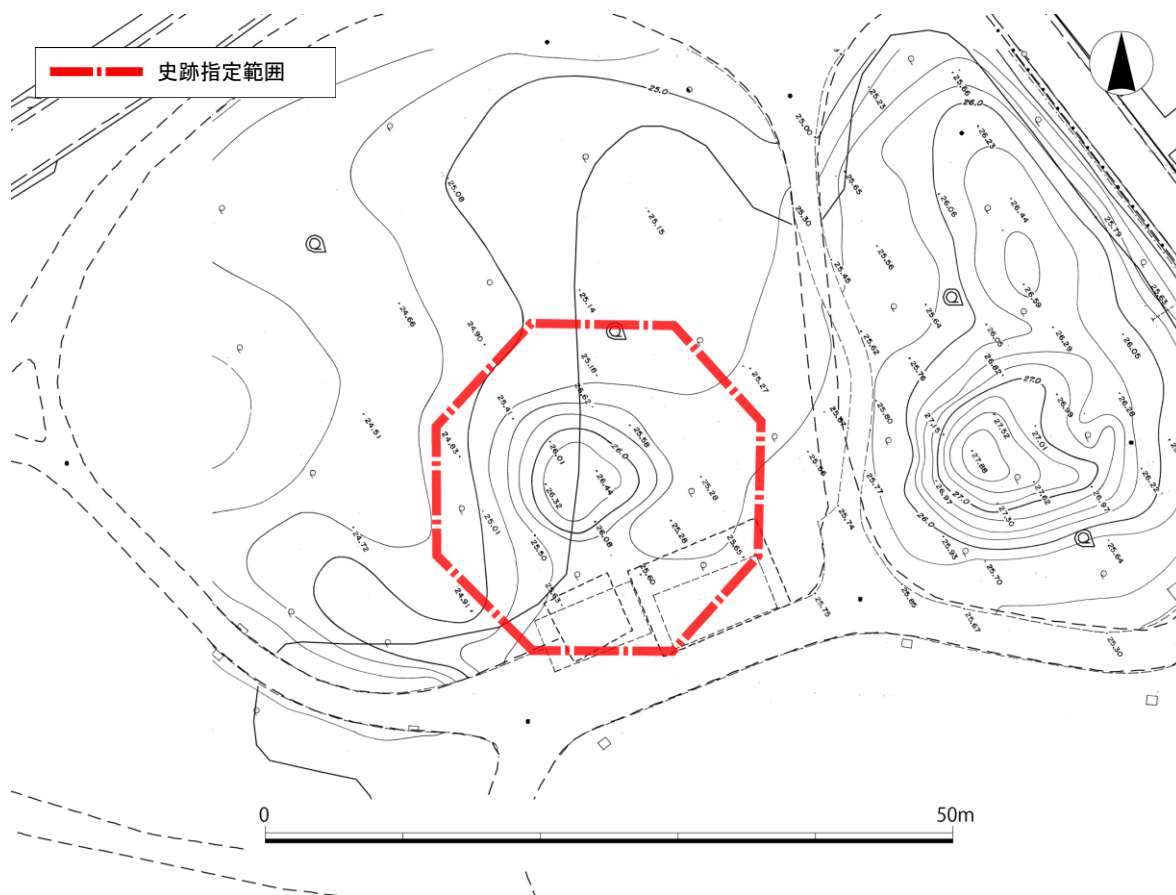
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 ドンチャ山古墳
所在地：堺市北区百舌鳥陵南町3丁294 一部	指定面積：578.07 m <sup>2</sup>
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	



⑨ドンチャ山古墳 史跡指定範囲

⑩正楽寺山古墳 指定説明文とその範囲

種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 正楽寺山古墳
所在地：堺市北区百舌鳥陵南町3丁294一部	指定面積：459.17㎡
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	

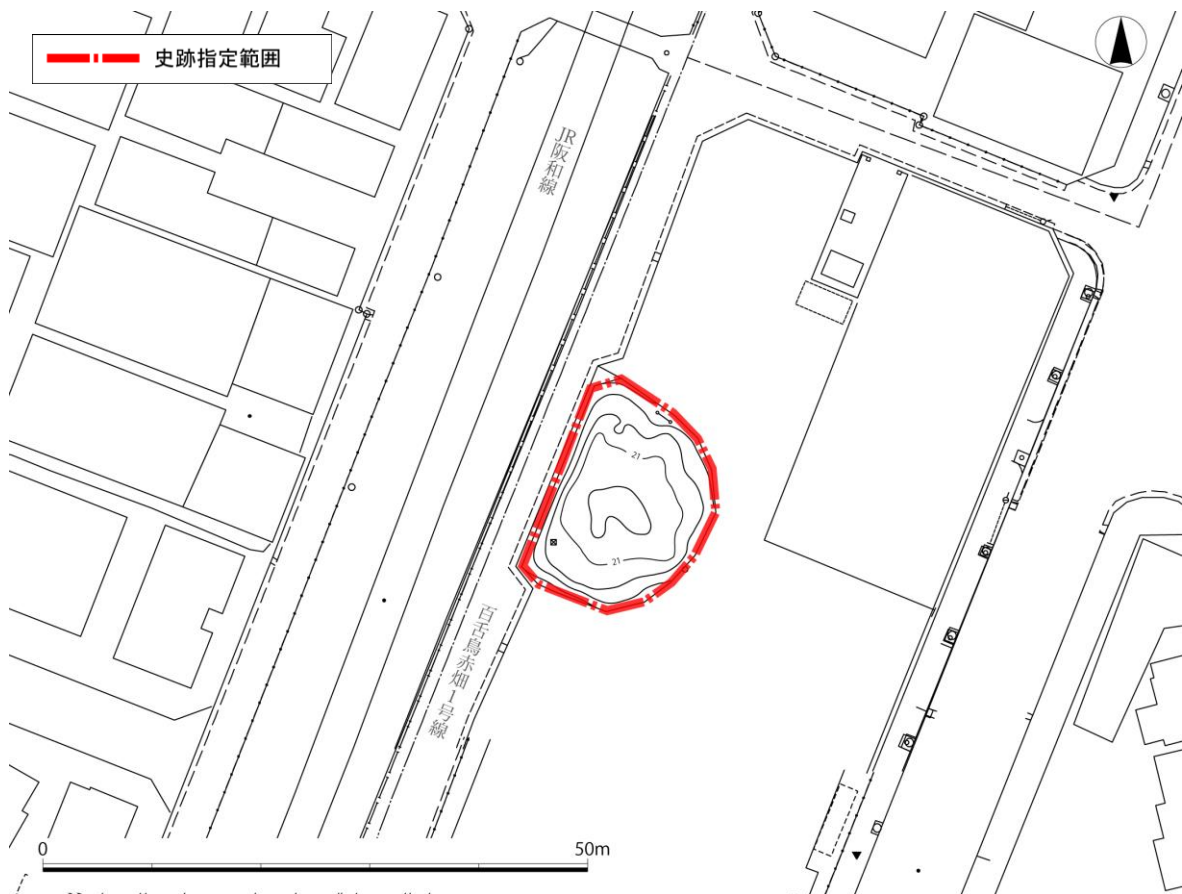


⑩正楽寺山古墳 史跡指定範囲



①鏡塚古墳 指定説明文とその範囲

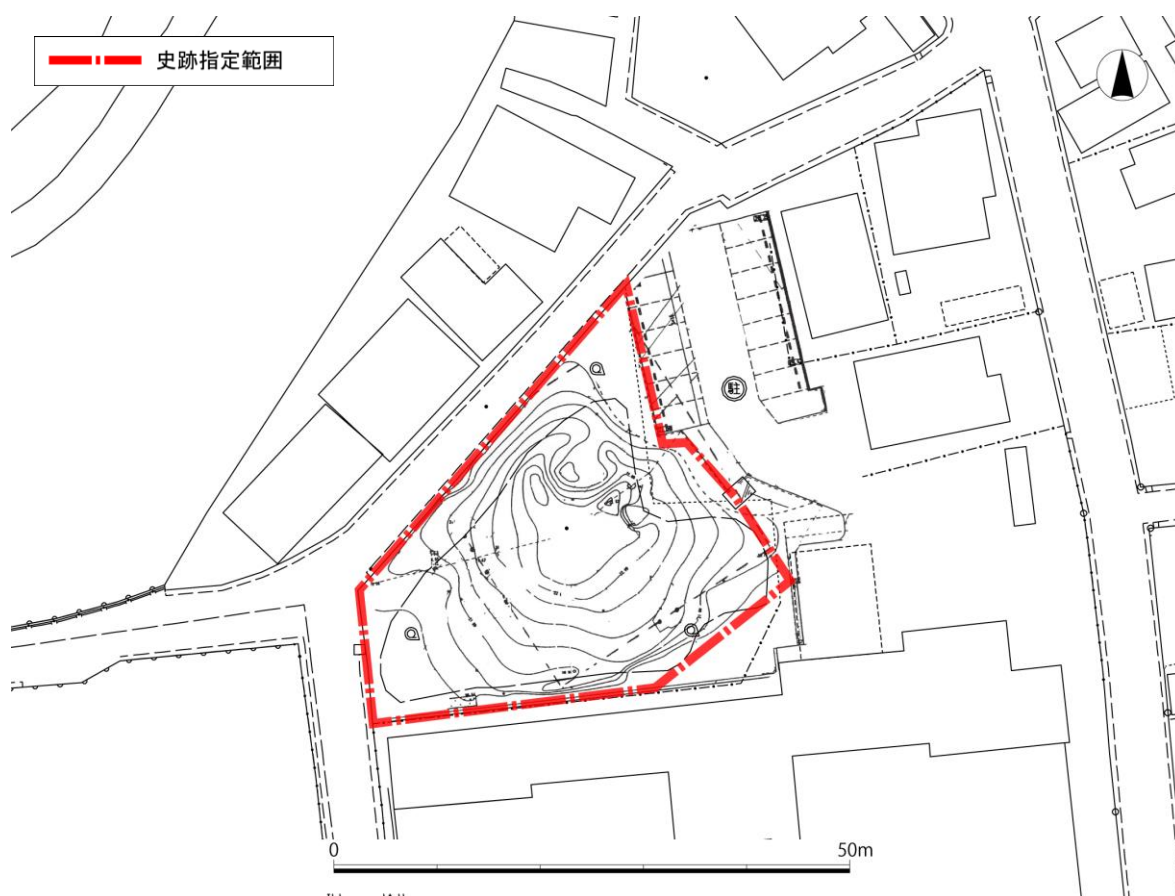
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 鏡塚古墳
所在地：堺市北区百舌鳥赤畑町2丁 90-1, 90-2, 91-1, 91-5 の各一部	指定面積：251.36㎡
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	



①鏡塚古墳 史跡指定範囲

⑫善右工門山古墳 指定説明文とその範囲

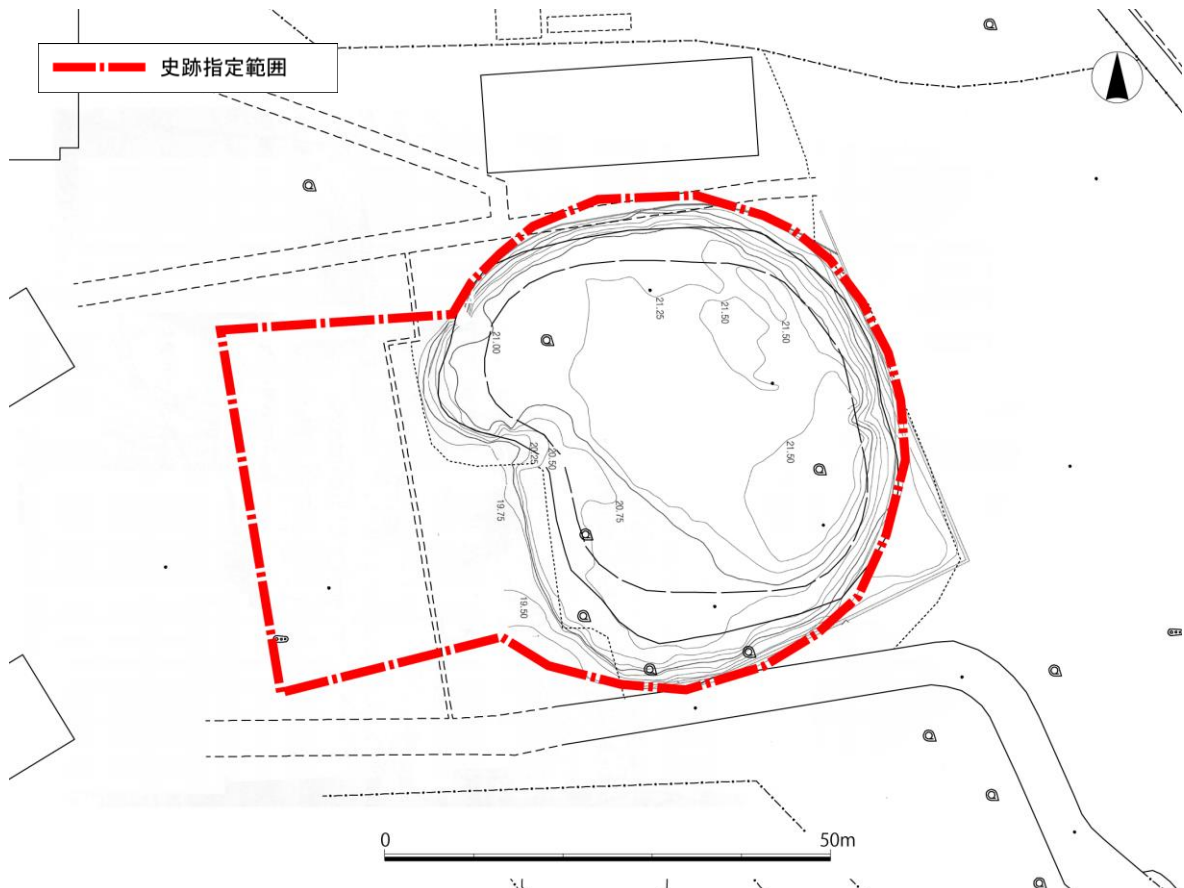
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 善右工門山古墳
所在地：堺市北区百舌鳥本町3丁 424-1, 430-1, 430-2 の各一部	指定面積：967.09 m <sup>2</sup>
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	



⑫善右工門山古墳 史跡指定範囲

⑬ 銭塚古墳 指定説明文とその範囲

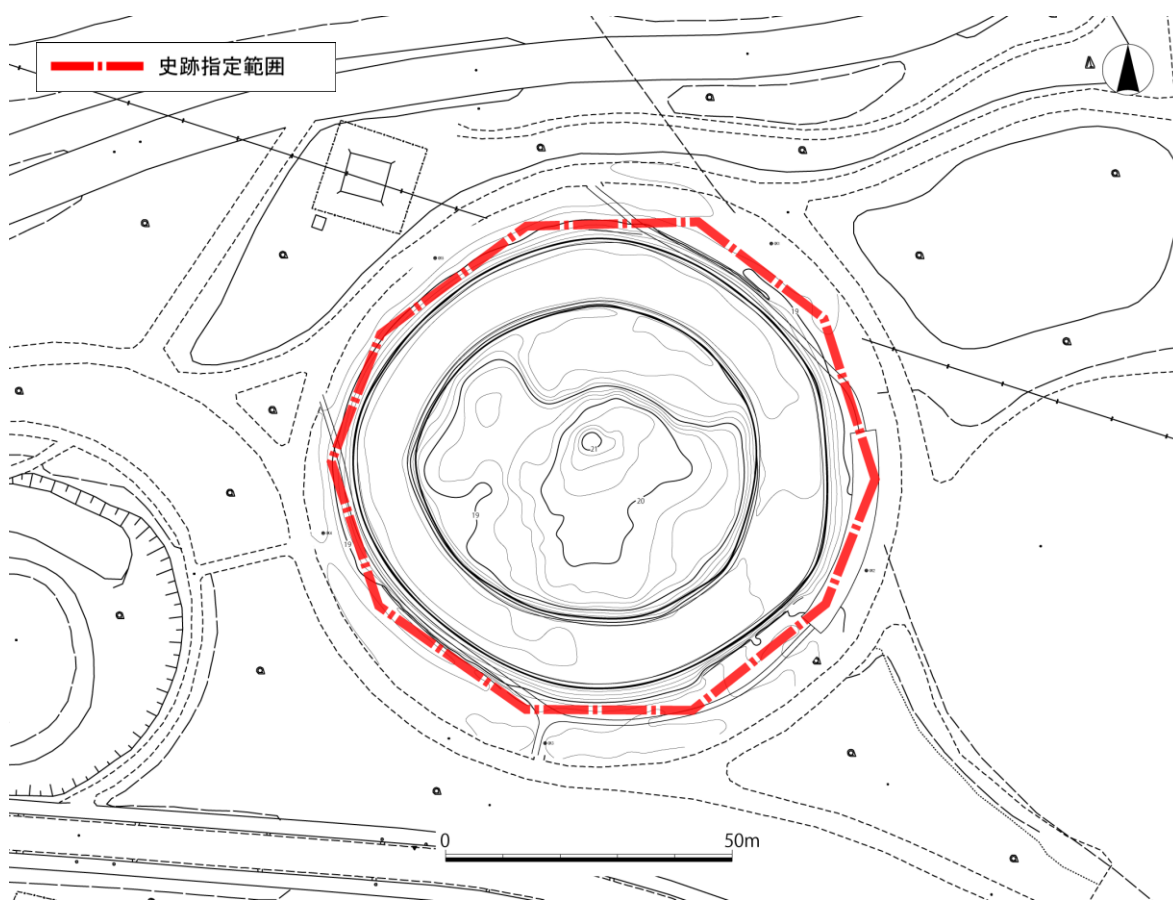
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 銭塚古墳
所在地：堺市堺区東上野芝町1丁71-1 一部	指定面積：3031.51 m <sup>2</sup>
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	



⑬ 銭塚古墳 史跡指定範囲

⑭グワショウ坊古墳 指定説明文とその範囲

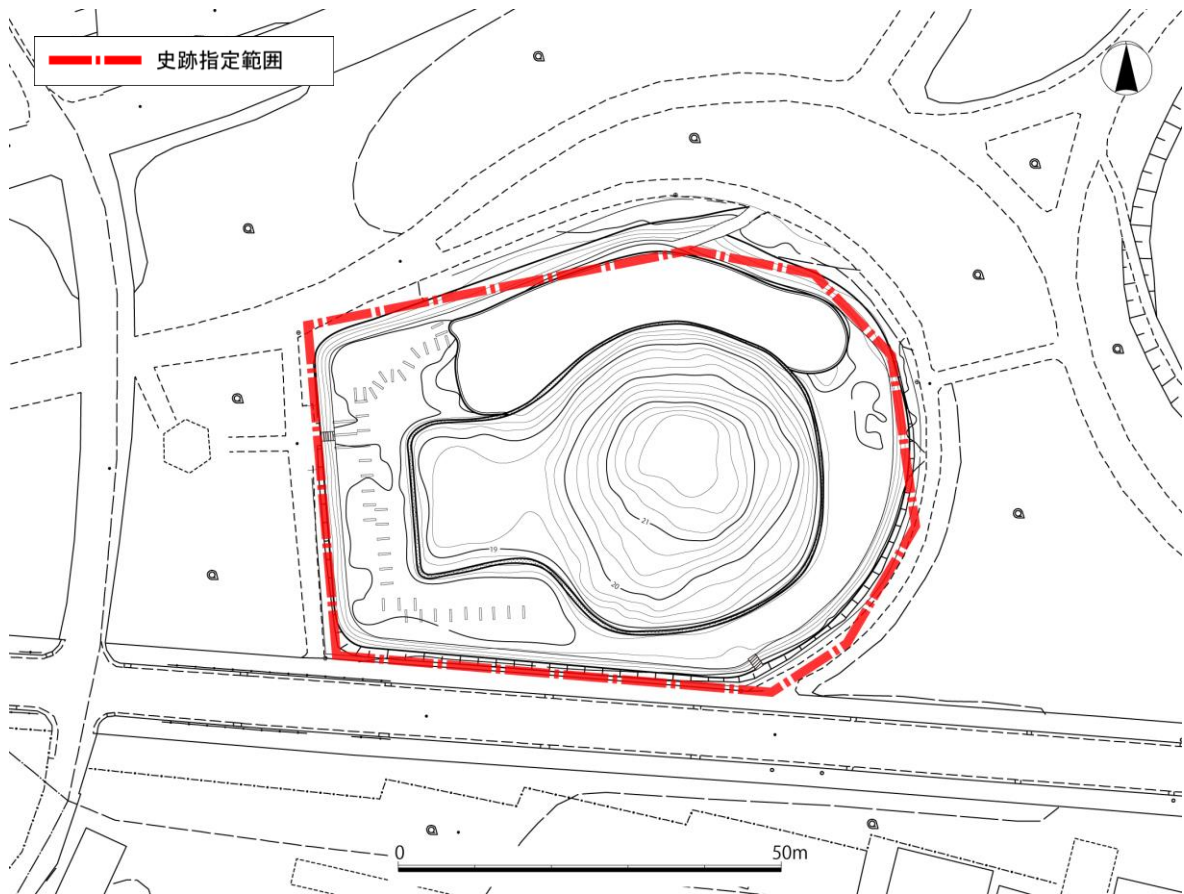
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 グワショウ坊古墳
所在地：堺市堺区百舌鳥夕雲町3丁 508 一部, 510, 511, 512-1 一部, 522 一部, 537 一部, 538 一部, 539 一部, 540, 541, 543, 544, 545 一部, 546, 603 一部(ほか里道・水路)	
指定面積：6,049.07㎡	
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	



⑭グワショウ坊古墳 史跡指定範囲

⑮旗塚古墳 指定説明文とその範囲

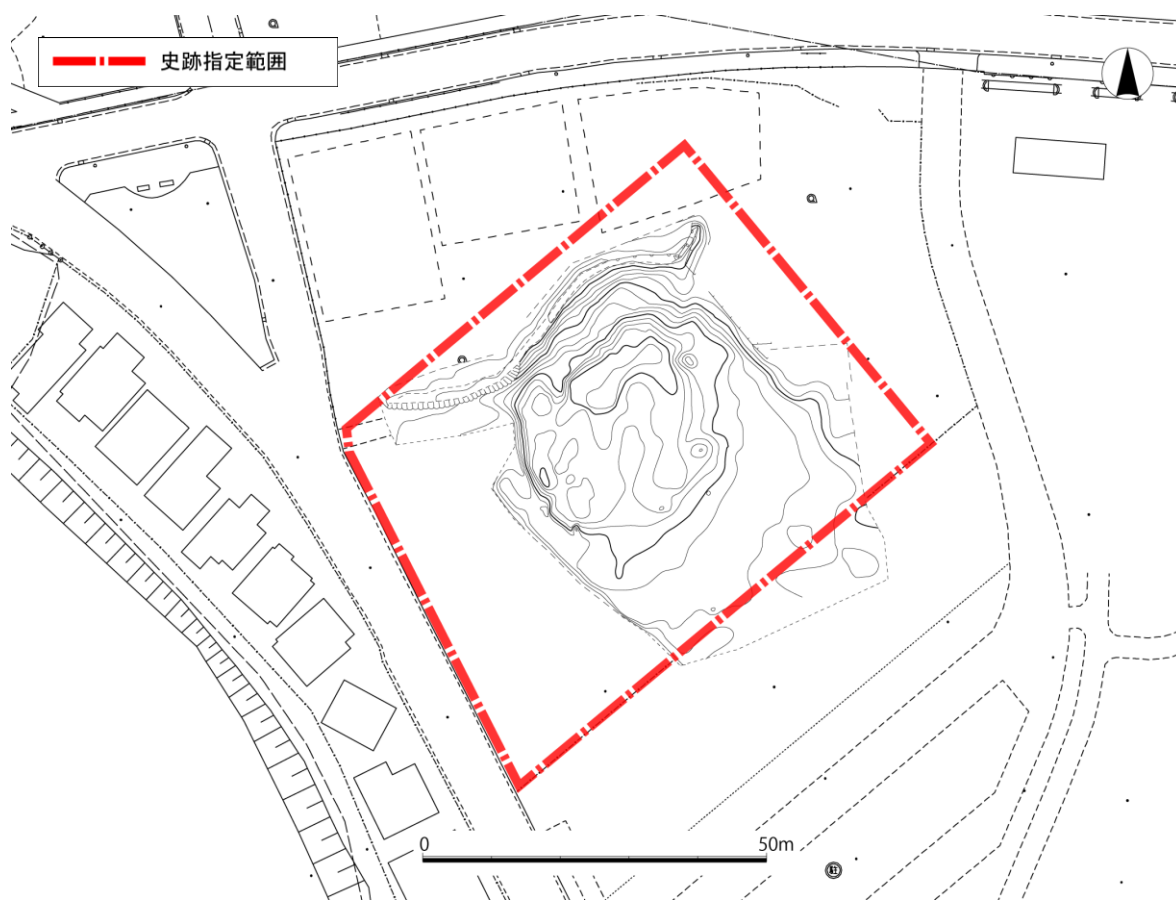
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 旗塚古墳
所在地：堺市堺区百舌鳥夕雲町3丁 530,526-1 一部, 528, 529, 531	指定面積：3,759.14 m <sup>2</sup>
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	



⑮旗塚古墳史跡指定範囲

⑩寺山南山古墳 指定説明文とその範囲

種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 寺山南山古墳
所在地：堺市西区上野芝町1丁 314-1, 309-1, 318-1, 318-4 一部 (ほか水路)	指定面積：4,154.75㎡
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	

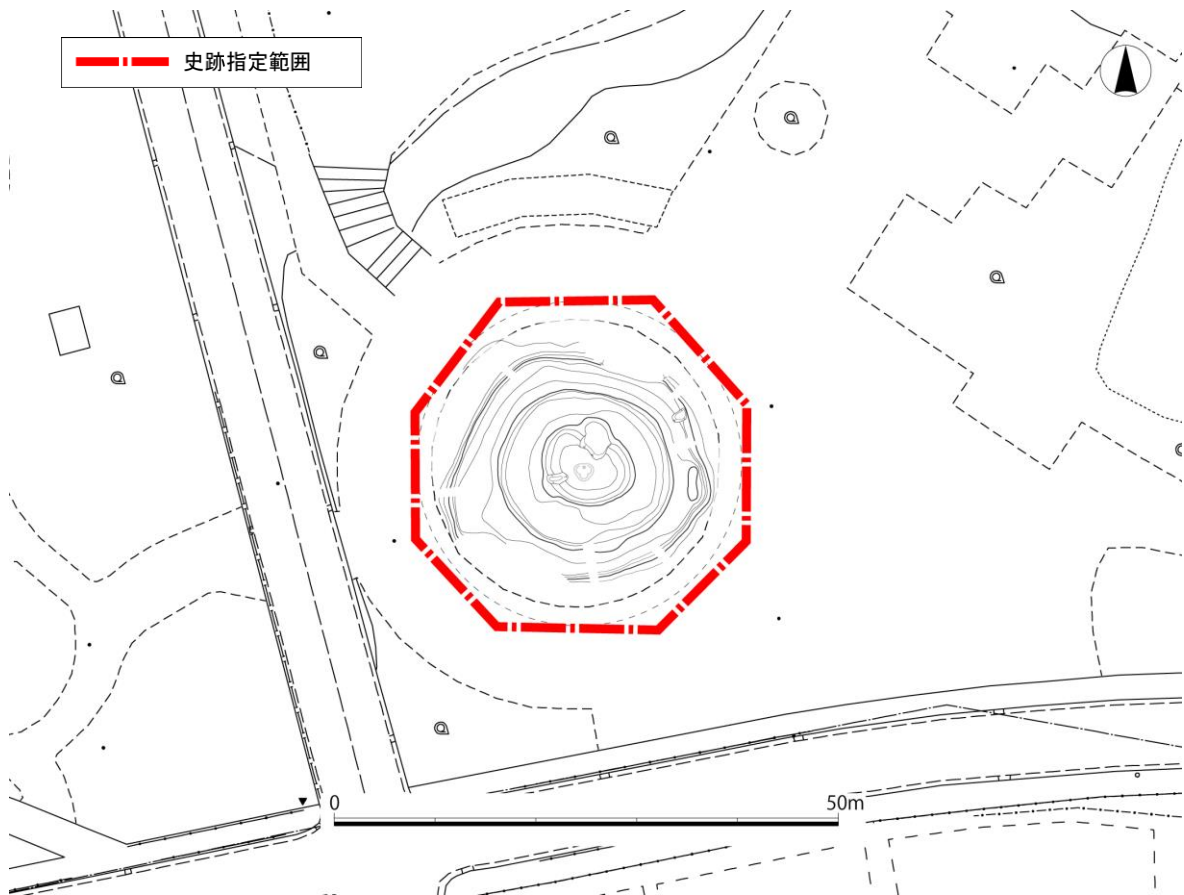


⑩寺山南山古墳 史跡指定範囲



⑰七観音古墳 指定説明文とその範囲

種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 七観音古墳
所在地：堺市堺区旭ヶ丘北町5丁 226, 220-4 一部, 220-5 一部	指定面積：879.46 m <sup>2</sup>
指定説明：平成26年指定説明 百舌鳥古墳群（統合・追加指定・名称変更）『月刊文化財』第605号	

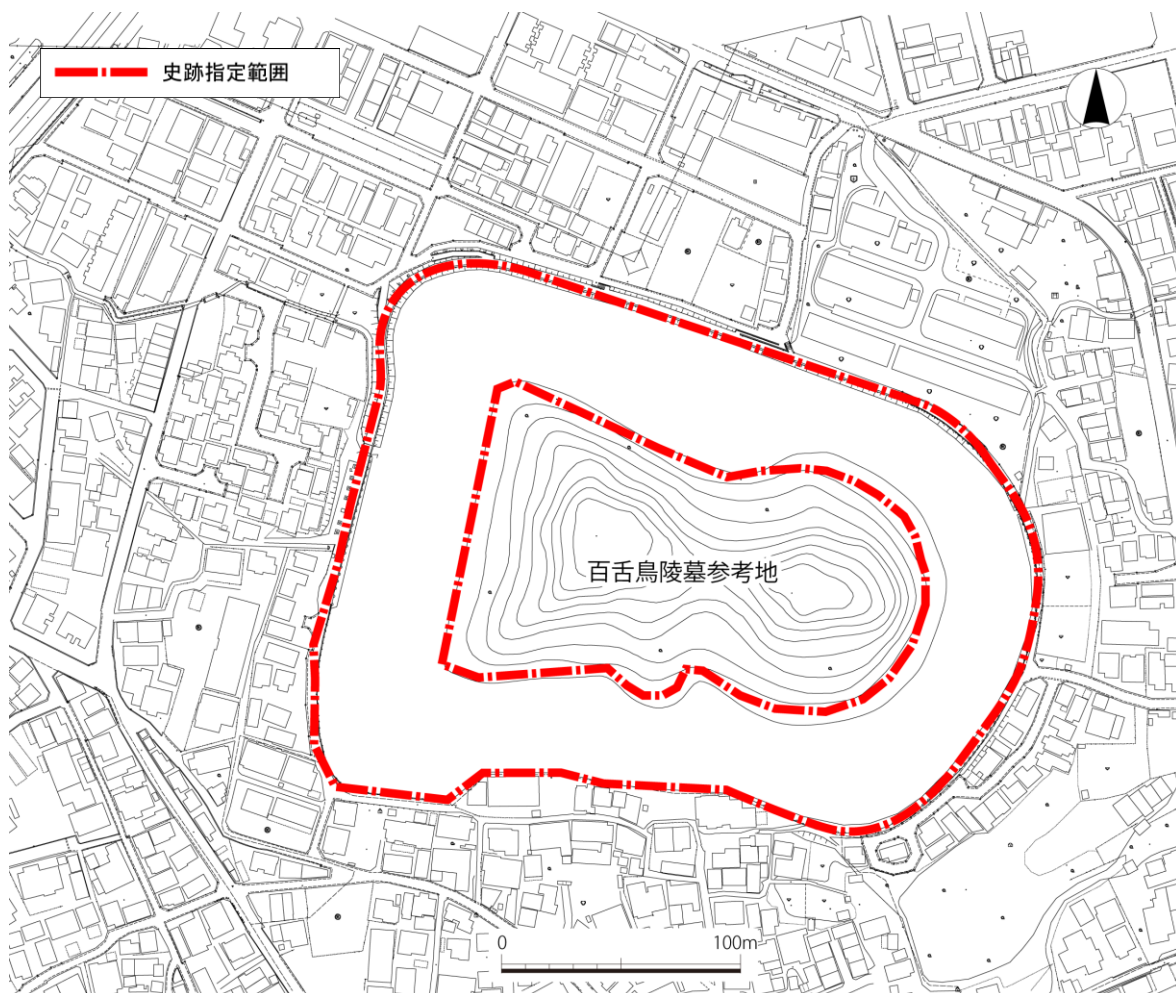


⑰七観音古墳 史跡指定範囲



⑱御廟山古墳内濠 指定説明文とその範囲

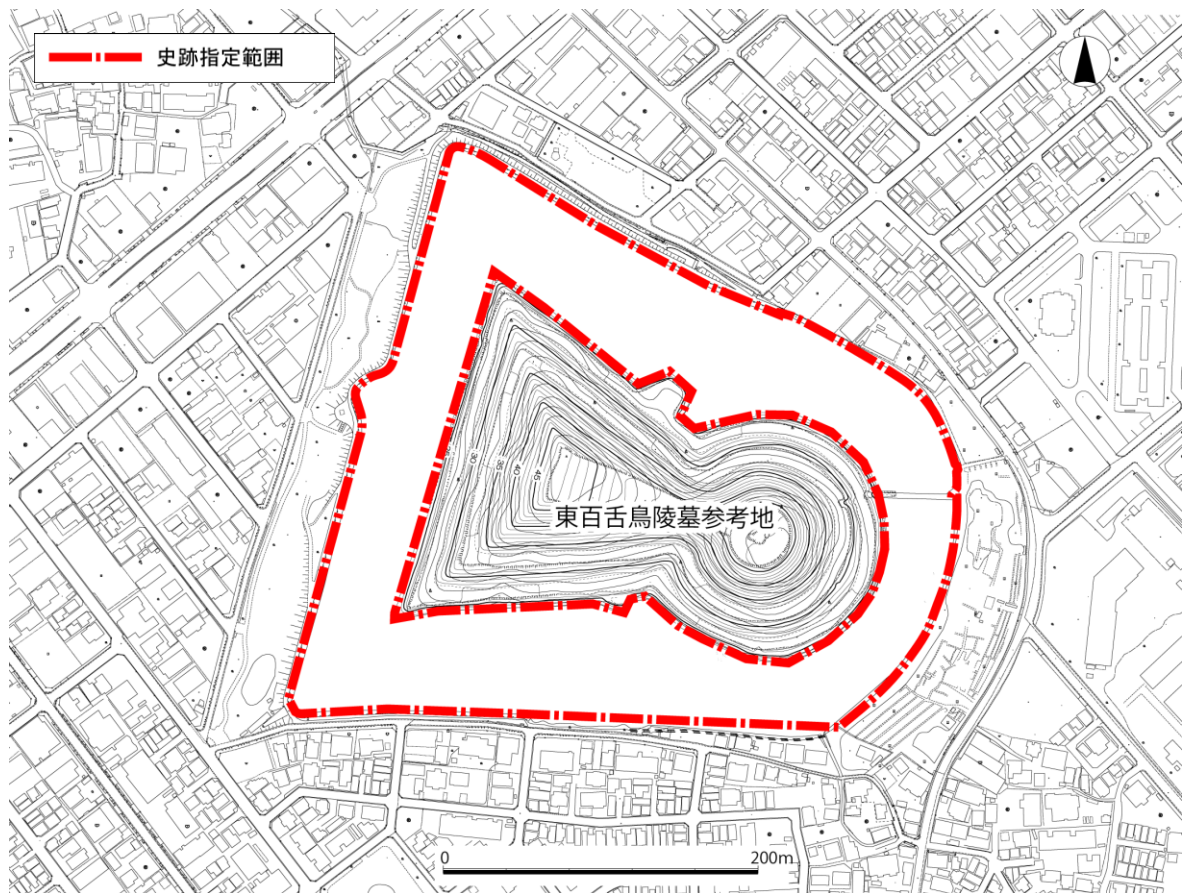
種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 御廟山古墳内濠
所在地：堺市北区百舌鳥本町1丁20-1、21-7	指定面積：34,866.30㎡
指定説明：平成30年指定説明 百舌鳥古墳群（追加指定・名称変更）『月刊文化財』第660号	



⑱御廟山古墳内濠 史跡指定範囲

⑨ニサンザイ古墳内濠 指定説明文とその範囲

種 別：史跡（古墳）	名 称：百舌鳥古墳群 ニサンザイ古墳内濠
所在地：堺市北区百舌鳥西之町3丁 420-1 一部、424-2	指定面積：61,349.29㎡
指定説明：平成31年指定説明 百舌鳥古墳群（追加指定・名称変更）『月刊文化財』第665号	



⑨ニサンザイ古墳内濠 史跡指定範囲

### (3) 指定に至る調査成果

これまでの史跡百舌鳥古墳群に関する発掘調査の履歴は以下のとおりである。

平成 10 年（1998）までは周濠調査を中心に実施した。それ以降は周濠に加えて墳丘を調査し、近年は地中レーダ探査と併せて、各古墳の規模・内容を検証している。また、整備基本計画（第 1 期）に基づき、整備活用に向け史跡内の発掘調査を実施している。

史跡百舌鳥古墳群の主な調査履歴

調査年度	調査対象古墳	調査概要	報告書名 /発行年
昭和 44 年	①いたすけ古墳・ ⑫善右工門山古墳	平板墳丘測量調査	1 /1974
昭和 47 年	①いたすけ古墳	周堤護岸設置工事に伴う範囲確認調査（発掘）	2
昭和 47 年	⑦乳岡古墳	埋葬施設内容確認調査（発掘）	1 /2008
昭和 48 年	⑤文珠塚古墳	平板墳丘測量調査	1 /1974
昭和 51 年 昭和 52 年	⑲ニサンザイ古墳	後円部側内濠・北側二重濠範囲確認調査（発掘） 南側・北側二重濠範囲確認調査（発掘）	1 /1978
昭和 56 年 昭和 57 年	⑬銭塚古墳	周濠・墳丘裾・前方部調査（試掘）	1 /2009
昭和 58 年	⑰七観音古墳	公園整備に伴う墳丘周堤調査（発掘）	1 /2008
	⑨ドンチャ山古墳	公園整備に伴う周濠・外周調査（発掘）	1 /1986
	⑩正楽寺山古墳	公園整備に伴う周濠・外周調査（発掘）	1 /1986
昭和 60 年	⑦乳岡古墳	周濠範囲確認調査（発掘）	2 /1986
昭和 61 年	③収塚古墳	水道管布設に伴う後円部東側周濠調査（試掘・立会）	1 /1989
	⑮旗塚古墳	公園墳丘裾護岸工事に伴う墳丘裾調査（発掘）	1 /1988
昭和 62 年	⑧御廟表塚古墳	駐車場整備に伴う後円部南東側周濠調査（発掘）	1 /1988
	⑫善右工門山古墳	水道管布設に伴う古墳北側・周濠調査（立会）	1 /1989
平成元年	①いたすけ古墳	前方部南側外堤調査（発掘）	3 /1990
	④塚廻古墳	下水道管布設に伴う墳丘西側調査（試掘・立会）	1 /1996
平成 2 年	③収塚古墳	下水道管布設に伴う後円部東側周濠調査（試掘・立会）	2 /1996
平成 3 年	⑱御廟山古墳	周遊路工事に伴う後円部側二重濠調査（発掘）	1 /1994
平成 5 年	②長塚古墳	個人住宅建設に伴う後円部北側墳丘裾・周濠調査（発掘）	1 /1994
平成 6 年	②長塚古墳	個人住宅建設に伴う前方部西側周濠調査（発掘）	2 /1995
	①いたす古墳	下水道管布設に伴う後円部東側周濠調査（立会）	4 /1996
	⑫善右工門山古墳	下水道管布設に伴う西側周濠調査（立会）	2 /1996
	⑧御廟表塚古墳	前方部南側周濠範囲確認調査（試掘・立会）	2 /2008

調査年度	調査対象古墳	調査概要	報告書名 /発行年
平成6年 平成7年	①鏡塚古墳	店舗建設に伴う北東から南側周濠調査(発掘)、 墳丘・南西側周濠調査(発掘)	1 /1996
平成7年	①いたすけ古墳	下水道管敷設工事に伴う前方部南側調査(立会)	5 /1997
平成9年	③収塚古墳	水道管布設に伴う南側周濠調査(試掘・立会)	3 /1999
平成12年	①いたすけ古墳	下水道管敷設工事に伴う南側外提調査(立会)	6 /2001
平成11年 平成12年	⑬寺山南山古墳	周濠内容確認調査(発掘)	1 /2012
		墳丘・周濠内容確認調査(発掘)	2 /2002
平成12年	⑫善右工門山古墳	墳丘範囲確認調査(発掘)	3 /2012
	⑲ニサンザイ古墳	西側外濠範囲確認調査(発掘)	2 /2001
平成14年	③収塚古墳	周濠調査(発掘)	4 /2003
平成14年	①いたすけ古墳	周濠部堆積物測量調査	
平成15年	②長塚古墳	水道管布設工事に伴う後円部東側周濠調査(立会)	3
		墳丘くびれ部南側調査	4
	③収塚古墳	後円部南東側周濠調査(発掘)	5 /2004
	⑤文珠塚古墳	墳丘北側範囲確認調査(発掘)	2 /2005
	⑫善右工門山古墳	墳丘内容確認調査(発掘)	3 /2005
平成16年	②長塚古墳	墳丘くびれ部南側範囲確認調査(発掘)	5 /2006
	⑤文珠塚古墳	墳丘東側周濠範囲確認調査(発掘)	3 /2006
	④塚廻古墳	墳丘東側周濠調査(発掘)	2 /2005
平成17年	②長塚古墳	柵設置に伴う前方部墳丘北側側面調査(現状変更)	6 /2008
	②長塚古墳	墳丘前方部西側・北側範囲確認調査(発掘)	6 /2007
	⑤文珠塚古墳	墳丘前方部西側・北側範囲確認調査(発掘)	4 /2007
平成18年	③収塚古墳	前方部北側周濠範囲確認調査(発掘)	6 /2008
	②長塚古墳	墳丘前方部北側範囲確認調査(発掘)	7 /2008
	③文珠塚古墳	墳丘裾前方部南側範囲確認調査(発掘)	5 /2008
平成19年	②長塚古墳	墳丘後円部北側内容確認調査(発掘)	8 /2009
	⑤文珠塚古墳	墳丘後円部南側調査(発掘)	6 /2008
	③収塚古墳	墳丘裾、周濠・墳丘前方部裾北西側調査(発掘)	7 /2009
	⑮旗塚古墳	西側・東側外提内容確認調査(試掘・立会)	2 /2008
	⑭グワシヨウ坊古墳	周濠・周濠範囲確認調査(試掘・立会)	1 /2008
		地中レーダ探査	2 /2009
	⑬銭塚古墳	後円部墳丘・墳丘裾調査(発掘)	1 /2009

調査年度	調査対象古墳	調査概要	報告書名 /発行年
平成 20 年	③収塚古墳	墳丘調査(発掘)、周濠調査(発掘)、地中レーダ探査	8 /2010
	⑮旗塚古墳	墳丘調査(発掘)、周濠調査(発掘)	3 /2011
		地中レーダ探査	3 /2011
	⑭グワシヨウ坊古墳	墳丘調査(発掘)、周濠調査(発掘)、地中レーダ探査、 墳丘土質分析	2 /2009
	⑲ニサンザイ古墳	外濠地中レーダ探査	4 /2009
	⑧御廟表塚古墳	地中レーダ探査	3 /2010
	⑯寺山南山古墳	墳丘北側調査(発掘)	3 /2010
⑱御廟山古墳	宮内庁との同時調査 墳丘・周濠調査(発掘調査)	/2011	
平成 21 年	③収塚古墳	地中レーダ探査	8 /2010
	④塚廻古墳	地中レーダ探査	3 /2010
	⑦乳岡古墳	地中レーダ探査	4 /2010
	②長塚古墳	地中レーダ探査	9 /2011
	⑤文珠塚古墳	地中レーダ探査	7 /2011
	⑨ドンチャ山古墳	墳丘調査(発掘)	2 /2011
	⑩正楽寺山古墳	墳丘調査(発掘)	2 /2011
	⑦乳岡古墳	水道管敷設工事に伴う調査(立会)	3 /2011
平成 22 年	⑯寺山南山古墳	地中レーダ探査、 墳丘調査(発掘)	1 /2012
		墳丘調査(発掘)	3 /2010
平成 24 年	⑧御廟表塚古墳	墳丘調査(発掘)	4 /2013
	⑲ニサンザイ古墳	墳端・濠調査(発掘)	5 /2018
平成 25 年	⑲ニサンザイ古墳	墳端・濠調査(発掘)	5 /2018
平成 26 年	③収塚古墳	濠調査(発掘) 前方部北西・南西隅	9 /2016
	⑲ニサンザイ古墳	墳端・濠調査(発掘)	5 /2018
平成 27 年	③収塚古墳	墳丘・濠調査(発掘) 前方部北西・南西隅	9 /2016
	⑲ニサンザイ古墳	濠調査(発掘)	5 /2018
平成 28 年	⑯寺山南山古墳	墳丘・濠調査(発掘) 墳丘北・南側	4 /2018
平成 29 年	⑥丸保山古墳	墳丘表面調査調査(発掘)、円筒埴輪列の検出	1 /2017
平成 30 年	⑧御廟表塚古墳	墳丘・濠調査(発掘)	5 /2020

## 古墳別調査報告書一覧

①いたすけ古墳	
1	堺市教育委員会「いたすけ古墳の測量調査報告」『堺市文化財調査報告』第2集 1974
2	堺市教育委員会「いたすけ古墳周提工事伴う調査」『堺市文化財調査報告』第2集 1974
3	堺市教育委員会「いたすけ古墳」『堺市文化財調査概要報告』第10冊 1990
4	堺市教育委員会「いたすけ古墳」『堺市文化財調査概要報告』第54冊 1996
5	堺市教育委員会「いたすけ古墳」『堺市文化財調査概要報告』第64冊 1997
6	堺市教育委員会「いたすけ古墳」『堺市文化財調査概要報告』第94冊 2001
②長塚古墳	
1	堺市教育委員会「長塚古墳」『平成5年度国庫補助事業発掘調査報告書』1994
2	堺市教育委員会「長塚古墳」『平成6年度国庫補助事業発掘調査報告書』1995
3	堺市教育委員会「平成14・15年度水道工事に伴う立会調査概要報告」『堺市文化財調査概要報告』第107冊 2005
4	堺市教育委員会「史跡長塚古墳」『平成16年度国庫補助事業発掘調査報告書』2005
5	堺市教育委員会「史跡長塚古墳」『平成17年度国庫補助事業発掘調査報告書』2006
6	堺市教育委員会「史跡長塚古墳」『平成18年度国庫補助事業発掘調査報告書』2007
7	堺市教育委員会「平成18年度国庫補助事業発掘調査報告」『百舌鳥古墳群の調査1』2008
8	堺市教育委員会「平成19年度国庫補助事業発掘調査報告」『百舌鳥古墳群の調査2』2009
9	堺市教育委員会「史跡長塚古墳の調査-地中レーダ探査-」『百舌鳥古墳群の調査4』2011
③収塚古墳	
1	堺市教育委員会「水道管布設工事に伴う発掘調査概要報告」『堺市文化財調査報告』第43集 1996
2	堺市教育委員会「下水道工事に伴う発掘調査概要報告」『堺市文化財調査概要報告』第54冊 1996
3	堺市教育委員会「平成元年度下水道工事に伴う発掘調査概要報告」『堺市文化財調査概要報告』第81冊 1999
4	堺市教育委員会「史跡収塚古墳」『平成14年度国庫補助事業発掘調査報告書』2003
5	堺市教育委員会「史跡収塚古墳」『平成15年度国庫補助事業発掘調査報告書』2004
6	堺市教育委員会「史跡収塚古墳の調査-OSZ-5次調査-」『百舌鳥古墳群の調査1』2008
7	堺市教育委員会「史跡収塚古墳の調査-OSZ-6次調査-」『百舌鳥古墳群の調査2』2009
8	堺市教育委員会「史跡収塚古墳の調査-地中レーダ探査・OSZ-7次調査-」『百舌鳥古墳群の調査3』2010
9	堺市教育委員会「収塚古墳(OSZ-8・9)発掘調査報告書」『百舌鳥古墳群の調査10』2016
④塚廻古墳	
1	大道弘雄「大仙陵畔の大発見(上)」『考古学雑誌』第2巻第12号 1912 大道弘雄「大仙陵畔の大発見(下)」『考古学雑誌』第3巻第1号 1912
2	堺市教育委員会「平成元年度下水道工事に伴う発掘調査概要報告」『堺市文化財調査概要報告』第54冊 1996
3	堺市教育委員会「史跡塚廻古墳」『平成16年度国庫補助事業発掘調査報告書』2005
4	堺市教育委員会「史跡塚廻古墳の調査-地中レーダ探査-」『百舌鳥古墳群の調査3』2010

⑤文珠塚古墳	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 堺市教育委員会「文珠塚古墳の測量調査報告」『堺市文化財調査報告』第2集 1974</li> <li>2 堺市教育委員会「史跡文珠塚古墳」『平成16年度国庫補助事業発掘調査報告書』2005</li> <li>3 堺市教育委員会「史跡文珠塚古墳」『平成17年度国庫補助事業発掘調査報告書』2006</li> <li>4 堺市教育委員会「史跡文珠塚古墳」『平成18年度国庫補助事業発掘調査報告書』2007</li> <li>5 堺市教育委員会「平成18年度国庫補助事業発掘調査報告」『百舌鳥古墳群の調査1』2008</li> <li>6 堺市教育委員会「平成19年度国庫補助事業発掘調査報告」『百舌鳥古墳群の調査2』2009</li> <li>7 堺市教育委員会「史跡文珠塚古墳の調査-地中レーダ探査-」『百舌鳥古墳群の調査4』2011</li> </ol>
⑥丸保山古墳	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 宮内庁書陵部「平成28年度 墳丘外表面調査の成果報告」『書陵部紀要』第69号 2017</li> </ol>
⑦乳岡古墳	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 堺市教育委員会「百舌鳥古墳群の調査1」2008</li> <li>2 堺市教育委員会「百舌鳥古墳群発掘調査報告」『堺市文化財報告第25集』1986</li> <li>3 堺市教育委員会「百舌鳥古墳群の調査3」2010</li> <li>4 堺市教育委員会「史跡乳岡古墳の調査-地中レーダ探査-」『百舌鳥古墳群の調査3』2011</li> </ol>
⑧御廟表塚古墳	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 堺市教育委員会「御廟表塚古墳-周濠跡東南隅地点-」『昭和62年度国庫補助事業発掘調査報告書』1988</li> <li>2 堺市教育委員会「御廟表塚古墳」『百舌鳥古墳分の調査1』2008</li> <li>3 堺市教育委員会「御廟表塚古墳の調査-地中レーダ探査-」『百舌鳥古墳群の調査3』2010</li> <li>4 堺市教育委員会「御廟表塚古墳の調査(GBY-2)発掘調査報告書」『百舌鳥古墳群の調査7』2013</li> <li>5 堺市教育委員会「御廟表塚古墳の調査(GBY-3)の調査」『百舌鳥古墳群の調査14』2020</li> </ol>
⑨ドンチャ山古墳	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 堺市教育委員会「百舌鳥古墳群発掘調査報告」『堺市文化財補調査報告第25集』1986</li> <li>2 堺市教育委員会「ドンチャ山2号墳の調査-DN2-2次調査-」『百舌鳥古墳分の調査4』2011</li> <li>3 堺市教育委員会「附章(補遺)ドンチャ山古墳と正楽寺山古墳の復元案について」『百舌鳥古墳群の調査7』2013</li> </ol>
⑩正楽寺山古墳	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 堺市教育委員会「百舌鳥古墳群発掘調査報告」『堺市文化財補調査報告第25集』1986</li> <li>2 堺市教育委員会「正楽寺山古墳の調査-SRJ-2次調査-」『百舌鳥古墳分の調査4』2011</li> <li>3 堺市教育委員会「附章(補遺)ドンチャ山古墳と正楽寺山古墳の復元案について」『百舌鳥古墳群の調査7』2013</li> </ol>
⑪鏡塚古墳	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 堺市教育委員会「鏡塚古墳-KGZ-1・2地点」『平成7年度国庫補助事業発掘調査報告書』1996</li> </ol>
⑫善右衛門山古墳	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 堺市教育委員会「昭和62年度 水道管布設に伴う立会調査報告」『堺市文化財調査報告第43集』1989</li> <li>2 堺市教育委員会「平成5年度・6年度 下水道工事に伴う立会調査概要報告」 『堺市文化財調査概要報告第54冊』1996</li> <li>3 堺市教育委員会「善右衛門山古墳」『平成16年度国庫補助事業発掘調査報告書』2005</li> <li>4 堺市教育委員会「善右衛門山古墳の調査」『百舌鳥古墳群の調査6』2012</li> </ol>



⑬銭塚古墳	
1	大阪府教育委員会 『銭塚古墳-大阪府立堺支援学校福祉整備事業に伴う発掘調査 -』 大阪府埋蔵文化財調査報告 2008-5 2009
⑭グワシヨウ坊古墳	
1	堺市教育委員会 「グワシヨウ坊古墳」『百舌鳥古墳群の調査 1』 2008
2	堺市教育委員会 「グワシヨウ坊古墳-GWS-2次-」『百舌鳥古墳群の調査 2』 2009
⑮旗塚古墳	
1	堺市教育委員会 「旗塚古墳発掘調査報告書」『堺市文化財調査報告第 39 集』 1988
2	堺市教育委員会 「旗塚古墳」『百舌鳥古墳群の調査 1』 2008
3	堺市教育委員会 「旗塚古墳の調査-HTT-2次・HTT-3次調査-」『百舌鳥古墳群の調査 4』 2011
⑯寺山南山古墳	
1	堺市教育委員会 「寺山南山古墳の調査」『百舌鳥古墳群の調査 6』 2012
2	堺市教育委員会 「寺山南山古墳 TYM-2 地点・堺市上野芝 1 丁 992 他」 『平成 13 年度国庫補助事業発掘調査報告書』 2002
3	堺市教育委員会 「寺山南山古墳 TYM-3 次調査」『百舌鳥古墳群の調査 3』 2010
4	堺市教育委員会 「寺山南山古墳 TYM-5 発掘調査報告書」『百舌鳥古墳群の調査 12』 2018
⑰七観音古墳	
1	堺市教育委員会 「七観音古墳」『百舌鳥古墳群の調査 1』 2008
⑱御廟山古墳	
1	堺市教育委員会 「御廟山古墳（周濠部）発掘調査概要報告」『堺市文化財調査概要報告』第 44 冊 1994
2	堺市教育委員会 「平成 5・6 年度下水道工事に伴う立会調査概要報告－御廟山古墳－」 『堺市文化財調査概要報告』第 54 冊 1996
3	宮内庁書陵部 『書陵部紀要』第 61 号〔陵墓篇〕 2010
4	堺市教育委員会 『百舌鳥古墳群の調査 5 御廟山古墳（GBY-6）発掘調査報告書』 2011
⑲ニサンザイ古墳	
1	堺市教育委員会 『ニサンザイ古墳一重掘及び二重掘範囲確認調査概要』 1978
2	堺市教育委員会 『堺市文化財調査概要報告』第 42 冊 1994
3	堺市教育委員会 『堺市文化財調査概要報告』第 54 冊 1996
4	堺市教育委員会 『堺市文化財調査概要報告』第 81 冊 1999
5	堺市教育委員会 『堺市文化財調査概要報告』第 86 冊 2000
6	堺市教育委員会 『平成 12 年度国庫補助事業発掘調査報告書』 2001
7	堺市教育委員会 『堺市文化財調査概要報告』第 100 冊 2003
8	堺市教育委員会 『百舌鳥古墳群の調査』1 2008
9	堺市教育委員会 『百舌鳥古墳群の調査』2 2009
10	堺市教育委員会 『百舌鳥古墳群の調査』11 2018
11	宮内庁書陵部 『書陵部紀要』第 65 号〔陵墓篇〕 2014

各古墳の発掘調査成果は以下のとおり記載する。

### ①いたすけ古墳 調査履歴

百舌鳥古墳群のほぼ中央にある前方部を西に向けた前方後円墳で、規模は全長 146m、後円部径 90m、高さ 12.2m、前方部幅 99m、高さ 11.4mの 3 段築成で、南側のくびれ部に造り出しを有する。古墳の周囲には盾形の周濠が巡り、濠の南側には堤が築かれている。周囲には善右エ門山古墳のほか、かつては播磨塚古墳、吾呂茂塚古墳が存在していた。埋葬施設は未確認であるが、葺石と埴輪が確認されている。

昭和 44 年（1969）に平板測量を実施し本古墳の規模を確認している。周堤護岸工事に伴い範囲確認調査を実施し、周堤の土層堆積状況により南側の堤は旧地形の地山を利用したのではなく盛土で成形したことが確認できた。平成 14 年（2002）には周濠部堆積物測量調査を実施し、堆積物の科学分析を行った。また、平成 24 年度より地元高校の協力で周濠の水質調査を実施し環境改善に取り組んでいる。

この古墳は昭和 30 年（1955）頃に住宅造成のため破壊の危機に瀕したが、市民運動によって保存された経緯を持つ。当時、後円部から出土した衝角付冑型埴輪は、本市の文化財保護のシンボルマークになっている。

#### ①いたすけ古墳 調査履歴一覧

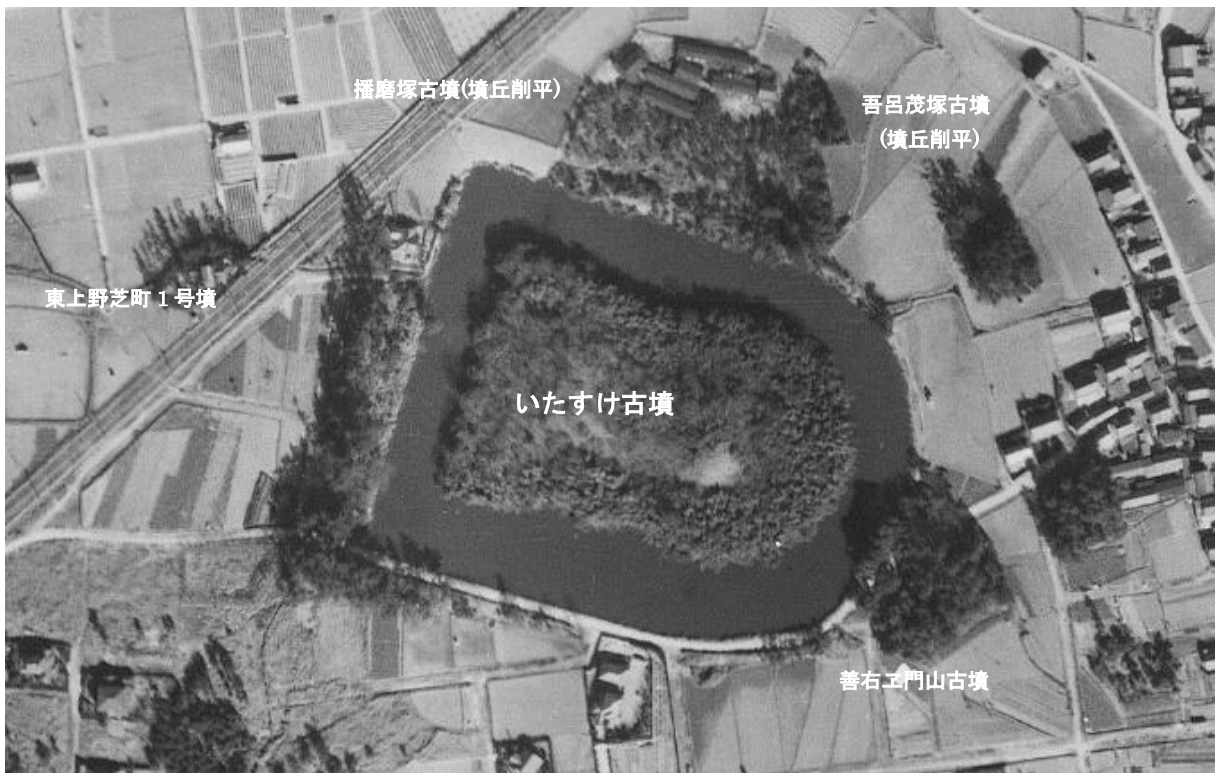
調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 発行年
昭和 44	堺市教育委員会	測量	墳丘平板測量 // 一 / 円筒埴輪・須恵器壺片採集	1 / 1974
昭和 47	堺市教育委員会	堤護岸工事	周堤発掘 // 外堤 / 一	2 / 1974
平成元	堺市教育委員会	地域会館	前方部南外堤発掘 // 外堤盛土 / 埴輪・土師器	3 / 1990
平成 6	堺市教育委員会	下水道管布設	後円部東周堤立会 // 一 / 円筒埴輪	4 / 1996
平成 7	堺市教育委員会	下水道管敷設	前方部南周堤立会 // 外堤盛土 / 一	5 / 1997
平成 12	堺市教育委員会	下水道管敷設	南側周堤立会 // 外堤盛土 / 一	6 / 2001
平成 14	堺市教育委員会	測量	周濠部堆積物分析	



昭和 40 年代の様子（南西から）



平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



## ②長塚古墳 調査履歴

長塚古墳は、前方部を西に向けた、全長106.4m、後円部径59.4m、後円部高9.2m、前方部幅75.2mの前方後円墳である。JR 阪和線百舌鳥駅の南西側、信太山台地上に位置し、かつては古墳の北・南側にそれぞれ谷が通っていたが、造成により埋められている。周濠は既に埋まり宅地化し、墳端近くまで住宅が接している。かつては、長塚古墳の南側に狐塚古墳や茂右衛門山古墳が存在していた。

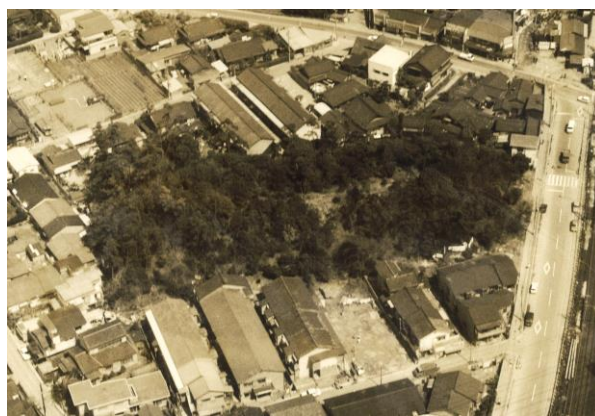
平成5・6年（1993・1994）の周濠調査により周濠の範囲を推定し、平成16年（2004）から20年（2008）に行われた墳丘調査により、墳丘は2段築成であり、南側の造り出しは1段目のテラスより低い位置に設けていることが判明した。また、地中レーダ探査では、後円部頂の中央で南北4m余り、東西8m以上の墓壇に石材を用いた主体部の存在が推定された。出土した円筒埴輪や蓋形埴輪の特徴から、5世紀中頃から後半の築造である。

### ②長塚古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 発行年
平成5	堺市教育委員会	個人住宅	後円部北墳丘裾発掘 // - / -	1 / 1994
平成6	堺市教育委員会	個人住宅	前方部西周濠発掘 // 周濠・転落葺石 / 円筒埴輪	2 / 1995
平成15	堺市教育委員会	水道管布設	後円部東周濠立会 // 周濠 / -	3 / 2005
平成15	堺市教育委員会	内容確認	くびれ部南発掘 // 転落葺石 / 円筒埴輪・形象埴輪	4 / 2005
平成16	堺市教育委員会	内容確認	墳丘南発掘 // 葺石・テラス / 円筒埴輪・蓋形埴輪	5 / 2006
平成17	堺市教育委員会	柵設置	前方部墳丘北発掘 // 墳丘流出土 / 円筒埴輪	6 / 2007
平成17	堺市教育委員会	内容確認	前方部側面発掘 // テラス・転落葺石 / 埴輪・須恵器	6 / 2007
平成19	堺市教育委員会	内容確認	前方部北発掘 // テラス / 円筒埴輪・蓋形埴輪	7 / 2008
平成20	堺市教育委員会	内容確認	後円部北発掘 // 墳丘封土 / 円筒埴輪・形象埴輪他	8 / 2009
平成21	堺市教育委員会	地中レーダ	墳丘探査 // 段築・主体部を推定	9 / 2011



昭和46年（1971）航空写真



昭和48年（1973）航空写真



平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



### ③収塚古墳 調査履歴

仁徳天皇陵古墳（大山古墳）の東南隅付近にある古墳で、後円部のみ史跡指定されている。信太山台地上に位置し、かつては古墳の北側に谷が通っていたが、造成により埋められている。周濠は既に埋まり前方部は削平されているため、外観は円墳状を呈する。埋葬施設など、本墳の内容に関する情報は限られ、大戦当時頂上にたくさんの短甲片が散乱していたことが伝わるのみである。

平成 14 年（2002）から同 20 年（2008）までに断続的に行われた周濠及び前方部の調査及び平成 20 年度の史跡内・墳丘の調査、さらに平成 27 年（2015）の調査により、濠を含めた全長約 72.5m、墳長 59mの帆立貝形古墳に復元できた。平成 20 年度の調査では、1 段目テラスに相当する平坦面に埴輪列・葺石基底石、その前面には墳裾と 2 次的に分布する葺石群が出土し、墳丘の規模・形状を復元し得る資料として重要である。復元された墳丘は、前方部を西に向け、後円部径 42m、後円部高 4.1m、前方部幅 27mを測る。出土した埴輪や須恵器の特徴から仁徳天皇陵古墳（大山古墳）にやや遅れて築造された 5 世紀中頃の古墳であり、同古墳に付随する古墳と考えられている。

#### ③収塚古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 発行年
昭和 61	堺市教育委員会	水道管布設	後円部東周濠立会 // 周濠埋土 / 埴輪	1 / 1989
平成 2	堺市教育委員会	下水道管布設	後円部東周濠立会 // 周濠 / 埴輪・須恵器他	2 / 1996
平成 9	堺市教育委員会	水道管布設	南側周濠立会 // — / —	3 / 1999
平成 14	堺市教育委員会	内容確認	墳丘南周濠発掘 // 周濠 / 円筒埴輪・蓋形埴輪	4 / 2003
平成 15	堺市教育委員会	個人住宅	後円部南東周濠発掘 // — / —	5 / 2004
平成 18	堺市教育委員会	内容確認	前方部北発掘 // 周濠 / 円筒埴輪・特殊須恵器	6 / 2008
平成 20	堺市教育委員会	内容確認	前方部西北裾発掘 // 周濠・墳丘裾 / 埴輪・須恵器	7 / 2009
平成 20	堺市教育委員会	内容確認	墳頂～周濠発掘 // 埴輪列・テラス・周濠 / 埴輪他	8 / 2010
平成 20・21	堺市教育委員会	地中レーダ	後円部～周濠外周探查 // 周濠・墳丘段築を推定	8 / 2010
平成 26・27	堺市教育委員会	内容確認	前方部西発掘 // 周濠・前方部墳丘裾・葺石 / 埴輪・須恵器・瓦器他	9 / 2016



昭和 46 年(1971)航空写真



平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



#### ④塚廻古墳 調査履歴

直径 35m、高さ 5.1mの円墳で、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）の外周にある。

明治 45 年（1912）に調査が行われ、埋葬施設と埴輪列を確認した。埋葬施設からは、銅鏡 2 面や刀剣と共に硬玉・碧玉・ガラス玉のほか、滑石で作られた勾玉・管玉・白玉などの玉類が多数出土している。平成 21 年（2009）に実施した地中レーダ探査では、明治 45 年（1912）調査時の調査区が確認された。帆立貝形古墳の可能性も指摘されていたが、その後の調査により円墳である可能性が高まり、南側を中心に濠の輪郭が推定できる。

#### ④塚廻古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 発行年
明治 45			主体部他発掘 // 木棺・埴輪列 / 銅鏡・玉類・埴輪他	1 / 1912
平成元	堺市教育委員会	下水道管布設	墳丘西周濠立会 // 周濠 / 円筒埴輪・須恵器	2 / 1996
平成 7	堺市教育委員会	分譲住宅	墳丘南周濠調査 // 周濠 / -	3 / 2005
平成 16	堺市教育委員会	個人住宅	墳丘東周濠発掘 // 周濠外肩 / -	3 / 2005
平成 21	堺市教育委員会	地中レーダ	墳丘周濠探査 // 周濠・明治 45 年の発掘跡を推定	4 / 2010



昭和 46 年(1971)航空写真



平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



### ⑤文珠塚古墳 調査履歴

文珠塚古墳は、履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）の位置する南方、石津川の支流である百済川を隔てた丘陵上に独立して立地し、現在の標高で26mという古墳群でも最高所に築かれ、前方部を西に向けた、全長59.1m、後円部径36.3m、前方部幅27.3mの前方後円墳である。

平成16年度から平成19年度にかけて実施した範囲確認調査により周濠は当初からなく、掘割り状遺構の存在が認められた。平成21年（2009）には地中レーダ探査を実施し、当古墳が2段築成で、範囲確認調査で確認された掘割り状の遺構が全周していることが推定できた。

#### ⑤文珠塚古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 発行年
昭和48	堺市教育委員会	測量	墳丘平板測量	1 /1974
平成15	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘北発掘 // 一/円筒埴輪・形象埴輪	2 /2005
平成16	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘東周濠発掘 // 掘割り/円筒埴輪・形象埴輪	3 /2006
平成17	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘前方部西・北発掘 // 墳丘テラス・溝/埴輪・須恵器	4 /2007
平成18	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘前方部南発掘 // 一/円筒埴輪	5 /2008
平成19	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘後円部南発掘 // 一/円筒埴輪・瓦器・瓦	6 /2008
平成21	堺市教育委員会	地中レーダ	墳丘探査 // 段築、掘割り状遺構範囲を推定	7 /2011



昭和36年（1961）頃の古墳近景（南西から）



昭和40年代 頃の古墳近景（南東から）



平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



### ⑥丸保山古墳 調査履歴

仁徳天皇陵古墳（大山古墳）の北西側、信太山台地の西端に位置し、同古墳に付随する古墳の可能性を有する。墳丘は、全長 87m、後円部径 60m、後円部高 10.3m、前方部幅 40mの前方部を南に向けた帆立貝形古墳である。

史跡指定前の調査はなく、平成 29 年度に宮内庁が墳丘の保全を目的に墳丘外表面調査並びに現位置を保っている露出円筒埴輪列の調査を実施した。調査の全般にわたって宮内庁と地元自治体の本市との連携が行われた。

#### ⑥丸保山古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 発行年
平成 29	宮内庁	墳丘保全	後円部表面発掘 // 円筒埴輪列 / 円筒埴輪・土師質土器焙烙	1 / 2017



昭和 42 年(1967) 遠景 (南東から)



昭和 46 年(1971)航空写真



平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



### ⑦乳岡古墳 調査履歴

百舌鳥古墳群の南西部、信太山台地の西端に位置し、石津川に向かって開口する旧河谷と流路の侵食から免れた微高地に築かれている。墳丘長が155mの大型前方後円墳で、昭和初期に前方部を失っているが、後円部は一部改変されながらも直径94m、高さ14mの規模で残っている。

墳頂部に残る平坦面は、公有化以前に所在した寺院建築の造成によるものである。昭和47年(1972)に墳頂部に残る高まりの調査を実施し、長持形石棺が残存することが確認された。石棺の周辺から多数の腕輪形石製品(鍬形石3個体、車輪石18個体、異形石製品1個体)が出土している。石棺は埋め戻され、流出防止のため土砂の上にモルタルが貼られている。周濠は埋没しているが、昭和60年(1985)、後円部西側で宅地開発に先立ち発掘調査を実施し、幅約30mの濠を検出した。平成21年(2009)には墳丘後円部側斜面で墳丘崩落状況の確認のため墳丘構築層の上面までの緊急調査を実施し、表土には草の根が密に蔓延っており、比較的安定していることを確認した。また、同年地中レーダ探査を実施し、当古墳が3段築成であることが推定できた。

#### ⑦乳岡古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 発行年
昭和47	堺市教育委員会	内容確認	墳頂部発掘 // 石棺 / 埴輪・鍬形石・車輪石他	1 / 2008
昭和60	堺市教育委員会	範囲確認	後円部西周濠発掘 // 周濠 / 埴輪・瓦器他	2 / 1986
平成21	堺市教育委員会	水道管敷設	立会 // 前方部周濠 / -	3 / 2011
平成21	堺市教育委員会	地中レーダ	墳丘探査 // 3段築成を推定、墳頂部の石棺の検出	4 / 2010



昭和60年度 後円部西側周濠調査



昭和50年(1975)航空写真





平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



### ⑧御廟表塚古墳 調査履歴

百舌鳥古墳群の東辺にある前方部を西に向けた帆立貝形古墳で、百舌鳥川を見下ろす台地の縁辺部に立地し、川を挟んだ対岸には向き合うように定の山古墳が立地する。前方部は失われ、現在は後円部と周濠の一部が残る。

昭和 62 年度に造成工事に伴い後円部南東側の濠の発掘調査を実施し、幅 9.6m、深さ 1.45 mの濠を確認した。平成 6 年（1994）には宅地開発に伴う確認調査を実施し、前方部前面の濠の外肩の位置を推定することができた。平成 11 年度には住宅開発に伴って削平された前方部及びくびれ部の確認・立会調査を実施し前方部北側の濠を確認したほか、くびれ部で東西方向に 2 個体並んだ円筒埴輪を検出した。平成 20 年（2008）の地中レーダ探査では、後円部中央に埋葬施設が存在する可能性が高まった。また、平成 24 年度の発掘調査では後円部は 2 段築成であり、テラスに埴輪列が並び 2 段目斜面の裾と葺石を検出した。これらの調査成果により、本古墳の全長は 84.8m、後円部径は 67.6m、前方部幅は 32.0mとなり周濠を含めた全長は 97.0mと復元できた。築造時期は、円筒埴輪より 5 世紀後半である。平成 30 年（2018）に古墳主軸線上での調査を加え、本古墳の復元を再検討できた。

### ⑧御廟表塚古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構／出土遺物	書名／発行年
昭和 62	堺市教育委員会	駐車場整備	後円部南東周濠発掘 // 周濠／埴輪・瓦器・土師質土器	1 /1998
平成 6	堺市教育委員会	範囲確認	前方部南周濠発掘 // 周濠／－	2 /2008
平成 11	堺市教育委員会	宅地開発	周濠・前方部立会 // 周濠・埴輪列／－	2 /2008
平成 20	堺市教育委員会	地中レーダ	墳丘周濠探査 // 段築・周濠を推定	3 /2010
平成 24	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘発掘 // 葺石、埴輪列／埴輪・瓦質土器・陶磁器	4 /2013
平成 30	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘・濠主軸線上他発掘 // 後円部墳丘・周濠／埴輪他	5 /2020



平成 24 年度調査 埴輪列・葺石検出状況



平成 24 年調査前 近景（南から）





平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真

### ⑨ドンチャ山古墳 調査履歴

ドンチャ山古墳は、信太山台地上の美濃川北岸に位置する、直径 26m、現況高 2.2mの円墳である。陵南中央公園にあり、正楽寺山古墳と接するように築造されている。また西側にはかつて平井塚古墳が存在していた。

昭和 58 年度に公園整備にあたって確認調査を実施し、古墳の可能性は高いものの墳丘裾近くに後世の盛土が加えられている可能性が指摘された。平成 21 年度の調査では、墳丘は 2 段築成であり、盛土の構築方法である天地返しによる鱗状層序うろこじょうそうじょを確認し、古墳であることが確定し、古墳築造時期は 6 世紀前半と考えられる。本墳をはじめ、正楽寺山古墳やかつて存在したとされる平井塚古墳、文山古墳と共に美濃川に向かって下降を開始する傾斜変換点付近の段丘面に近接して、一列に並ぶように配置され、独立した小さな群を形成しているように見える。これらの古墳と美濃川を挟んだ対岸には、百舌鳥古墳群の築造に関与した技術者集団の集落跡と考えられている土師遺跡がある。本墳や近接する古墳は、当地に集落を構えた古墳築造技術者集団の首長墓であり、百舌鳥古墳群の終焉を示す古墳であると考えられる。

#### ⑨ドンチャ山古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 刊行年
昭和 58	堺市教育委員会	公園整備	周濠・外周発掘 // 墳丘裾 / 埴輪・須恵器	1 /1986
平成 21	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘発掘 // 墳丘盛土 / 須恵器・瓦質土器・陶磁器	2 /2011

### ⑩正楽寺山古墳 調査履歴

正楽寺山古墳は、信太山台地上の美濃川北岸に位置する、直径 16m、現況高 1.4mの円墳である。陵南中央公園にあり、ドンチャ山古墳と接するように築造されている。

昭和 58 年度に公園整備にあたり確認調査が実施された。古墳本来の墳丘盛土が確認できず、古墳である確証は得られなかった。平成 21 年度の範囲確認調査で古墳と判断できる墳丘盛土を検出した。また、墳頂部に墓壇の可能性が高い落ち込みを検出した。これらの成果より、濠幅約 4m以上、径 16m前後を測る 2 段築盛の円墳と復元できた。出土遺物から、6 世紀前半の築造であると考えられる。

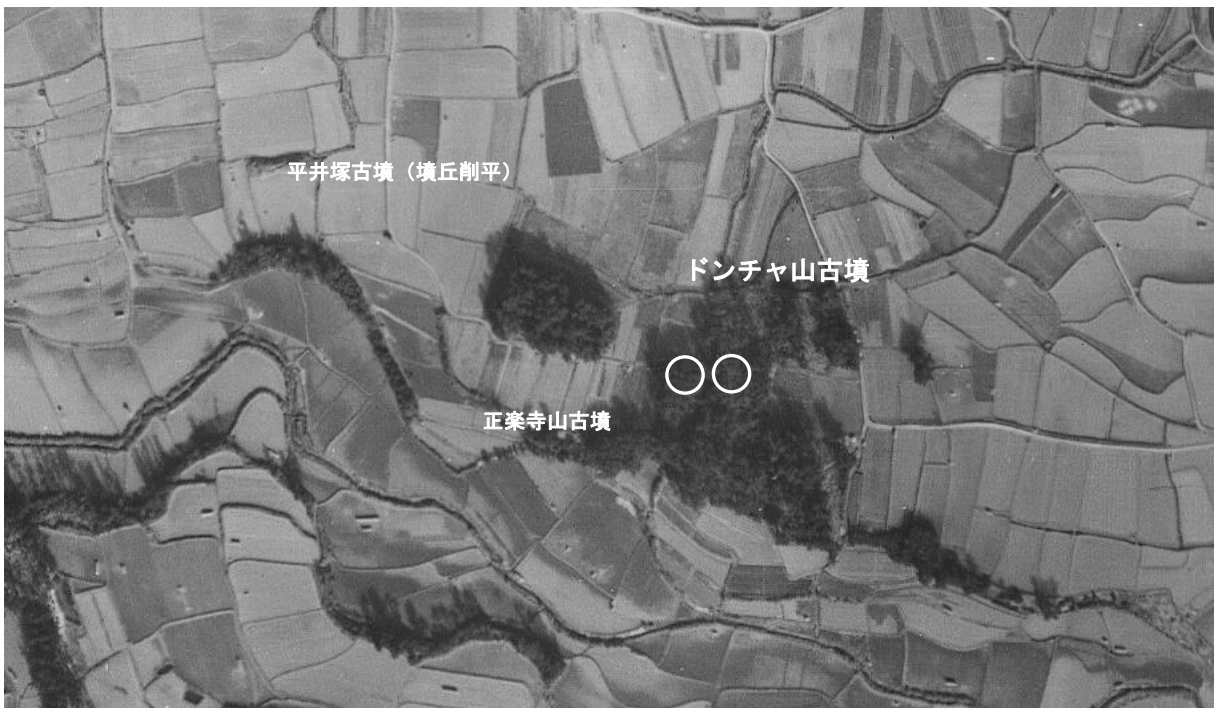
#### ⑩正楽寺山古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 刊行年
昭和 58	堺市教育委員会	公園整備	周濠・外周発掘 // ー / 須恵器	1 /1986
平成 21	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘発掘 // 墳丘盛土 / 須恵器・瓦	2 /2011





平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



### ⑪鏡塚古墳 調査履歴

仁徳天皇陵古墳（大山古墳）の東側、信太山台地上に位置する。昭和7年（1932）に着工した土地区画整理により周辺は盛土され墳丘頂部のみ露出している。

平成6・7年（1994・1995）の発掘調査で墳丘盛土の裾部及び周濠を検出したことより、直径26mの円墳であることが確認できた。周濠から出土した遺物より築造時期は5世紀中頃であると考えられる。

#### ⑪鏡塚古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 刊行年
平成6	堺市教育委員会	店舗	北東～南周濠発掘 // 周濠 / 円筒埴輪・朝顔形埴輪	1 / 1996
平成7	堺市教育委員会	店舗	墳丘・南西周濠発掘 // 周濠・流出葺石 / 須恵器・埴輪	1 / 1996



平成6年調査前の鏡塚古墳（北から）



平成6年度調査墳丘裾検出状況



平成 29 年 (2017) 航空写真



仁徳天皇陵古墳 (大山古墳)

鏡塚古墳

昭和 17 年 (1942) 航空写真



## ⑫善右工門山古墳 調査履歴

善右工門山古墳は、信太山台地上の百舌鳥川北岸に位置する、一辺 28m、現況高 2.4mの方墳である。いたすけ古墳の外堤と接するように築造されていることから、かつて存在していた播磨塚古墳、吾呂茂塚古墳と共に同古墳に付随する古墳と考えられる。古墳北側及び西側は道路により、南側は造成により墳丘が削平されている。

平成 6 年度に本古墳といたすけ古墳との間の道路で下水道管敷設工事に伴う立会調査を実施したものの本古墳に関する遺構は検出していない。平成 12 年度には、墳丘のテラスを 2m 間隔で巡る円筒埴輪を 2 か所で確認した。また、墳丘周囲には堀などの区画施設を有さないことを確認した。続いて平成 15 年度には平成 12 年度に検出した埴輪列を直線的に伸ばした延長上で原位置を保つ円筒埴輪を検出したことから、一辺 28m の方墳として復元できた。埴輪・須恵器などの出土遺物より築造時期は 5 世紀前半で、いたすけ古墳と同時期である。

### ⑫善右工門山古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 刊行年
昭和 62	堺市教育委員会	水道管布設	北周濠立会 // — / —	1 / 1989
平成 6	堺市教育委員会	下水道管布設	西周濠立会 // — / 円筒埴輪	2 / 1996
平成 12	堺市教育委員会	範囲確認	墳丘発掘 // 円筒埴輪列・礫敷き / 埴輪・須恵器他	4 / 2012
平成 15	堺市教育委員会	内容確認	墳丘発掘 // 円筒埴輪列 / 円筒埴輪	3 / 2005



平成 15 年度調査 埴輪列・葺石検出状況





平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真

### ⑬銭塚古墳 調査履歴

百舌鳥古墳群の中央部、いたすけ古墳の北西方にあり、全長 72m、現況高 2.0m、後円部径 54m、前方部幅約 44mの前方部を西に向けた帆立貝形古墳である。墳丘は後円部 2 段目上方並びに前方部が削平されているために、現状では扁平な円墳のような外観を呈している。明治 18 年（1885）から大正 4 年（1915）までの間に前方部が削平された。

昭和 56・57 年度に実施された範囲確認調査では、墳丘が全長 72m、後円部径約 54m、前方部幅約 44mの規模と推定された。さらに平成 19 年度で行った発掘調査で、1 段目テラスと考えられる部分で原位置を保つ円筒埴輪列が検出された。また、前方部南西隅のコーナーと推測される地山の段差が検出され、規模が判明した。埋葬施設は未確認で副葬品は不明確である。なお、濠は確認されていない。出土した埴輪より、5 世紀後半の築造と推測できる。

#### ⑬銭塚古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 刊行年
昭和 56	大阪府教育委員会	学校整備	外周・墳丘裾・前方部発掘 // 周濠 / 円筒埴輪	1 / 2009
平成 19	大阪府教育委員会	学校整備	後円部墳丘・外周発掘 // 周濠・円筒埴輪列 / 埴輪他	1 / 2009





平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



#### ⑭グワショウ坊古墳 調査履歴

大仙公園内、旗塚古墳の東側にある長軸（東西）61m、短軸（南北）56m、現況高 3.5mの卵形の円墳で、墳丘は2段築成と考えられる。円墳で径 61mという大きさは、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）に接する径 62mの大安寺山古墳に次ぐ大きさで、全国でも有数である。周囲には濠が巡り、葺石と埴輪が検出されているが、埋葬施設の構造や副葬品は不明である。昭和 50 年代の公園造成時には、既に墳丘上部は削平され平らであった。墳丘裾並びに周濠外堤は公園整備により玉石上の護岸が施された。同古墳の西側には旗塚古墳が位置し、さらに谷を挟んで北東側には、かつて鳶塚古墳・原山古墳が存在していた。

平成 19 年度の調査では、濠から外側における削平が顕著であるものの、古墳の濠埋土は比較的良好に残存していることを確認した。また、平成 20 年度の調査では、西側が張り出した卵形を呈する墳形で、墳丘には天地返しとも呼ばれる鱗状層序<sup>うろこじょうそうじょ</sup>が観察された。盛土の土壌分析により古墳築造前は周辺に水田耕作地が存在する可能性があり、盛土は採土前に火入れを行うなどの準備がなされていたことが判明した。遺物は原位置を留めない円筒埴輪・形象埴輪・須恵器・ミニチュア鉄鍬が出土した。これらの出土遺物から 5 世紀後半の築造と考えられる。

#### ⑭グワショウ坊古墳 主な調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 刊行年
平成 19	堺市教育委員会	内容確認	墳丘・周濠・周囲発掘 // 濠 / 須恵器・円筒埴輪	1 / 2008
平成 20	堺市教育委員会	地中レーダ	周濠東外縁探査 // 公園造成前の地形推定	2 / 2009
平成 20	堺市教育委員会	内容確認	墳丘・周濠・周囲発掘 // 墳丘盛土・周濠 / 円筒埴輪・形象埴輪・須恵器・ミニチュア鉄鍬	2 / 2009



平成 20 年度調査 墳丘裾 墳丘盛土堆積状況（東から）





平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



## ⑮旗塚古墳 調査履歴

百舌鳥古墳群の中央部、前方部を西に向けた帆立貝形古墳である。後円部東側や前方部西側では第1斜面から墳丘裾へ至る墳丘盛土の一部が削平されているものの、墳丘北側は比較的良好に残っている。大仙公園内にあり、本古墳の西側にあるグワショウ坊古墳と共に都市緑化植物園として位置づけられ、植物の自然の生態系を観察する森林推移実験見本園として修景されている。

昭和61年度に実施された整備工事に伴う立会調査では、石見型埴輪いのみがたはにわを採集している。平成19年度の調査で、濠幅は前方部側約5.9m、後円部側約5.2mとなることが分かった。また、幅3.4mの蒲鉾状に盛り上がる段丘相当層の高まりが数か所で認められ、周囲に葺石と埴輪列を備えた堤の存在が推定できた。平成20年度は、周濠内の調査と墳丘内の調査を実施した。調査では埴輪列と第1斜面に原位置を保つ葺石を確認した。墳丘は2段築成で墳丘長57.9m、後円部径41.5m、前方部長24.7mの規模が復元できた。また、墳丘南側くびれ部後円部寄り葺石を伴う約12.5mの幅で外方へ張り出す造り出しを有するなど、墳丘の形状を復元する貴重な資料を得た。濠は、盾形に巡り周囲に葺石と埴輪列を備えた幅3.4mの堤が存在する可能性が高い。埋葬施設の構造や副葬品の内容は不明で、円筒埴輪・石見型埴輪より5世紀代の築造であると考えられる。

### ⑮旗塚古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構 / 出土遺物	書名 / 発行年
昭和61	堺市教育委員会	墳丘裾護岸	墳丘裾発掘 // 転落葺石 / 円筒埴輪・盾形埴輪他	1 / 1988
平成19	堺市教育委員会	内容確認	西・東外提発掘 // 堤 / 円筒埴輪	2 / 2008
平成20	堺市教育委員会	内容確認	墳丘裾・周濠発掘 // 造り出し / 埴輪・須恵器他	3 / 2011
平成20	堺市教育委員会	地中レーダ	周濠・墳丘探査 // 周濠の範囲・形状を推定	3 / 2011



平成20年度調査 造り出し出土状況



埴輪列・葺石出土状況





平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



## ⑩寺山南山古墳 調査履歴

百舌鳥古墳群の中央部、履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）の後円部側外周にあり、同古墳に付随する古墳と考えられる。墳丘は2段築成の方墳で、現況高は3.0mである。昭和36年（1961）頃に墳丘上に住宅が建設された際に、比高差4m以上の墳丘は削平を受け、約半分の墳丘高になっている。本古墳の南東側は大仙公園並びに駐車場として整備されている。

平成11年度から平成22年度までの調査により、墳形は長方形を呈し、2段築成の方墳に復元できた。築造時期は、最古段階の須恵器が出土していることより5世紀初頭と推測できる。第1次調査では、墳丘西隅において天地返しによる鱗状層序からなる墳丘盛土が確認された。また、墳丘の北東・南東側で濠と推測される区画遺構を検出した。平成12年度の調査では、墳丘北隅付近の北東辺で墳丘のテラスと下段斜面及びテラス上に直線的に樹立した円筒埴輪列を検出した。さらに、南東辺で直線的に繋がる濠を検出し、方墳であることが確定した。平成20年度の調査では、墳丘北西辺でテラス面と円筒埴輪列を検出し、墳丘テラス北隅の位置が確定した。平成22年度には地中レーダ探査を実施し、埋葬主体部に相当する反射面は得られなかったが、墳丘上のテラスや濠の位置を示す反射面を得た。その成果に基づき実施した発掘調査では、墳丘南東辺のテラス上で上段斜面葺石とその基底石、原位置を保つ円筒埴輪列、下段斜面上の葺石を検出し、墳丘端から2段目斜面までの形状が明らかとなった。また、南西側の濠は履中天皇陵古墳の外周溝と共有していた可能性が高いことが判明した。史跡指定後、整備基本計画に従い整備を寺山南山古墳から実施すべく、平成28年度に調査を実施した。墳丘の規模は、短辺39.2m（南辺）と39.25m（北辺）、長辺44.0m（西辺）と44.7m（東辺）に復元できた。東辺では造り出しを確認し、造り出し及び第1段テラスから冪形埴輪・冪形埴輪・土師器・須恵器・土玉状製品が出土したことから、造り出しと第1段テラスで冪形埴輪や土器を用いた祭祀が行われたことを確認できた。

### ⑩寺山南山古墳 主な調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置//主な遺構/主な遺物	書名/刊行年
平成11	堺市教育委員会	内容確認	周濠発掘 // 周濠/円筒埴輪他を検出	1 /2012
平成12	堺市教育委員会	内容確認	墳丘・周濠発掘 // 円筒埴輪列/流出葺石、埴輪他	2 /2002
平成20	堺市教育委員会	内容確認	墳丘北西隅発掘 // テラス・円筒埴輪列/埴輪他	3 /2010
平成22	堺市教育委員会	地中レーダ	墳丘・周濠探査 // 墳丘段築・周濠を推定	1 /2012
平成22	堺市教育委員会	内容確認	墳丘・周濠発掘 // 周濠・テラス・葺石・円筒埴輪列/埴輪他	1 /2012
平成28	堺市教育委員会	内容確認	墳丘・濠発掘 // 葺石・テラス・円筒埴輪列・周濠/埴輪	4 /2018



平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



### ⑰七観音古墳 調査履歴

履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）の外周にあり、同古墳に付随する現況高 3.0mの円墳と考えられる。寺山南山古墳やかつて存在していた七観山古墳と共に履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）に付随する古墳と考えられる。埋葬施設は、未調査のため不明であるが、碧玉製の琴柱形石製品が出土したといわれている。

昭和 58 年（1983）の公園整備に伴う測量及び発掘調査では、墳丘盛土と墳丘裾の可能性のある地山の立ち上がりを確認し、直径 32.5mの円墳に復元できた。濠の明瞭な肩や堆積層は検出されていないことから、古墳築造当初から明瞭な濠は設けられなかった可能性がある。出土した円筒埴輪から履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）と時期差がそれほどないと考えられている。

#### ⑰七観音古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置//主な遺構/主な遺物	書名/発行年
昭和 58	堺市教育委員会	公園整備	墳丘周囲発掘 // 墳丘裾・墳丘盛土/円筒埴輪・蓋形埴輪	1 /2008



昭和 58 年度調査 土層堆積状況



調査前全景（東から）





平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



### ⑱御廟山古墳内濠 調査履歴

御廟山古墳は百舌鳥古墳群の中央部に位置し、墳丘長 203m、後円部高 18.3mを測る、百舌鳥古墳群では 4 番目の規模を誇る前方後円墳である。埋葬施設や副葬品は不明である。墳丘は 3 段に築かれ、くびれ部南側に造り出しが設けられている。墳丘の周りには御廟池と呼ばれる盾形の濠と堤が残る。かつては二重に濠が巡らされ、周囲には現存する万代山古墳のほか、滑石製石製品などの出土で知られるカトンボ山古墳など陪塚と考えられる古墳が数基あった。

平成 3 年度、百舌鳥三陵周遊路建設工事に先立ち実施した後円部側の発掘調査では、二重に巡らされた濠を確認した。また、平成 6 年度に下水道管敷設工事に伴う前方部側の立会調査でも二重濠の存在が確認された。平成 20 年度、宮内庁と堺市が同時調査を実施した。その結果、墳丘の規模を墳丘長 203m、後円部径 113m、前方部最大幅 136mと復元した。下段テラスでは高さ 75 cm前後の円筒埴輪が隙間なく並んで出土し、造り出しの上面やその周辺からは多種多様な形象埴輪が出土した。中でも、冪形埴輪と神社建築に通じる造形の家形埴輪が注目される。また、ミニチュア土器や生焼けの須恵器と共に魚や笊を表した土製品などが出土したことは、造り出しで行われた儀礼の一端を示すと考えられる。これら出土した遺物から、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）に先行する 5 世紀前半の築造と考えられる。

#### ⑱御廟山古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置//主な遺構/主な遺物	書名/ 刊行年
平成 3	堺市教育委員会	周遊路	後円部側周冪発掘 // 外濠/埴輪・瓦・陶磁器他	1 /1994
平成 6	堺市教育委員会	下水道布設	前方部南立会 // 外濠/円筒埴輪他	2 /1996
平成 20	堺市教育委員会	内容確認	宮内庁と同時調査、墳丘裾・周濠発掘 // 葺石・墳丘構築層/埴輪・恵器・陶磁器他	3 /2010 4 /2011



平成 20 年度調査

造り出し

くびれ部  
北側







平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真



## ⑱ニサンザイ古墳内濠 調査履歴

ニサンザイ古墳は百舌鳥古墳群の南西部にある、前方部を西に向けた前方後円墳である。埋葬施設や副葬品は不明である。墳丘の周りには御陵池（仁山田池）と呼ばれる盾形の濠と堤が残る。周囲には陪塚と考えられる経塚古墳やこうじ山古墳があった。

本古墳内濠並びに墳丘の調査は、平成 24 年度から行われ、平成 24 年度は宮内庁と堺市が同時調査した。それぞれの管理地を調査し、宮内庁は墳丘を、市は墳丘裾・内濠を同時に調査し、相互に成果を共有した。結果、墳丘規模は墳丘長 300.3m、後円部径 168.6mとなることが判明した。第 1 段斜面は葺石がほとんど葺かれていないか、葺かれていても極めてまばらであったことから、古墳築造に伴う省力化が始まっていたと考えられる。造り出しからは埴輪列とその内側に据えられたままの須恵器大甕の底部が出土したものの、御廟山古墳に比べて形象埴輪の種類が少なく、造り出しで行われた儀礼の変容を示唆する。一方、濠内からは木製 蓋、立ち飾り、笠形木製品、翳形木製品さしぼなど多様な木製品が出土した。墳丘や内堤には土製の埴輪だけでなく多くの木製品が並べられ、木製品を多用した儀礼が行われていたと考えられる。後円部の主軸線上で、濠に架けられた木橋遺構を検出した。規模は長さ 55m、幅 12mで、古墳時代の木橋としては国内最大である。橋は古墳築造の最終段階か築造直後に架けられ、短期間で撤去されたと推測する。巨大古墳で行われた葬送儀礼や古墳の付帯施設を考える上で重要である。出土した遺物から仁徳天皇陵古墳（大山古墳）より新しく、5 世紀後半の築造と考えられる。

### ⑱ニサンザイ古墳 調査履歴一覧

調査年度	調査主体	調査原因	調査概要：調査位置 // 出土遺構／出土遺物	書名/ 刊行年
昭和 45	堺市教育委員会	護岸余水口	北西隅立会 // 堤／—	4 /1999
昭和 51・52	堺市教育委員会	範囲確認	南・北側二重濠発掘 // 外濠/埴輪・笠形木製品他	1 /1978
平成 2	堺市教育委員会	河川改修	前方部北西隅立会 // 外濠・周提帯/埴輪・瓦器他	2 /1994
平成 6	堺市教育委員会	下水道管布設	南側面立会 // 周濠の堤／円筒埴輪	3 /1996
平成 9	堺市教育委員会	下水道管敷設	北くびれ～前方部立会 // 外濠/円筒埴輪・瓦器他	4 /1999
平成 10	堺市教育委員会	下水道管敷設	後円部北周囲立会 // 外濠/円筒埴輪・瓦質土器	5 /2000
平成 12	堺市教育委員会	公園整備	前方部周囲発掘 // 外濠／埴輪・瓦器他	6 /2001
平成 13	堺市教育委員会	下水道管敷設	後円部東南周囲立会 // なし／なし	7 /2003
平成 20	堺市教育委員会	地中レーダ	後円部外濠探查 // 外濠を推定	9 /2009
平成 24	堺市教育委員会	内容確認	宮内庁と同時調査、後円部墳端・濠発掘 // 墳端・濠・木橋/埴輪・木製品・須恵器他	10 /2018 11 /2014
平成 25	堺市教育委員会	内容確認	後円部墳端・濠発掘 // 墳端・葺石/埴輪・木製品他	10 /2018
平成 26	堺市教育委員会	内容確認	前方部墳端・濠発掘 // 墳端／埴輪・木製品他	10 /2018
平成 27	堺市教育委員会	内容確認	後円部墳端・濠発掘 // 墳端・濠/埴輪・須恵器他	10 /2018



平成 29 年 (2017) 航空写真



昭和 17 年 (1942) 航空写真

#### (4) 指定地の状況

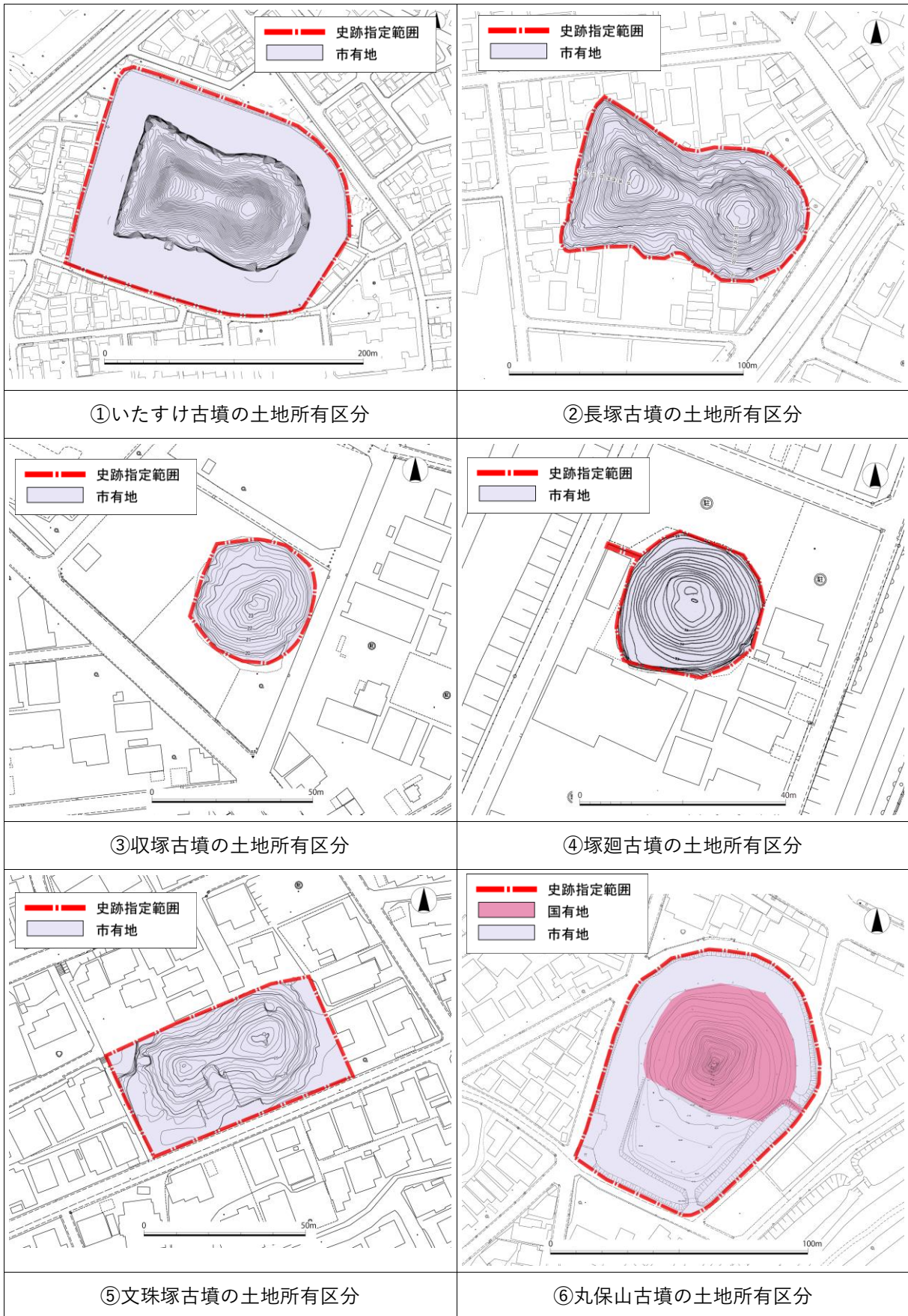
昭和31年（1956）のいたすけ古墳の史跡指定以降、昭和時代に指定された古墳は順次指定地内の公有化が進められた。また平成26年（2014）に追加された主な古墳は、大仙公園をはじめとする公園開設にあたり、古墳を保存活用する公園の整備計画のもと、古墳の墳丘並びに周辺の公有化が行われていた。大仙公園では昭和22年（1947）の都市計画決定に基づき、事業認可された区域において公有化が進んでいる。現在、史跡指定されている19基の古墳のうち、17基は公有化が完了している。指定古墳でも墳丘や周濠部分に未指定地及び民有地が残されている古墳がある。指定古墳の指定地の公有化状況と墳丘や周濠部分の未指定地は下記のとおりである。

指定地170,345.36m<sup>2</sup>（令和3年3月現在）のうち民有地は1,183.01m<sup>2</sup>であり、それ以外は公有地としてそれぞれの所有者が管理を行い、文化財保護法第113条第1項の規定による指定を受けた管理団体は存在しない。

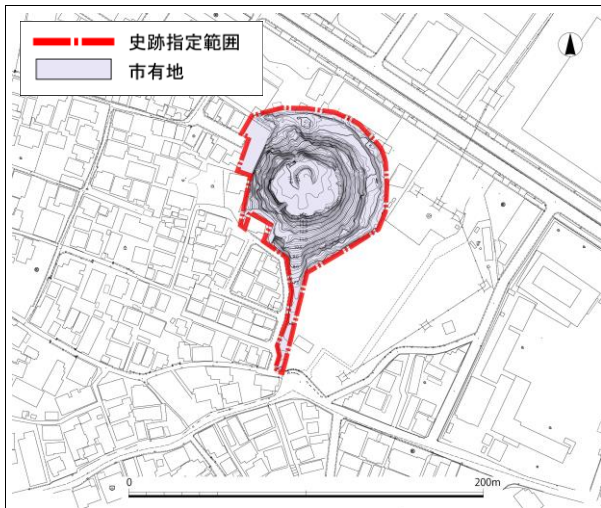
史跡指定古墳公有化状況

古墳名	公有化状況	所有者	未指定地	未指定地の所有者
①いたすけ古墳	完了	堺市		
②長塚古墳	完了	堺市	周濠	個人・堺市
③収塚古墳	完了	堺市	墳丘及び周濠	個人・堺市
④塚廻古墳	完了	堺市	周濠	個人・堺市
⑤文珠塚古墳	完了	堺市		
⑥丸保山古墳	完了	堺市・国		
⑦乳岡古墳	完了	堺市	墳丘及び周濠	個人・堺市
⑧御廟表塚古墳	完了	堺市	墳丘及び周濠	個人・堺市
⑨ドンチャ山古墳	完了（公園）	堺市		
⑩正楽寺山古墳	完了（公園）	堺市		
⑪鏡塚古墳	一部完了（道路）	個人・堺市	墳丘及び周溝	個人・堺市
⑫善右エ門山古墳	未	個人	いたすけ古墳外堤	個人・堺市
⑬銭塚古墳	完了（学校）	大阪府		
⑭グワシヨウ坊古墳	完了（公園）	堺市		
⑮旗塚古墳	完了（公園）	堺市		
⑯寺山南山古墳	完了（公園）	堺市		
⑰七観音古墳	完了（公園）	堺市		
⑱御廟山古墳内濠	完了	堺市		
⑲ニサンザイ古墳内濠	完了（公園）	堺市		

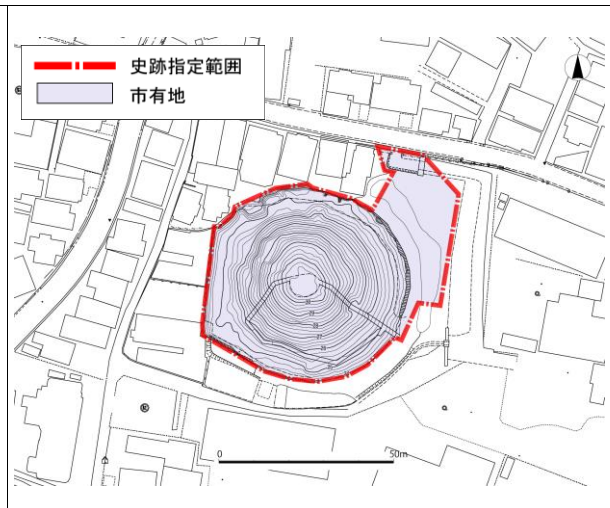




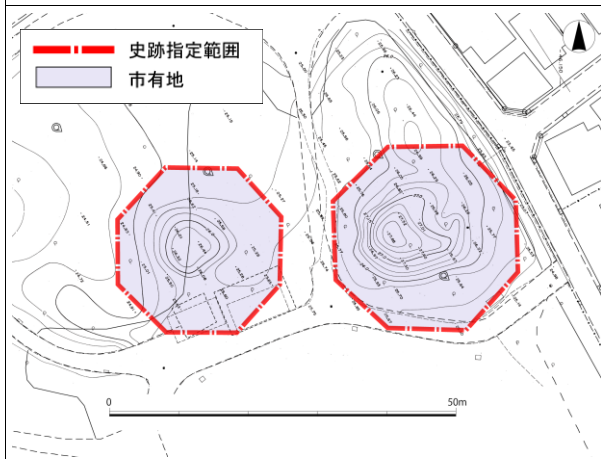
各古墳 土地所有区分図



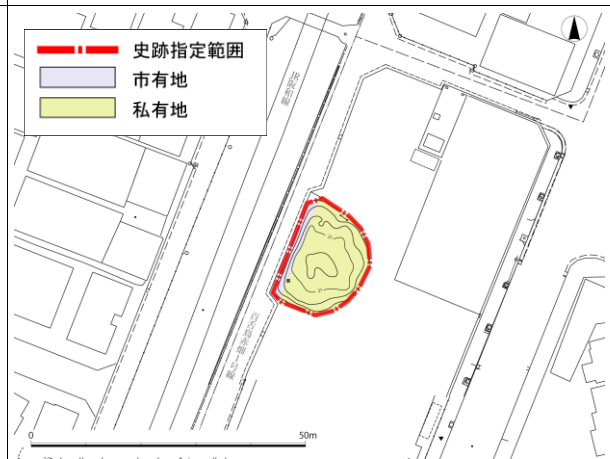
⑦乳岡古墳の土地所有区分



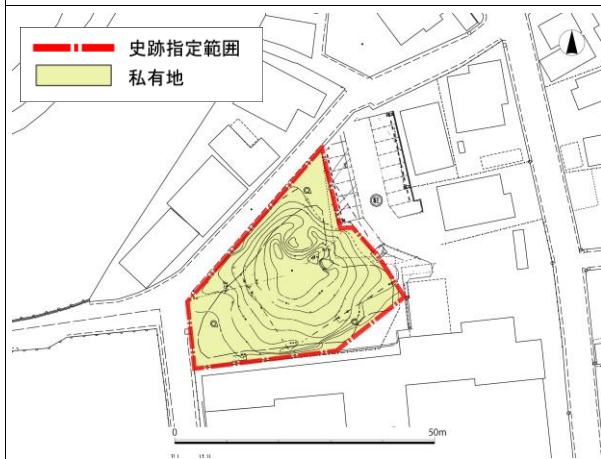
⑧御廟表塚古墳の土地所有区分



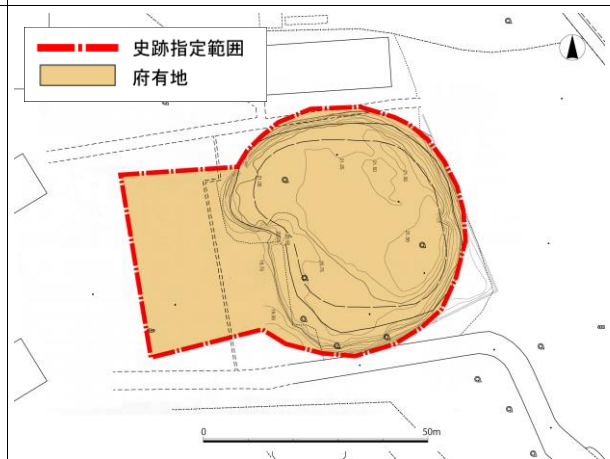
⑨ドンチャ山古墳・⑩正楽寺山古墳の土地所有区分



⑪鏡塚古墳の土地所有区分



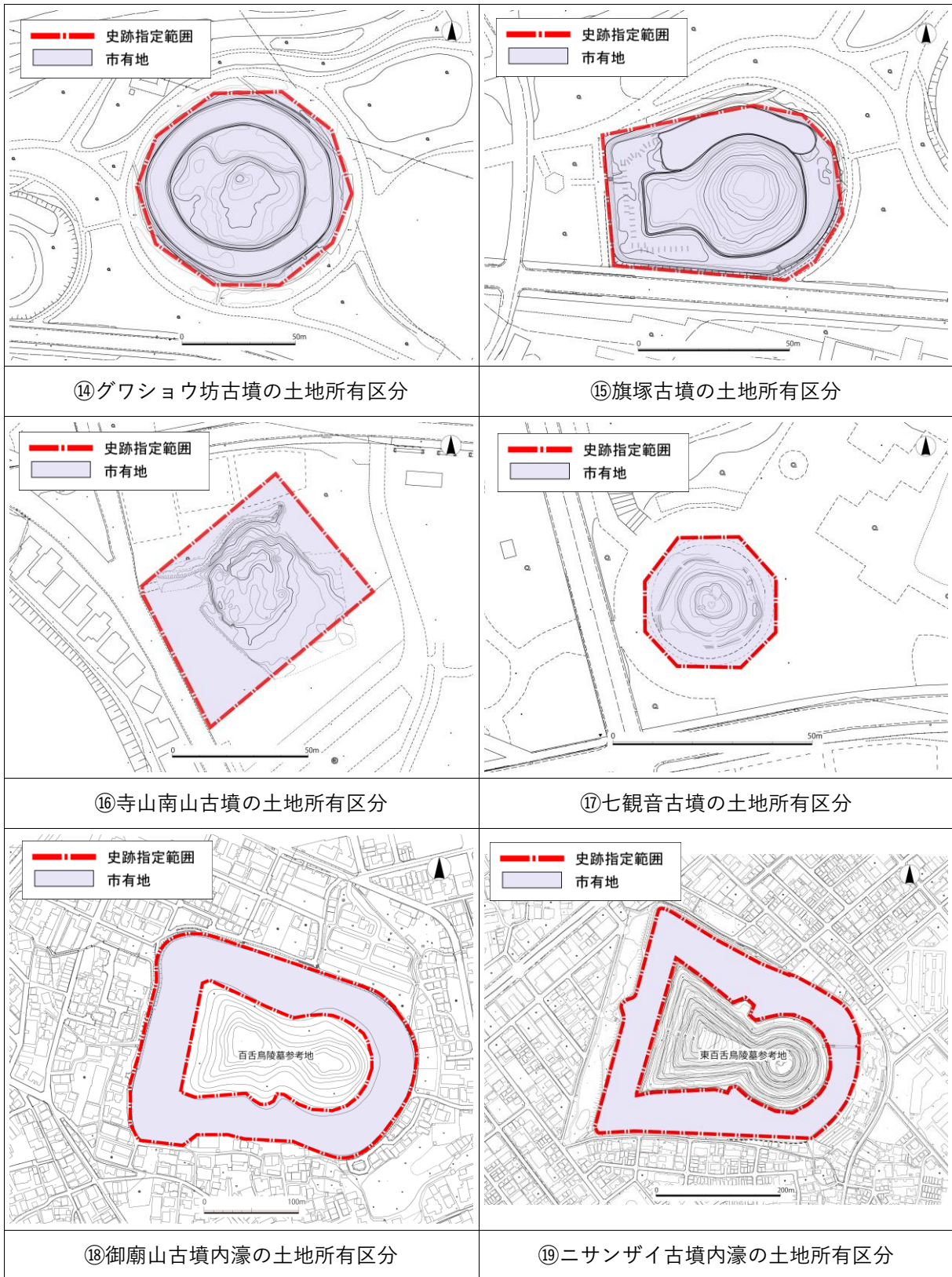
⑫善右エ門山古墳の土地所有区分



⑬銭塚古墳の土地所有区分

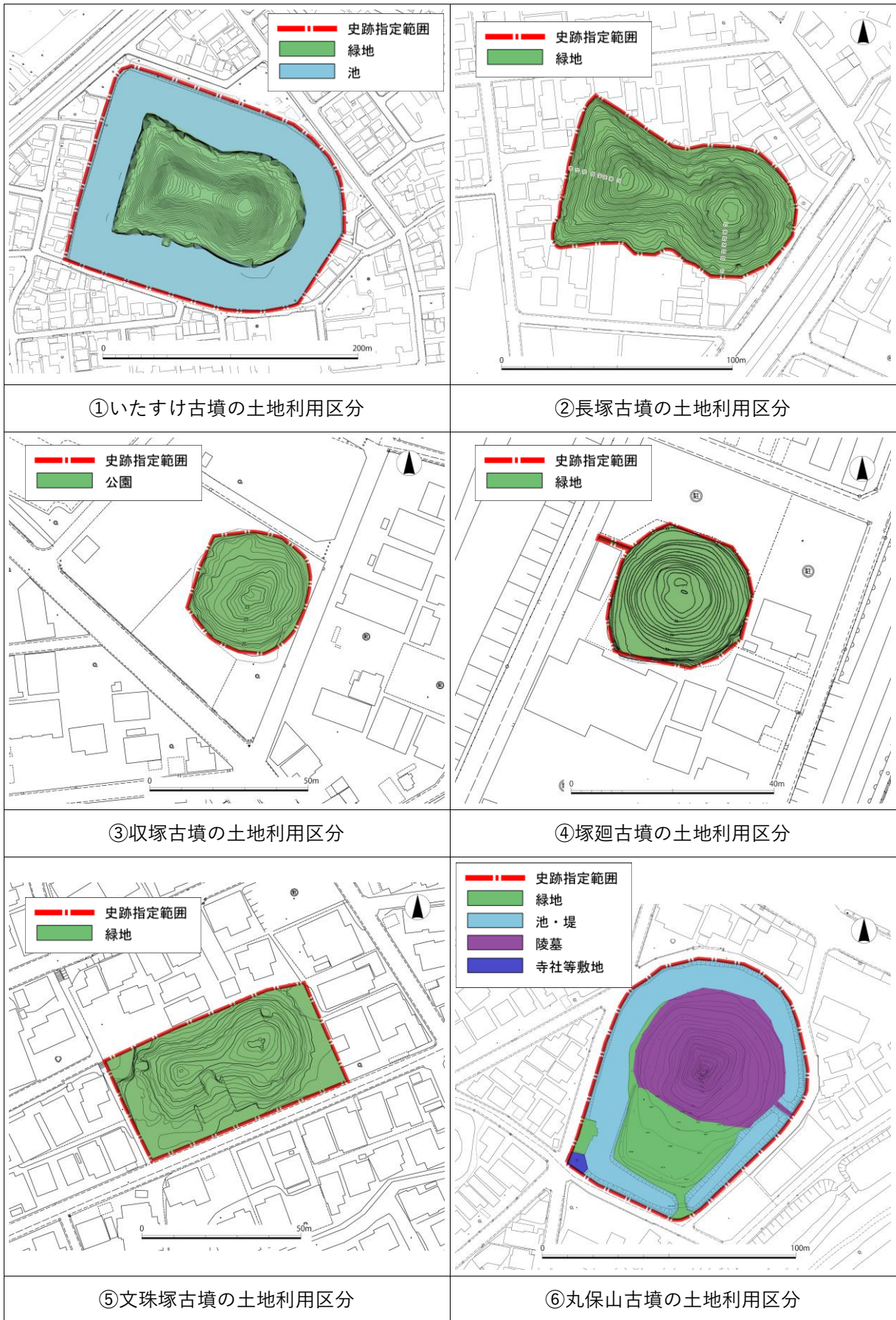
各古墳 土地所有区分図



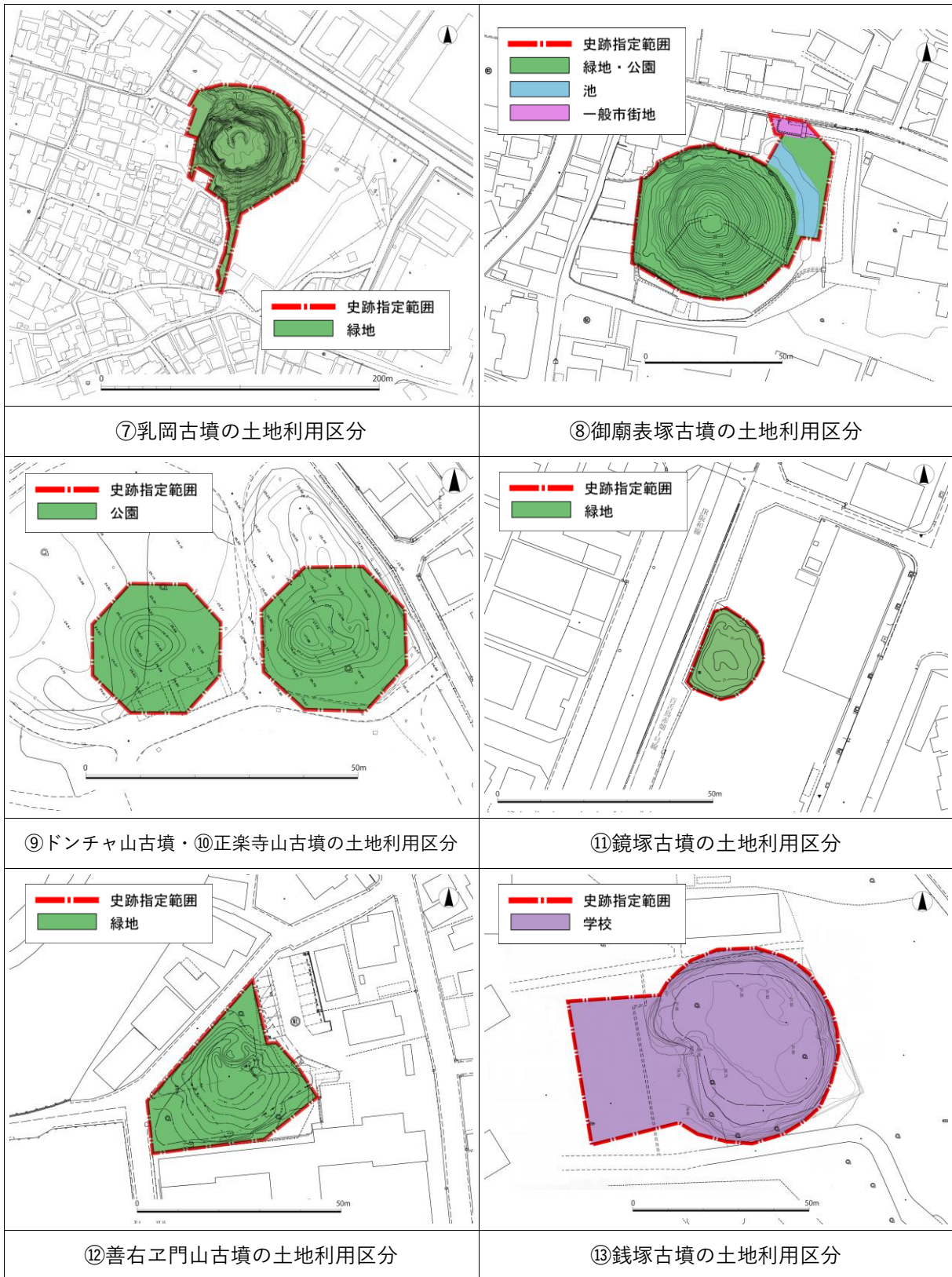


各古墳 土地所有区分図



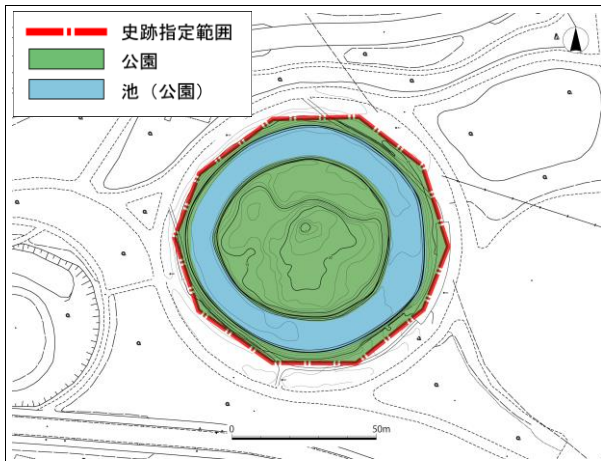


各古墳 土地利用区分図

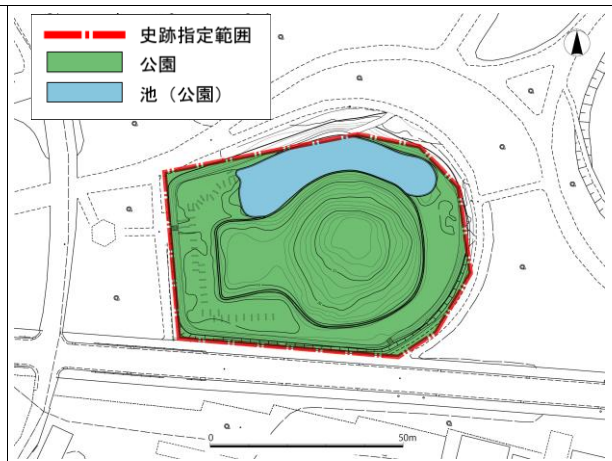


各古墳 土地利用区分図

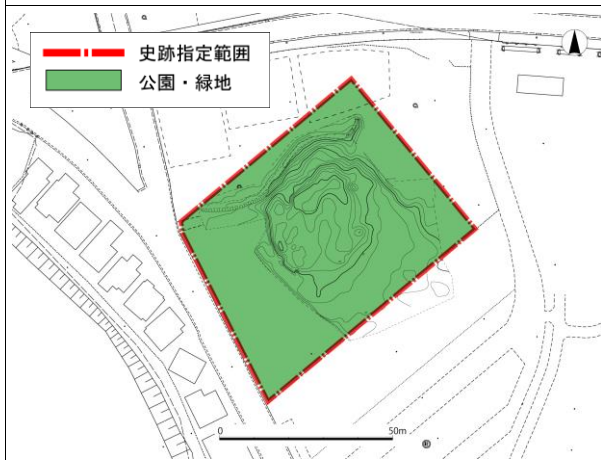




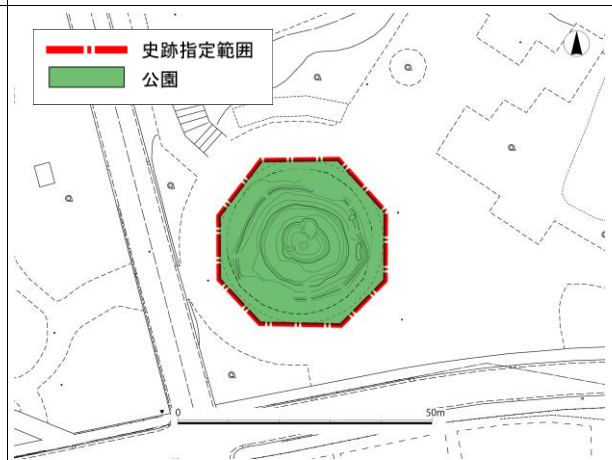
⑭グワシヨウ坊古墳の土地利用区分



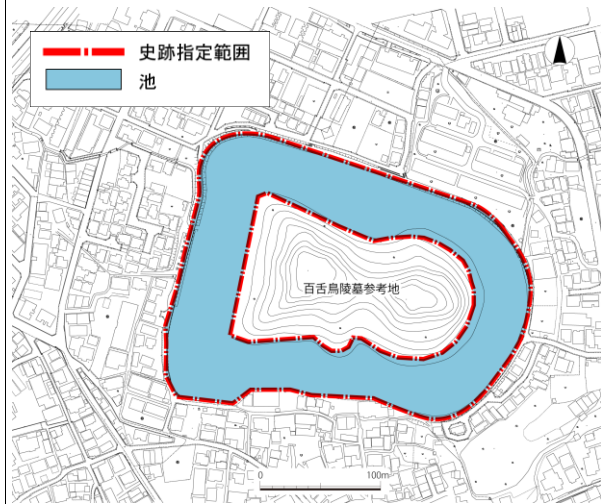
⑮旗塚古墳の土地利用区分



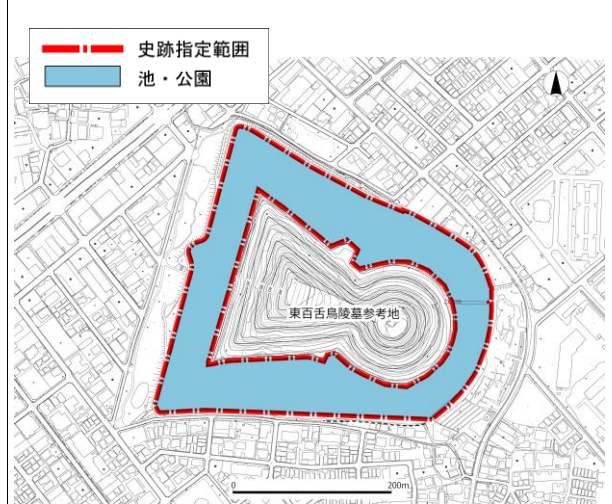
⑯寺山南山古墳の土地利用区分



⑰七観音古墳の土地利用区分



⑱御廟山古墳内濠の土地利用区分



⑲ニサンザイ古墳内濠の土地利用区分

各古墳 土地利用区分図



### 第3節 関連法規制

文化財保護法に基づき史跡に指定されている範囲は、文化財保護法の規制を受ける。また、陵墓は皇室典範により「天皇、皇后、太皇太后及び皇太后を葬る所を陵、その他の皇族を葬る所を墓」と定められたものであり、その管理は国有財産法に基づき国が直接行ってきた。皇室による祭祀が現に行われている場であり、広く皇室及び国民の追慕の対象であるというその性格に鑑み、今後も静安と尊厳の保持を最も大切なこととして管理を行うことから、開発が行われる余地はない。史跡周辺での開発などを規制する主な法令は、景観法・都市計画法・野外広告物法で、これらの法令に基づき、条例などの規定により建築物の高さ、建築物の色彩などの形態意匠・屋外広告物の設置を規制している。開発行為を行う場合には事前に許可・認定を得ることを義務付け、行政機関が適切に審査・指導・助言することで、史跡周辺の良好な景観、環境が保全されている。さらに、公園内及び公園に隣接して多くの古墳が存在し、大仙公園をはじめとする公園は都市公園法に基づいて設置され周辺環境の良好な景観形成に寄与している。

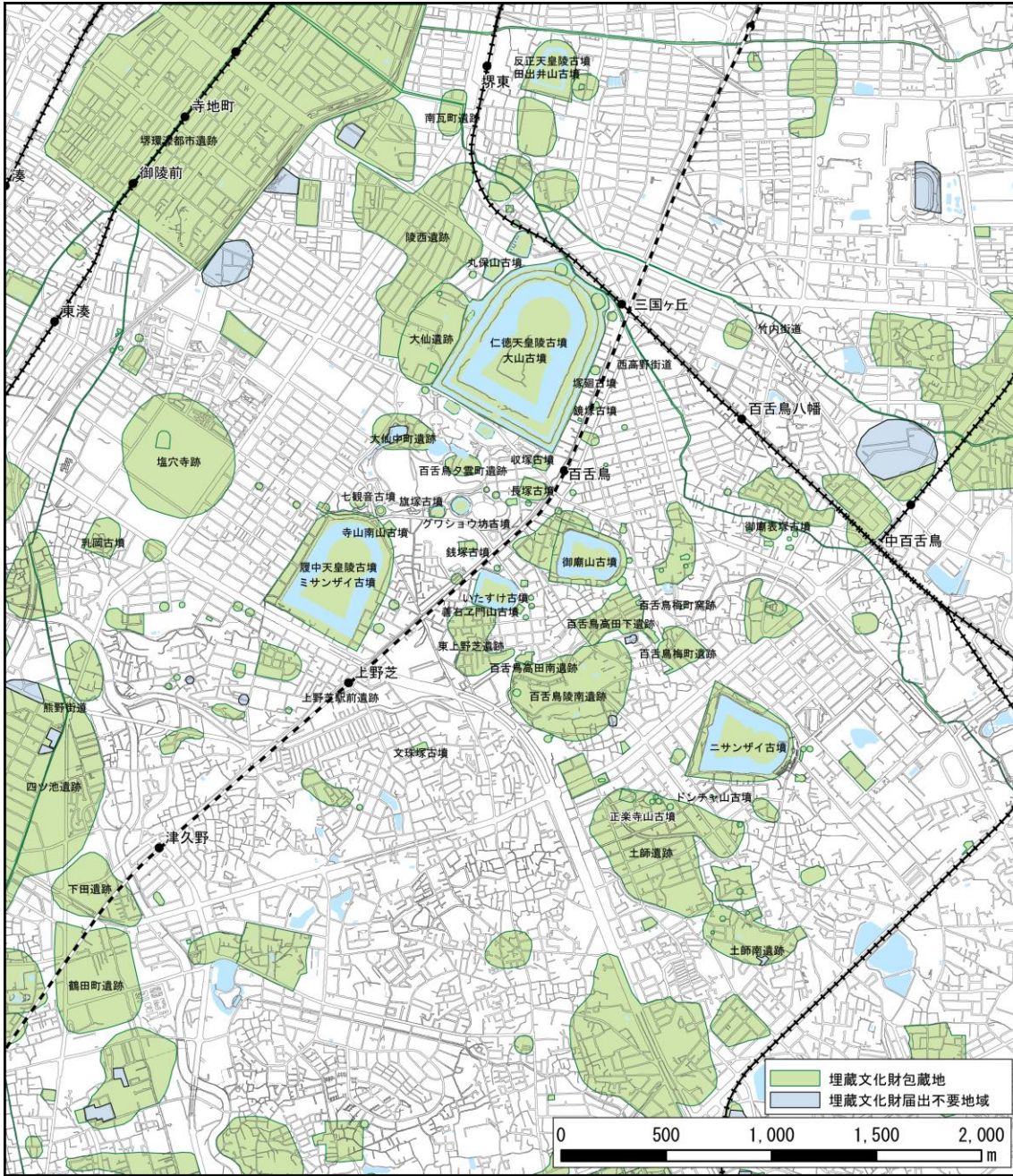
#### ①文化財保護法

文化財保護法に基づき史跡に指定されている範囲は、文化財保護法の規制を受け、「その現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとする場合」は文化財保護法第125条に基づき文化庁長官などの許可（国の機関である場合は法第168条の同意）が必要となる。現状変更申請が必要な行為内容などについては別途本計画の第6章に定める。

周知の埋蔵文化財包蔵地において土木工事などを行う際には、掘削に着手する前に文化財保護法第93条第1項、第94条第1項に基づき文化庁長官に届け出なければならない。さらに、工事中、若しくは試掘確認調査などにより包蔵地の新規発見が生じた際においても、文化財保護法第96条、97条に基づき文化庁長官に届け出なければならない。

#### ②国有財産法

国有財産法は国有財産の取得・維持・保存及び運用並びに処分について定めている。国有財産法において、国有財産は行政財産（公用財産、公共用財産、皇室用財産、森林経営用財産）と普通財産に分類される。陵墓は皇室用財産として担当省庁により良好な状態での維持管理がなされるべきと定められている。皇室用財産は、国において皇室の用に供し、又は供するものと決定したもので、行政財産の一種である。各省各庁の長は、その所管に属する国有財産について、良好な状態での維持及び保存、用途又は目的に応じた効率的な運用、その他の適正な方法による管理及び処分を行わなければならない。



史跡百舌鳥古墳群周辺の周知の埋蔵文化財包蔵地

## ③都市計画法

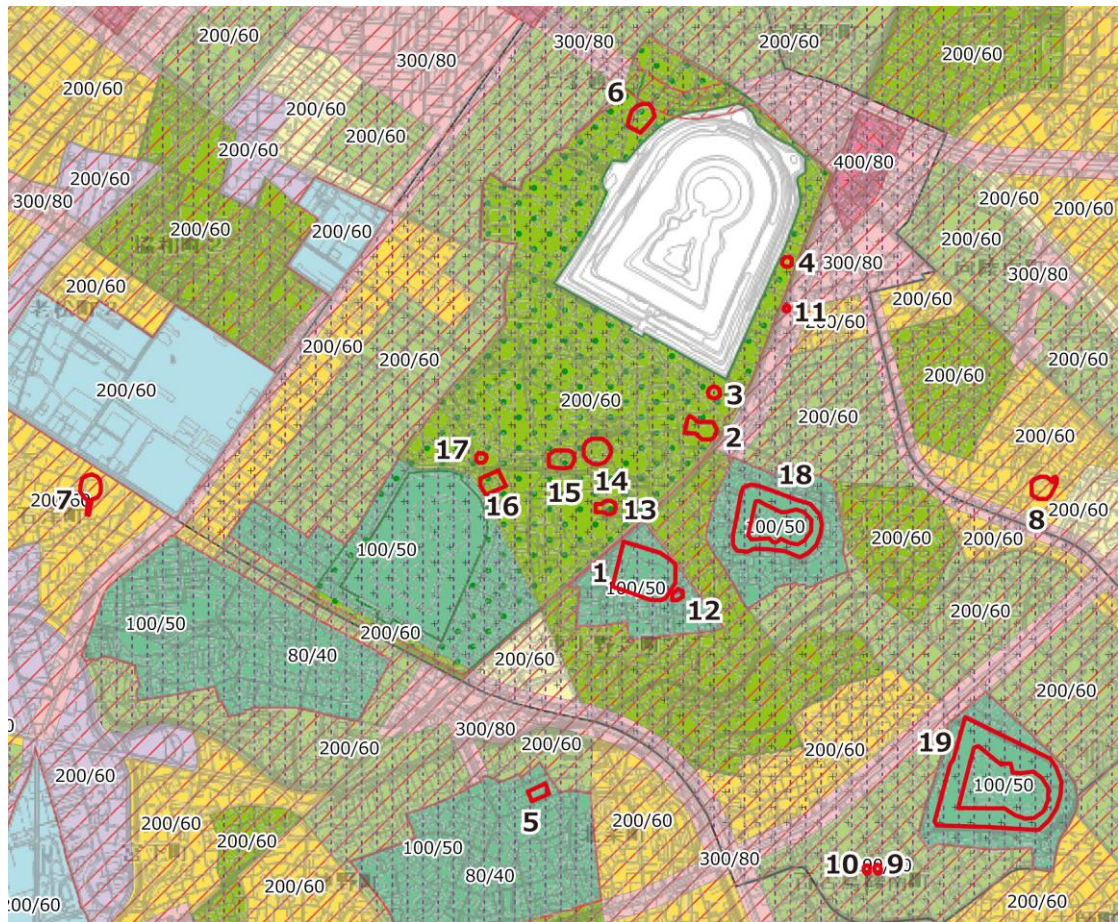
各古墳は市街化区域となっており、用途地区などが定められている。各古墳の地域地区（用途地域など）及び都市計画施設の位置づけについては以下のとおりである。

各古墳の都市計画決定の内容


















番号	古墳名	地域地区（用途地域など）の内容	都市計画施設
1	いたすけ古墳 （世界遺産 構成資産）	●用途地域：第一種低層住居専用地域 （建蔽率-50%,容積率-100%,建築物の高さの限度-10m） ●高度地区：第一種 ●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区	都市計画公園 （いたすけ公園）
2	長塚古墳 （世界遺産 構成資産）	●用途地域：第一種中高層住居専用地域 （建蔽率-60%,容積率-200%） ●高度地区：第四種 ●風致地区：大仙風致地区（建蔽率-40%） ●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区	都市計画公園 （大仙公園）
3	収塚古墳 （世界遺産 構成資産）	●用途地域：第一種中高層住居専用地域 （建蔽率-60%,容積率-200%） ●高度地区：第四種 ●風致地区：大仙風致地区（建蔽率-40%） ●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区	都市計画公園 （大仙公園）
4	塚廻古墳 （世界遺産 構成資産）	●用途地域：第一種中高層住居専用地域 （建蔽率-60%,容積率-200%） ●高度地区：第四種 ●風致地区：大仙風致地区（建蔽率-40%） ●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区	都市計画公園 （大仙公園）
5	文珠塚古墳	●用途地域：第一種低層住居専用地域 （建蔽率-50%,容積率-100%,建築物の高さの限度10m） ●高度地区：第一種	—
6	丸保山古墳 （世界遺産 構成資産）	●用途地域：第一種中高層住居専用地域 （建蔽率-60%,容積率-200%） ●高度地区：第四種 ●防火・準防火地域：一部準防火地域 ●風致地区：大仙風致地区（建蔽率-40%） ●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区	一部都市計画公園 （大仙公園）
7	乳岡古墳	●用途地域：第一種住居地域 （建蔽率-60%,容積率-200%） ●防火・準防火地域：準防火地域	—
8	御廟表塚古墳	●用途地域：第一種住居地域 （建蔽率-60%,容積率-200） ●防火・準防火地域：準防火地域	—
9	ドンチャ山古墳	●用途地域：第二種中高層住居専用地域 （建蔽率-60%,容積率-200%） ●高度地区：第四種 ●防火・準防火地域：準防火地域 ●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区	都市計画公園 （陵南中央公園）



番号	古墳名	地域地区（用途地域など）の内容	都市計画施設
10	正楽寺山古墳	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第二種中高層住居専用地域（建蔽率-60%, 容積率-200%）</li> <li>●高度地区：第四種</li> <li>●防火・準防火地域：準防火地域</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	都市計画公園 （陵南中央公園）
11	鏡塚古墳	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：近隣商業地域（建蔽率-80%, 容積率-300%）</li> <li>●高度地区：第五種</li> <li>●防火・準防火地域：準防火地域</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	—
12	善右エ門山古墳 （世界遺産 構成資産）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第一種低層住居専用地域（建蔽率-50%, 容積率-100%, 建築物の高さの限度 10m）</li> <li>●高度地区：第一種</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	—
13	銭塚古墳 （世界遺産 構成資産）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第一種中高層住居専用地域（建蔽率-60%, 容積率-200%）</li> <li>●高度地区：第四種</li> <li>●風致地区：大仙風致地区（建蔽率-40%）</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	都市計画公園 （大仙公園）
14	グワシヨウ坊古墳	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第一種中高層住居専用地域（建蔽率-60%, 容積率-200%）</li> <li>●高度地区：第四種</li> <li>●風致地区：大仙風致地区（建蔽率 40%）</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	都市計画公園 （大仙公園）
15	旗塚古墳 （世界遺産 構成資産）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第一種中高層住居専用地域（建蔽率-60%, 容積率-200%）</li> <li>●高度地区：第四種</li> <li>●風致地区：大仙風致地区（建蔽率-40%）</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	都市計画公園 （大仙公園）
16	寺山南山古墳 （世界遺産 構成資産）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第一種中高層住居専用地域（建蔽率-60, 容積率-200%）</li> <li>●高度地区：第四種</li> <li>●風致地区：大仙風致地区（建蔽率-40%）</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	都市計画公園 （大仙公園）
17	七観音古墳 （世界遺産 構成資産）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第一種中高層住居専用地域（建蔽率-60%, 容積率-200%）</li> <li>●高度地区：第四種</li> <li>●風致地区：大仙風致地区（建蔽率-40%）</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	都市計画公園 （大仙公園）
18	御廟山古墳内濠 （世界遺産 構成資産）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第一種低層住居専用地域（建蔽率-50%, 容積率-100%, 建築物の高さの限度 10m）</li> <li>●高度地区：第一種</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	—
19	ニサンザイ古墳内濠 （世界遺産 構成資産）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用途地域：第一種低層住居専用地域（建蔽率-50%, 容積率-100%, 建築物の高さの限度 10m）</li> <li>●高度地区：第一種</li> <li>●景観地区：百舌鳥古墳群周辺景観地区</li> </ul>	都市計画公園 （御陵山公園）



1 いたすけ古墳	2 長塚古墳	3 収塚古墳	4 塚廻古墳	5 文珠塚古墳
6 丸保山古墳	7 乳岡古墳	8 御廟表塚古墳	9 ドンチャ山古墳	10 正楽寺山古墳
11 鏡塚古墳	12 善右エ門山古墳	13 銭塚古墳	14 グワシヨウ坊古墳	15 旗塚古墳
16 寺山南山古墳	17 七観音古墳	18 御廟山古墳内濠	19 ニサンザイ古墳内濠	

- |  |  |
|--|--|
|  第一種低層住居専用地域  |  商業地域   |
|  第二種低層住居専用地域  |  準工業地域  |
|  第一種中高層住居専用地域 |  工業地域   |
|  第二種中高層住居専用地域 |  工業専用地域 |
|  第一種住居地域      |  防火地域   |
|  第二種住居地域      |  準防火地域  |
|  準住居地域        |  高度地区   |
|  近隣商業地域       |  風致地区   |
|  |  景観地区   |

#### ④都市公園法

史跡百舌鳥古墳群の19基のうち13基の古墳が、公園内及び隣接して位置している。いたすけ古墳はいたすけ公園、ニサンザイ古墳内濠は御陵山公園に隣接し、グワショウ坊古墳・七観音古墳・旗塚古墳・収塚古墳・寺山南山古墳は大仙公園内にあり、長塚古墳・塚廻古墳・丸保山古墳・銭塚古墳は大仙公園予定地にある。また、正楽寺山古墳・ドンチャ山古墳は陵南中央公園内にある。大仙公園内には図書館・博物館・日本庭園の施設をはじめ、グワショウ坊古墳・七観音古墳・旗塚古墳を含む約10haに都市緑化植物園が開設されている。都市緑化植物園は昭和52年(1977)から着手され、グワショウ坊古墳・旗塚古墳は、樹林の編成を見る森林推移実験見本園、水生・湿生植物園として修景されていた。

これらの公園は、都市公園法により施設の規格化、管理の適正化を図り、適切な維持が効果的に運用されている。本市における公園管理は、同法、同法に基づく施行令、堺市公園条例、同施行規則などにより運用されている。

都市公園法に定める都市公園に位置する史跡百舌鳥古墳群一覧

公園名称	古墳名称	区分	開設年	面積 (ha)	沿革
いたすけ公園	①いたすけ古墳	近隣公園	昭和46	0.35	昭和42年:百舌鳥本町土地区画整理事業
陵南中央公園	⑨ドンチャ山古墳 ⑩正楽寺山古墳	近隣公園	昭和56	1.30	昭和56年:百舌鳥陵南土地区画整理事業
大仙公園	③収塚古墳 ⑭グワショウ坊古墳 ⑮旗塚古墳 ⑯寺山南山古墳 ⑰七観音古墳	総合公園	昭和42	38.50	昭和22年:都市計画決定 昭和38年:事業着手 昭和52年:都市緑化植物園整備に着手 昭和57年:都市緑化植物園開園 昭和61年:都市緑化センター開館 平成28年:収塚古墳広場完成
大仙公園 予定地	②長塚古墳 ④塚廻古墳 ⑥丸保山古墳 ⑬銭塚古墳				
御陵山公園	⑱ニサンザイ古墳内濠	風致公園	平成13	1.59	昭和40年:都市計画決定 昭和51年:事業着手

\*近隣公園は主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とし1箇所当たり面積2haを標準として配置、総合公園は都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とし1箇所当たり面積10ha～50ha未満を標準とする。風致公園は、主として風致を享受することを目的とする公園で樹林地、水辺地等の自然条件に応じ適切に配置。



## ⑤堺市風致地区内における建築などの規制に関する条例

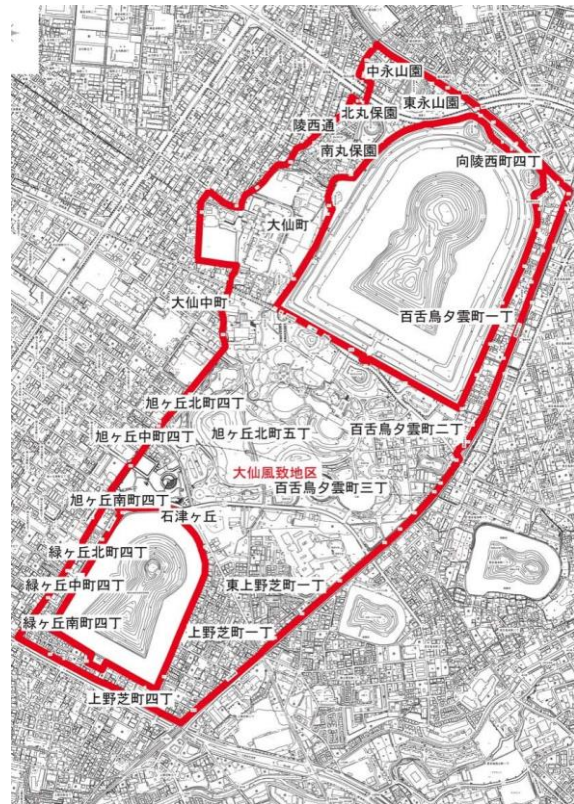
大仙公園周辺は「都市の風致を維持するため定める地区」として大仙風致地区に指定されており、次のいずれかの行為を行う場合は、許可が必要になる。

## ○許可が必要な行為

- (1) 建築物その他の工作物（以下「建築物など」という。）の新築・改築・増築及び移転
- (2) 建築物などの色彩の変更
- (3) 宅地の造成、土地の開墾、その他の土地の形質の変更
- (4) 水面の埋立て又は干拓
- (5) 木竹の伐採
- (6) 土石の類の採取
- (7) 屋外における土石、廃棄物、又は再生資源のたい積

## ○許可基準

- (1) 建築物の新築・改築・増築又は移転行為
  - ① 高さが15m以下であること。
  - ② 建蔽率が40%以下であること。  
(防火地域内、街区の角地など 建築基準法と同等の緩和はありません。)
  - ③ 外壁、柱等の面から後退距離は道路境界から1.8m以上、その他の境界から1m以上であること。
  - ④ 位置・規模・形態・意匠及び色彩が周辺の風致と著しく不調和でないこと。
  - ⑤ 緑化率及び基準植栽密度を確保すること。



大仙風致地区範囲図

表. 緑化率

敷地面積	緑化率
500m <sup>2</sup> 未満	100分の20
500m <sup>2</sup> 以上1,000m <sup>2</sup> 未満	100分の25
1,000m <sup>2</sup> 以上	100分の30

※基準植栽密度とは、「必要緑化面積」の10m<sup>2</sup>あたり高木1本（中木2本で1本に換算することができる。）

以上の植栽密度をという。小数点第2位以下切り捨て。第1位を0.5刻みで切り上げる。

※必要緑化面積 (m<sup>2</sup>) = 敷地面積 (m<sup>2</sup>) × 緑化率

## (2) 工作物の新築等

- ・道路に接する部分の敷地境界沿いに高さが1.5m以上（最大5m以下とする）の擁壁を設けようとする場合は、高さの2分の1以上の植栽空間を設けること。（最大1.8mの後退とする。）

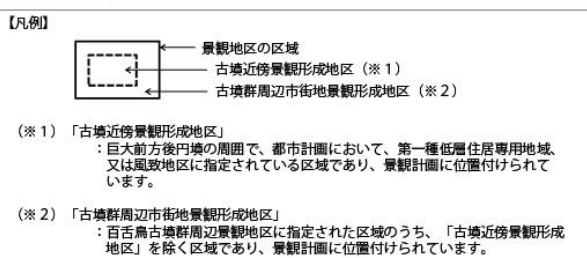
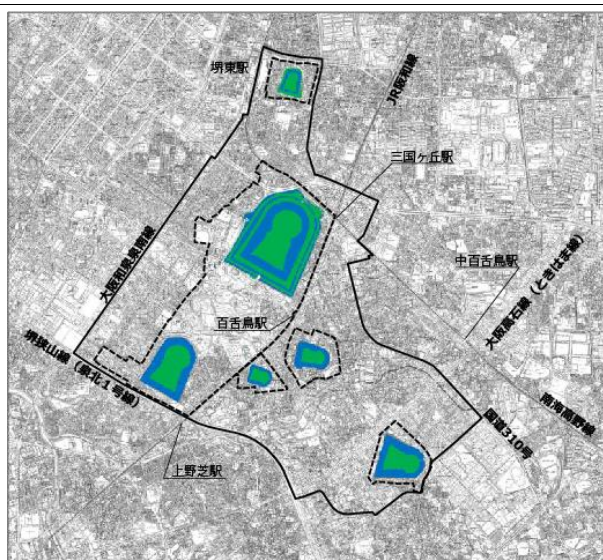
## ⑥堺市景観条例

本市では市全域を景観計画区域として景観法に基づく景観計画を策定しており、景観条例に基づき、以下の行為については届出・許可が必要となる。

対象	行為の種別	対象規模	
建築物	新築・増築・改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更 (※1)	次のいずれかに該当するもの (増築・改築後に以下の規模になるものを含む) ・建築物の高さが15mを超えるもの ・地上6階以上のもの ・延べ面積が3,000㎡を超えるもの	
工作物	新設・増築・改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更 (※2)	高架道路など	・地上からの高さが5mを超えるもの
		橋梁など	・幅員が16m以上、又は延長が30mを超えるもの
		上記以外の工作物	次のいずれかに該当するもの ・高さが15mを超えるもの ・建築物に設置する場合で、その高さが10mを超えかつ建築物との合計高さが15mを超えるもの
広告物	広告物の表示・移転、若しくは色彩の変更又は広告物を掲出する物件の設置・改造・移設・修繕若しくは色彩の変更	次のいずれかに該当するもの ・広告物又は広告物を掲出する物件の高さが15mを超えるもの ・建築物と一体になって設置される場合で、広告物又は広告物を掲出する物件の高さが10mを超え、かつ建築物の高さとの合計が15mを超えるもの ・広告物又は広告物を掲出する物件で、広告物の表示面積の合計が40㎡を超えるもの	

※1) 建築物の増築・改築については、増築又は改築をする場合の床面積の合計が、既存の建築物の延べ面積の10分の1を超えるもの。また、建築物の外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更については、当該外観の変更面積が従前の外観の見付面積の3分の1を超えるもの。

※2) 工作物の外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更については、当該外観の変更面積が従前の外観の見付面積の3分の1を超えるもの。



百舌鳥古墳群周辺景観地区

## 第4節 世界遺産百舌鳥・古市古墳群の概要

世界遺産とは昭和47年(1972)にユネスコで採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて、世界遺産一覧表へ記載される、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」(Outstanding universal value)を持つ文化財とされている。日本は平成4年(1992)に世界遺産条約に批准し、令和3年(2021)7月時点で194か国が締結している。

「百舌鳥・古市古墳群 ー古代日本の墳墓群ー」は令和元年(2019)7月にアゼルバイジャンで開催された第43回世界遺産委員会において世界遺産一覧表に記載されることが決定した。

百舌鳥古墳群史跡等指定区分一覧

	国指定 史跡 19基	陵墓 23基	市指定 史跡 3基	未指定古墳 5基
世界遺産構成資産 23基	①いたすけ古墳	永山古墳	永山古墳周濠	
	②長塚古墳	竜佐山古墳	竜佐山古墳周濠	
	③収塚古墳	孫太夫山古墳	孫太夫山古墳前方部及び周濠	
	④塚廻古墳	反正天皇陵古墳		
	⑫善右エ門山古墳	仁徳天皇陵古墳		
	⑬銭塚古墳	大安寺山古墳		
	⑮旗塚古墳	茶山古墳		
	⑯寺山南山古墳	履中天皇陵古墳		
	⑰七観音古墳	菰山塚古墳		
	⑱御廟山古墳内濠	御廟山古墳		
	⑲ニサンザイ古墳内濠	ニサンザイ古墳		
	⑥丸保山古墳※	丸保山古墳※		
		源右衛門山古墳		
	銅亀山古墳			
	⑤文珠塚古墳	桧塚古墳		定の山古墳
	⑦乳岡古墳	樋の谷古墳		かぶと塚古墳
	⑧御廟表塚古墳	狐山古墳		万代山古墳
	⑨ドンチャ山古墳	西酒呑古墳		鎮守山塚古墳
	⑩正楽寺山古墳	東酒呑古墳		東上野芝1号墳
	⑪鏡塚古墳	経堂古墳		
	⑭グワシヨウ坊古墳	坊主山古墳		
		鈴山古墳		
		天王古墳		

※後円部のみ史跡と陵墓が重複

国指定史跡19基のうち世界遺産構成資産は12基(陵墓3基重複:御廟山古墳・ニサンザイ古墳・丸保山古墳)



世界遺産委員会決議

第 43 回世界遺産委員会における審議で採択された決議文は次のとおりである。

第 43 回世界遺産委員会・百舌鳥・古市古墳群にかかる決議

<p>Decision: 43 COM 8B.18</p> <p>The World Heritage Committee,</p> <p>1. Having examined Documents HC/19/43.COM/8B and HC/19/43.COM/INF.8B1,</p> <p>2. Inscribes the Mozu-Furuichi Kofun Group: Mounded Tombs of Ancient Japan, Japan, on the World Heritage List on the basis of criteria (iii) and (iv);</p> <p>3. Adopts the following Statement of Outstanding Universal Value:</p> <p>Brief synthesis</p> <p>Located on a plateau above the Osaka Plain, the Mozu-Furuichi Kofun Group is a serial property of 45 components which contains 49 kofun ('old mound'), a large and distinctive type of burial mound. The selected kofun are found in two major clusters, and are the richest tangible representation of the culture of the Kofun period in Japan from the 3rd to 6th centuries, a period before Japanese society became an established centralised state under the influence of the Chinese system of law. The kofun have a range of contents, such as grave goods (weapons, armour, ornaments); and clay figures used to decorated the mounds, known as haniwa (in the form of cylinders arranged in rows, or representations of objects, houses, animals and people). Understood as tombs for kings' clans and affiliates during this period, some of the kofun are <i>Ryobo</i> (imperial mausolea) and are managed by Japan's Imperial Household Agency. The serial components have been</p>	<p>決議: 43 COM 8B.18</p> <p>世界遺産委員会は、</p> <p>1. 文書 WHC/19/43.COM/8B および WHC/19/43.COM/INF.8B1 を確認し、</p> <p>2. 百舌鳥・古市古墳群—古代日本の墳墓群—(日本)を評価基準 (iii) (iv) に基づき、世界遺産一覧表に記載し、</p> <p>3. 以下の顕著な普遍的価値の言明を採択し、総合的所見</p> <p>大阪平野の台地に位置する百舌鳥・古市古墳群は、45 の構成資産から成る資産であり、49 基の古墳(“古い”“塚”)が含まれる。古墳とは、大きくて独特な墳墓である。これらの選ばれた古墳は二つの大きなまとまりで存在し、日本の古墳時代(3世紀から6世紀)の文化を最も豊かに顕示するものである。古墳時代は、日本社会が中国の法制度の影響のもと中央集権化される前の時代であった。古墳は、副葬品(武器、武具、装飾品)や、埴輪という呼称で知られる墳丘を装飾する土製品(列状に並べられた円筒形のもの、あるいはモノ・家・動物・人物を象ったもの)などさまざまなものを内包する。この時代の王たちの一族や関係者の墓と理解され、一部の古墳は陵墓(皇室の墓)として宮内庁によって管理されている。構成資産は、日本全国にある 16 万基もの中から選ばれた古墳であり、古墳時代の最盛期と考えられている古墳時代中期(4世紀後半から5世紀後半)を代表するものである。本資産の「属性」は、49 基の墳墓、それらの幾何学的形状、築造方法と材料、濠、考古遺物と内包物(副葬品、埋葬施設、埴輪を含む)である。古墳のセッティング、大阪地域における古墳の視覚的存在感、古墳間のいまでも残る物理的・視覚的つながりは、重要な属性である。また、独特な葬送習慣と、儀礼のための使用の物証であることも同様である。</p>
--	--

<p>selected from a total of 160,000 kofun from around Japan and represent the 'middle kofun' period (late 4th to late 5th centuries) which is considered to be the peak of the Kofun period. The attributes of the property are the 49 burial mounds, their geometric forms, methods and materials of construction, moats, archaeological materials and contents (including grave goods, burial facilities and the haniwa). The settings of the kofun, their visual presence in the Osaka region, and the remaining physical and visual links between the kofun are important attributes; as is the evidence of the distinctive funerary practices and ritual uses.</p> <p>Criterion (iii): While 160,000 kofun are found throughout Japan, the Mozu-Furuichi Kofun Group represents and provides exceptional testimony to the culture of the Kofun period of Japan's ancient history. The 45 components demonstrate the period's socio-political structures, social class differences and highly sophisticated funerary system.</p> <p>Criterion (iv): The Mozu-Furuichi Kofun Group demonstrates an outstanding type of ancient East Asian burial mound construction. The role of the kofun in the establishment of social hierarchies within this particular and significant historical period, as well as the tangible attributes such as the clay sculptures, moats and geometric terraced mounds reinforced by stone, are outstanding.</p> <p>Integrity The Mozu and Furuichi groups of kofun provide a cohesive narrative of the kingly power</p>	<p>評価基準 (iii) 古墳は日本各地に 16 万基存在するものの、日本古代の古墳時代の文化を代表し、また類まれな物証を提供するものが百舌鳥・古市古墳群である。45 の構成資産は、この時代の社会政治的構造、社会的階層差および高度に洗練された葬送体系を証明している。</p> <p>評価基準 (iv) 百舌鳥・古市古墳群は、古代東アジアの墳墓築造のひとつの顕著な類型を示すものである。古墳、およびその有形の属性である土像、濠、幾何学的な段築をもち、石で補強した墳丘は、この歴史的に重要な時代における社会階層の形成のうえで顕著な役割を果たしたものである。</p> <p>完全性 百舌鳥グループと古市グループの古墳は、一体的な王権を物語るものである。それは、49 基の古墳の密集、さまざまな型式と規模、副葬品と埴輪、今日も続く儀礼における使用</p>
--	--

<p>expressed through the clustering of the 49 kofun, the range of types and sizes, the grave goods and haniwa, and the continuing ritual uses and high esteem that these sites hold within Japanese society. The integrity of the serial property is based on the rationale for the selection of the components and their ability to convey the Outstanding Universal Value of the kofun. The intactness of the individual components, the material evidence of the mounds and their context, and the state of conservation are also determinants of integrity. Issues that impact on the integrity of the serial property include loss of some features (such as moats), and changes to the uses and settings of the components due to the close proximity of urban development.</p>	<p>および日本社会の中で今なおたいへん重んじられていることによって表わされている。本資産の完全性は、構成資産選択の論拠、およびそれらの構成資産が古墳の顕著な普遍的価値を伝える能力に基づいている。個々の構成資産、物証としての墳墓および周辺環境が原状通りであること、そして保全状況も完全性の決定要因である。本資産の完全性に影響する課題としては、一部の特徴的な要素（例えば濠）が失われること、市街地開発に近接することからくる構成資産の用途や周辺環境（セッティング）の変化などが挙げられる。</p>
<p>Authenticity</p> <p>Despite changed uses and landscape treatments, and the high degree of 20th century urbanisation of the Osaka region, the kofun are a significant visible and historical presence within the present-day landscape. The authenticity of the selected kofun is demonstrated by their forms, materials and extensive archaeological contents, as well as the esteem which they engender in Japanese society. While the <i>Ryobo</i> generally demonstrate a high degree of authenticity, there are variations within the series. There is a need to ensure that seibi works are subject to impact assessment and reviewed in order to sustain the authenticity of the kofun.</p>	<p>真実性</p> <p>用途や景観が変化し、また大阪地域が 20 世紀に高度に市街化したにもかかわらず、古墳は今日の景観の中で重要な視覚的、歴史的存在感をもっている。構成資産に選ばれた古墳の真実性は、その形状、材料、豊富な考古学的内包物（遺構・遺物）、そしてそれらの古墳が日本社会から集めている尊崇の念によって証明されている。陵墓がおしなべて高度な真実性を証明している一方で、真実性の度合いは構成資産によってまちまちに異なる。古墳の「整備」行為／工事を遺産影響（H I A）評価の対象とし、古墳の真実性保持のため、確実に検証を行う必要がある。</p>
<p>Management and protection requirements</p> <p>Legal protection of the components is provided by national and local government laws. <i>Ryobo</i></p>	<p>保存管理と保護の要件</p> <p>国および地方政府の法令によって構成資産の法的保護がなされている。陵墓である構成資産は皇室典範と国有財産法により、史跡</p>



<p>components are protected by the Imperial House Law and the National Property Act; and the 'Historic Site' components are protected by the Law for the Protection of Cultural Properties. Some components have both designations. The Municipal Historic Sites are designated on the basis of the City Ordinance for the Protection of Cultural Properties, established in accordance with the Law for the Protection of Cultural Properties. Expansion of the buffer zone for component 44 is in progress. Buffer zone protection includes regulations that control the height and design of new buildings, as well as outdoor advertisements, based on a number of local laws.</p> <p>The management system is based on the establishment of the Mozu-Furuichi Kofun Group World Heritage Council (comprised of representatives of the Imperial Household Agency, and the relevant Prefectural and City Governments, with the Agency for Cultural Affairs as an Observer). The Council is advised by the Mozu-Furuichi Kofun Group World Heritage Scientific Committee. The Comprehensive Management Plan outlines the implementation of the protection and management of the property and the buffer zones. The Mozu-Furuichi Kofun Group World Heritage Council has overall responsibility for implementing the Action Plan and ensuring coordination between different organisations.</p> <p>The Osaka Prefecture and each of the relevant City governments has a Disaster Prevention Plan; and there are museums and interpretation facilities in the cities in Osaka Prefecture: Sakai, Habikino and Fujiidera. The Sakai City Government is planning a new interpretation facility in the Mozu area, which should be subject</p>	<p>である構成資産は文化財保護法により保護されている。一部の構成資産はその両方に該当している。市史跡は、文化財保護法に沿って制定された、市の文化財保護条例を基に指定されている。構成資産 44 については緩衝地帯の拡張措置がそれぞれ現在進行中である。緩衝地帯の保護については、複数の地方条例によって、新築建物の高さや意匠、および屋外広告物を規制している。</p> <p>保存管理システムは、百舌鳥・古市古墳群世界遺産協議会（宮内庁と関係自治体から構成され、文化庁がオブザーバーとして参加する）を中心とする。協議会は、百舌鳥・古市古墳群世界遺産学術委員会からアドバイスを受ける。包括的保存管理計画に、資産および緩衝地帯の保護と保存管理の実際の概要がまとめられている。百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産協議会が、行動計画の実行と組織間の調整の全体的な責任を負う。大阪府および関係するそれぞれの市が防災計画をもっている。博物館・ガイダンス施設が大阪府の堺市、羽曳野市、藤井寺市に存在する。堺市が百舌鳥エリアに計画中的の新しいガイダンス施設については、遺産影響評価を実施する必要がある。</p> <p>資産に影響を及ぼす要因としては、都市開発のごく近くに存在することに起因する事柄があり、それは緩衝地帯に深刻な圧力となる可能性がある。土製の墳丘の浸食、管理不十分な植物の繁茂、濠の水質管理の必要性などが、保全上の主な圧力となりうる。これらは、積極的に管理されている。保全措置は適切であり、十分な予算がとられているが、各行政庁、民間所有者およびコミュニティが良い連携を続ける必要がある。経過観察（モニタリング）の手法は適切であるが、その一方で墳丘の構造的な状態についての定期的なモニタリングを、発掘を伴わない方法で行う手法を開発したり、地元住民のコミュニティの関与や支援を観察する指標を設けることを通して、モニタリングをより強化する余地がある。</p>
--	---

<p>to Heritage Impact Assessment.</p> <p>Factors affecting this property are those associated with the close proximity of urban development, creating significant potential pressures on the buffer zones. Pressures on the conservation of the kofun occur through the erosion of the earthen mounds, poorly managed vegetation growth, and the need to maintain water quality of the moats. These are actively managed. The conservation measures are appropriate and well-resourced, although actions by the various governments, private owners and communities must continue to be well-coordinated. The monitoring arrangements are adequate, although they could be further enhanced through further development of non-invasive techniques for periodically monitoring the structural condition of the mounds, and indicators for monitoring the interests and support of local residential communities.</p> <p>4. Recommends that the State Party give consideration to the following:</p> <p>a) Continuing to document the intangible dimensions of the serial property,</p> <p>b) Completing the agreed adjustment to the buffer zone for Component 44,</p> <p>c) Completing the preparation of Basic Seibi Plans for the components designated as 'Historic Sites', ensuring their coherence with conservation objectives and the protection of Outstanding Universal Value,</p> <p>d) Considering the future use of non-invasive techniques of assessing the structural stability of the mounds,</p> <p>e) Considering providing for greater formal</p>	<p>4. 推薦国が以下を考慮することを勧告する。</p> <p>a) この資産における無形的な側面に関する記録を継続すること、</p> <p>b) 構成資産 44 [峯ヶ塚古墳] の緩衝地帯についての範囲に関するすでに合意された調整を終えること、</p> <p>c) 史跡指定されている構成資産に対して準備されている整備基本計画を完成させること。その際、計画と保存の目的および顕著な普遍的価値 (OUV) の保護との間の整合性を確実に担保すること、</p> <p>d) 発掘を伴わずに墳丘の構造的安定性を評価するための方法の将来的な利用について検討すること、</p> <p>e) 管理システムにおける地域住民のより</p>
--	--

<p>involvement of local residents in the management system,</p> <p>f) Further exploring how the buffer zones relate to the broader setting and what, if anything, needs protecting in the broader setting; and implement the subsequent measures,</p> <p>g) Reviewing and deepening the Heritage Impact Assessment for the proposed new interpretation centre (Sakai City) in light of the World Heritage inscription and adopted Statement of Outstanding Universal Value,</p> <p>h) Developing and implementing Heritage Impact Assessment for all future development proposals, including: plans for park development/improvements, Bicycle Museum, Daisen Park Improvement Plan, new/improved viewing platforms and the Nankai Railway Koya Line Railroad Elevation Project; Continuing to develop processes for Heritage Impact Assessment, including more direct linkages with the management system and the framework for legal protection of the property.</p>	<p>公式的な関与の在り方を検討すること、</p> <p>f) 緩衝地帯とその周辺環境の関係を踏まえて、必要に応じて周辺環境においてさらに保護すべき対象とその手段について検討すること、</p> <p>g) 計画されているガイダンス施設（堺市）の遺産影響評価について、世界遺産登録および採択された顕著な普遍的価値の言明に基づき、より検討を深めること、</p> <p>h) すべての将来的な開発計画について遺産影響評価の手法を開発し実施すること。具体的には、公園の開発・整備の計画、自転車博物館、大仙公園整備計画、展望場所の新設・改修、南海鉄道高野線の高架化事業など。保存管理システムと、資産の法的保護の枠組みをより直接結び付けることを含め、遺産影響評価の手続きの開発を継続すること。</p>
--	--

※P.114・115はページ番号が抜けていますが、本文に欠落はありません。